

市立横手病院年報

平成 22 年 度

市 立 横 手 病 院

平成22年度の病院事業を振り返って

横手市病院事業管理者 長 山 正四郎

平成22年3月31日付けで、自分は定年退職で院長職を辞することとなり、4月1日付で丹羽誠先生が新しく院長職に就任致しました。平成22年度の横手病院事業は丹羽新院長の統率のもとで進められることとなりました。自分は14年と8カ月の間、本当に多くの方々の御協力を得てどうにか院長職を続けて来ることが出来ましたが、病院の第Ⅲ期増改築工事が未完了の状況下にあったので、横手市病院事業管理者としてその完成までは職務上責任があるとの思いでその役職は継続させてもらうことになりました。従来通り診療なども同じように続けさせてもらいました。

平成21年2月から始まった第Ⅲ期病院増改築工事の第一段の節目は産科病棟の完成であったと思います。そして第二段の大きな節目は平成22年4月の新築棟の完成でした。大型連休明けの平成22年5月6日に新館正面玄関でテープカットを行い、同日より新館をフル稼働で開始しました。新築棟一階は正面玄関から入ると内科、泌尿器科外来があり、新たに救急外来部門、人工透析室、採血室が設置されました。二階フロアには当院の目玉となる消化器センター、健診センターが入居し、ゆとりある明るいスペースで診察、諸検査、計測、問診などを受けていただけるようになりました。三、四階は個室を多く作り、以前の病棟よりも室内のスペースにゆとりのある多床室（4人部屋）を備えた新病棟が生まれました。新病棟西側の窓からの景色は四季折々の横手の風情を満喫できるすばらしい眺めとなりました。

新築棟の三、四階の新しい病棟完成後は、それをフル活用して旧病棟の病室の改修工事を順次行うことができました。届け出なければならぬ病床数の変動、病棟毎の患者さんの移動、工事に伴う騒音、振動、それに安全の確保などなど大変な苦勞がありましたし、苦情も多く寄せられました。しかし多くの方々の暖かい御協力によって多床室の6人部屋を解消し、4人部屋への改修も平成22年11月一杯で終了し、病床数250床から225床に減らし、少しゆとりのある病室で全館がフル稼働できるようになりました。さらにこの間、外科、整形外科、小児科、眼科の外来診察室の移動もありましたが、院内の改修工事は一部を除き平成23年2月一杯で完了にこぎつけました。平成23年3月7日公園口の入口がオープンとなり全く新しく生まれ返った病院として診療開始となりました。

約2年に亘る長丁場の難工事でしたが、工期を遅らせることなく工事を完了させてくれた工事関係者の方々の熱意と努力、それに騒音、振動また頻回の病棟移動などで色んな面で迷惑を受けながら御協力下さった多くの患者さん、そして働く環境が悪化した中でも仕事に集中し、文句も言わずに完成を待ち続けてくれた病院職員にも心から感謝を申しあげたいと思いました。何よりも有り難かったことは工事期間中大きな事故がなかったことでただ感謝あるのみでした。

新しい病院で心機一転診療を開始した4日後の平成23年3月11日午後2時46分に東日本大震災が発生。東北地方は未曾有の大被害と多くの犠牲者を出し、多くの医療機関がその機能を失うという事態が生じました。そのような状況下で第Ⅲ期増改築工事を終えたばかりの当院は大

地震による被害を殆ど被ることなく、停電、断水という非常事態には遭遇しましたが、地域の第二次救急指定病院としての使命を十分発揮する機会を与えられましたし、病院の管理体制の充実さも確認できたことは有り難く思いました。東北大震災は病院職員の結束力を強める良い機会も与えてくれたように感じました。新しくなったこの病院を全職員が一致協力して良好な療養環境を作り上げ、そして診療内容も接遇態度も一流になれるよう努力し、地域住民から愛され信頼される病院作りに精励せねばとの意を強くしました。

次に病院の運営についてであります。全国的にみて医師や看護師をはじめとする医療スタッフの確保が難題となっております。当院は医師確保に関しては秋田県内では恵まれている部類に入っており、本年度も安心できる人員で推移することができました。看護科は年度途中の想定外の退職者が出たり、特別休暇の申請があったりでかなり厳しい状況下に置かれました。余裕のあるスタッフ確保が必要であることを教えられました。

病院の収支状況をみてみますと、前年度より開始となったDPC医療機関として保険診療を行っておりますが、新たな係数の導入があり当院は機能評価係数がアップされました。さらに幸いなことに前年度より入院患者は少し減少したものの、外来患者の増加が見られ病院としては久しぶりに大幅な増収となりました。しかし増改築工事に伴い医療器機の整備や購入で多額の投資がなされていますので、単年度決算のみで一喜一憂はできない状況となっております。世の中は不況感が漂い、較差社会が拡大し、医療に関しては受診抑制もみられております。このように病院を取り巻く医療環境は非常に厳しくなっております。この先も病院経営を継続する為には、積極的な設備投資などが必要です。又、今まで以上に新規設備や医療器機を上手に運用、活用して診療内容の充実になお一層の努力が必要と考えます。幸いにも当院では各部門から病院経営改善に寄与する良きデータやアイデアを提供してもらっています。それらの意見などを尊重しながら病院として進化してゆきたいと思っております。

考えてみますと平成22年度は慌しい1年でありました。新築棟の完成後の旧棟の改修工事に伴い、1年間は騒音や振動に悩まされる日々が続き多くの入院患者さんには御迷惑をおかけしましたし、病院職員も同様の環境下できつい勤務と苦悩に耐えてもらい、さらに病棟の引越し、外来診察室の再々移動などで精神的にも落ち着く暇がない1年であったと思っております。「喉元過ぎれば・・・」とやらで当時の厳しさを忘れかけておりますが、きっとその時の苦悩がいつの日か花開くと信じたいと思っております。

平成23年度は年度当初に駐車場が拡大整備されます。ベット数225床で前よりもゆとりある病室となります。新たに設置された消化器センター、健診センターを一つの売り物にして医療レベルを向上させ、活気ある医療活動を通じて地域の方々の信頼を得て、地域医療、保健、福祉に多いに貢献して欲しいと願います。

平成22年度年報発刊にあたり

横手市立病院院長 丹 羽 誠

平成22年度は (1)増改築工事最終段階の一年、(2)新しい運用、(3)豪雪と東日本大震災 であった。

(1)増改築工事

平成21年2月に着工された増築棟（C棟）が平成22年5月に完成し、内覧会の後、内科・泌尿器科外来、救急センター、消化器センター、透析室、健康管理センター、3C・4C病棟の運用が開始された。一方A・B棟の改築工事は、病棟や小児科・整形・外科・眼科外来が、引越しを繰り返して診療を継続しながら進められた。新型MRIを設置、生理・病理・脳波検査室、ドック宿泊室、感染症病棟が新装され、最後に旧MRI棟・旧感染症病棟の取り壊しに至った。工事中の騒音振動は、筆舌に表し難く、患者ご家族のご負担を察するに忍びなかった。『なんも、完成が楽しみ』と言葉をかけて頂いたこともあったが。

病棟大部屋はすべて4床となり、「患者様に優しい病院づくり」の主旨を全うできた。新総病床数229（一般225、感染症4）と25床分をsize downし、5病棟体制という、時代に求められた機能性をもつ体制となった。

(2)新しい運用

DPC対象病院として、入院期間短縮に向けた努力が行われた。5病棟体制となって看護師不足問題がさらに顕在化し、対応が求められた。看護師増員の決断をし、募集を繰り返した結果、思いの外の応募を得られたが、安心して働ける状況を作ることが課題である。全職員の協力で病院機能評価ver.6での認定更新を受け、日々の努力を評価されたが、さらなる課題も与えられ、進歩を続けることを確認した。

(3)豪雪、そして大震災

昭和48年の以来の豪雪であった。職員を含むすべての住民の生活、健康生命、財産の障害は大きなものであった。しかし、平成23年3月11日大震災の被害を思う時、豪雪に触れることも憚られる。私たちは与えられた場で、最善を尽くすのみ。当院は機能し、地域での被災によく対応したと、地域の住民・医療関係者に感謝された。医療スタッフ始め、給食・事務・ボイラー・売店などすべてのスタッフがすばらしく働いた。今後も、災害で地域の停電・断水が起きた場合、どこまで活動できるのか、どう準備するのか、喫緊の課題となった。

(4)最後に

患者ご家族からの1000万円余の寄付があった。『がん診療充実基金』とし、さらなる診療の質向上に寄与できるスタッフの養成、研修等に当てることとした。すべてのスタッフが、地域住民の信頼に応え、安心できる良質な医療の提供、心触れあう人間味豊かな対応を行うこと、当たり前であっても、日々実践の労は誠に多である。この組織としての平成22年度の活動を年報として記録する。

目 次

巻頭言	1	消化器科	38
目 次	4	循環器科	40
沿 革	9	呼吸器科・アレルギー科	42
基本理念・基本方針	15	外科	43
倫理綱領	16	整形外科	47
患者様の権利と責務	17	小児科	49
病院の概要	21	産婦人科	53
開設者	21	眼科	56
名 称	21	泌尿器科	57
所在地	21	放射線科	58
開設年月日	21	麻酔科	60
事業管理者	21	リハビリテーション科	61
病床数	21	救急センター	65
診療科目	21	薬剤科	66
看護体系	21	診療放射線科	67
医療機関の指定等	21	看護科	70
病院施設の概要	22	2 A病棟	75
病院統計	25	3 A病棟	76
収支決算	25	3 B病棟	78
診療科別入院患者数	27	3 C病棟	80
診療科別外来患者数	28	4 C病棟	81
新患患者数	29	外来	82
再診患者数	29	手術室・中央材料室・洗濯室	84
地域別患者数の状況	30	人工透析室	85
紹介患者数	31	訪問看護センター	87
救急患者統計	32	ME室	89
部門報告	35	臨床検査科	93
診療科	35	食養科	95
内 科	35	健康管理センター	98
老年科	35	事務局	100
脳神経内科	36	総務課	101

医事課	108	衛生委員会	153
医療安全管理室	110	患者サービス向上委員会	154
医療情報管理室	114	教育委員会	155
地域医療連携室	115	広報委員会	156
委員会活動	119	診療記録開示審査委員会	157
リスクマネージャー委員会	119	年報編集委員会	158
医療事故防止委員会	120	医療廃棄物管理委員会	159
院内感染予防対策委員会	121	防火管理委員会	160
倫理委員会	123	看護科の委員会	162
栄養管理委員会	124	教育委員会	162
N S T委員会	125	看護研究委員会	164
褥瘡対策委員会	126	計画記録委員会	165
緩和ケアチーム委員会	128	感染対策リンクナース	166
救急センター運営委員会	129	褥瘡対策リンクナース	167
手術室運営委員会	130	師長主任会議	168
糖尿病委員会	131	主任会議	169
輸血療法委員会	132	助産師会議	170
臨床検査適正化委員会	134	看護補助者会議	172
図書委員会	136	学術研究業績	175
臨床研修管理委員会	138	同好会活動	179
治験委員会	140	野球部	179
診療材料検討委員会	141	バレーボール部	180
病床運営委員会	142	職員等互助会	183
医療情報管理委員会	143	編集後記	185
電子カルテ委員会	144		
D P C委員会	145		
クリニカルパス委員会	146		
業務改善委員会	147		
地域交流推進委員会	148		
病院機能評価準備委員会	150		
薬事委員会	151		

沿 革

沿革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醜翻診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醜翻診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)
- 2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4～5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7～8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。
個室4床 201・218・367・420号室
2人部屋6床 350・321・422号室

- 5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定
「安心できる良質な医療の提供」
「心ふれあう人間味豊かな対応」
基本方針策定
「地域医療への貢献」
「患者サービスの充実」
「健全な病院経営」
運営方針策定
「急性期医療の充実」
「生活習慣病の予防」
「検診業務の拡大」
- 8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工
- 9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。
地域の人々に信頼される病院を目指します。
安心できる良質な医療の提供
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。
地域医療・保健に貢献します。
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行
- 3月25日～27日 病院機能評価受審
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生
- 11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催

- 2月10日 病院機能評価窓口相談
- 5月9日 新CT使用開始
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察
- 9月23日 閉市式 市民会館
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 10月1日 電子カルテ稼動
- 平成20年6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）
- 平成21年2月1日 増改築工事開始
- 3月6日 病院増築安全祈願祭

平成22年度の主な出来事

- 平成22年4月1日 辞令交付式
- 4月1日～4月6日 新規採用職員研修
- 4月22日 病院歓送迎会（松與会館）
- 5月6日 新館オープンセレモニー
- 6月13日 電気設備年次点検
- 7月5日～7月15日 秋大医学部3年次早期地域医療研修
- 6月14日～7月2日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 6月24日 春季防災訓練
- 7月18日 臨床研修病院合同説明会（東京都）
- 10月3日 職員採用試験
- 7月28日 ふれあい看護体験
- 8月15日 盆おどり
- 6月14日 医療安全研修会（働く女性が身を守る研修会）
- 9月3日 企業会計決算特別委員会
- 9月11日 全県病院対抗バレーボール大会（秋田市）
- 9月11日 研修旅行（仙台）

- 9月25日 研修旅行（仙台）
- 10月1日 コメディカル研究発表会
- 10月8日 横手保健所立入検査
- 10月14日 研修旅行（気仙沼）
- 10月26日 地域医療連携セミナー
- 10月27日 秋季防災訓練
- 10月30日～10月31日 研修旅行（東京）
- 11月6日～11月7日 研修旅行（東京）
- 11月21日 秋田県医療学術交流会
- 11月28日 職員採用試験
- 12月2日 東北厚生局施設基準監査
- 12月5日 市民と集う看護フォーラム
- 12月17日 病院忘年会（横手セントラルホテル）
- 12月23日 白衣のクリスマスコンサート
- 平成23年1月4日 年始式
- 2月10日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 2月16日 接遇研修会
- 3月5日 市民医学講座（かまくら館）
- 3月25日～3月31日 退職者辞令交付式

基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。

病院の概要

病院の概要

開設者	横手市長 五十嵐 忠悦
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	長山 正四郎
病床数	一般病床250床（第2病棟58床、第3A病棟67床、第3B病棟60床、 第4病棟65床）、感染症病床4床、計254床
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、 産婦人科、泌尿器科、眼科、心療内科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、 耳鼻いんこう科（休診）
看護体系	患者2.5：看護1、患者10：看護補助1

医療機関の指定等

指 定	救急告示指定 地域医療センター病院 臨床研修病院指定施設 母性保護法指定設備医療機関
認 定	財団法人日本医療機能評価機構認定 運動療法施設基準承認施設（運動療法施設、作業療法施設） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設 日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設

病院施設の概要

敷地面積 8172.16㎡

	構 造	建築面積(㎡)	延面積(㎡)	完成年月日
本館 (A棟)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	1,391.59	5,130.66	昭和60年8月24日
新館 (B棟)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	2,048.51	6,364.03	平成4年7月31日
検診センター棟	鉄骨造、地上2階	272.55	506.55	平成6年3月10日
MR I 棟	鉄骨造、地上3階	160.91	414.97	平成9年3月19日
本館 (C棟)	鉄筋コンクリート造、地上4階建、塔屋1階	1,353.50	4,524.95	平成22年4月15日
計		5,227.06	16,941.16	

病院統計

収支決算

貸借対照表

	平成 22 年度	単位:円
固定資産	5,289,044,028	
有形固定資産	5,288,016,448	
土地	308,147,245	
建物	1,730,704,092	
構築物	43,708,618	
器械及び備品	1,293,855,116	
車両	7,152,222	
建設仮勘定	1,904,449,155	
無形固定資産	1,027,580	
電話加入権	1,027,580	
流動資産	2,282,380,017	
現金預金	1,221,134,038	
未収金	1,004,824,513	
貯蔵品	56,421,466	
その他流動資産	0	
資産合計	7,571,424,045	
流動負債	228,617,454	
未払金	207,176,352	
預り金	21,441,102	
預り有価証券	0	
負債合計	228,617,454	
資本金	7,151,270,370	
自己資本金	3,092,082,153	
借入資本金	4,059,188,217	
企業債	4,059,188,217	
剰余金	57,285,000	
資本剰余金	57,285,000	
受贈財産評価額	0	
他会計負担金	57,285,000	
他会計補助金	0	
国県補助金	0	
利益剰余金	165,481,470	
減債積立金	1,860,000	
当年度未処分利益剰余金	163,621,470	
欠損金	31,230,249	
当年度未処理欠損金	31,230,249	
資本合計	7,342,806,591	
負債資本合計	7,571,424,045	

収益的収支決算（税抜き）

科目	平成 22 年度
病院事業収益	4,952,719,481
医業収益	4,630,159,851
入院収益	2,854,147,397
外来収益	1,525,351,463
その他医業	250,660,991
医業外収益	322,559,630
受取利息及び配当金	351,959
国県補助金	15,463,000
他会計補助金	5,848,850
他会計負担金	279,801,000
その他医業外収益	21,094,821
特別利益	0
病院事業費用	4,789,098,011
医業費用	4,717,188,566
給与費	2,677,895,831
材料費	1,181,889,600
経費	496,083,642
減価償却費	323,669,359
資産減耗費	20,455,555
研究研修費	17,124,579
重量税	70,000
医業外費用	64,852,331
支払利息及び企業債取扱諸費	63,850,480
雑損失	1,001,851
特別損失	7,057,114

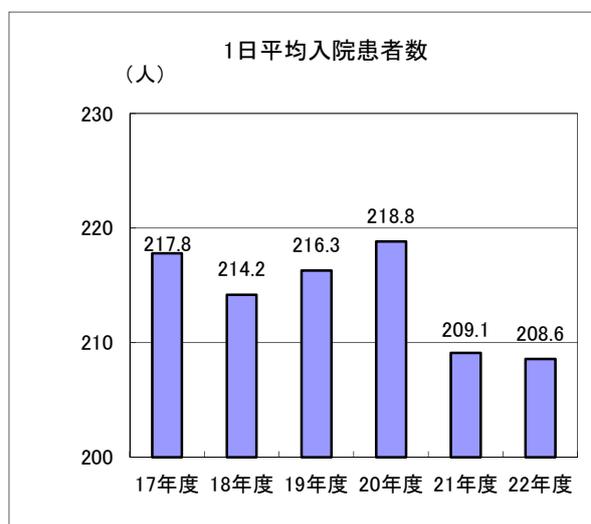
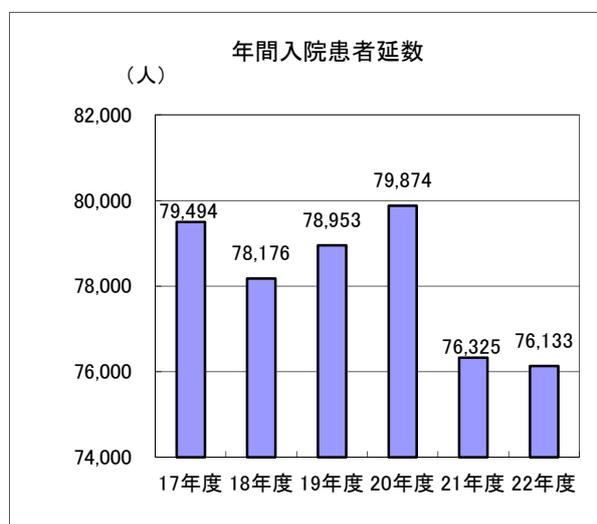
単位：円

資本的収支決算

資本的収入	1,169,466,000
他会計出資金(H18より)	336,666,000
企業債	832,800,000
固定資産売却代金	0
資本的支出	1,632,964,884
建設改良費	1,185,832,643
企業債償還金	447,132,241
差引収支不足額	△ 463,498,884
補てん財源	463,498,884
過年度分損益勘定留保資金	463,498,884

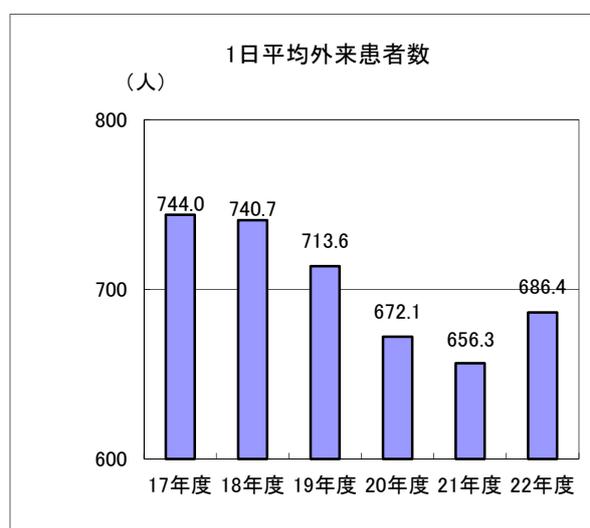
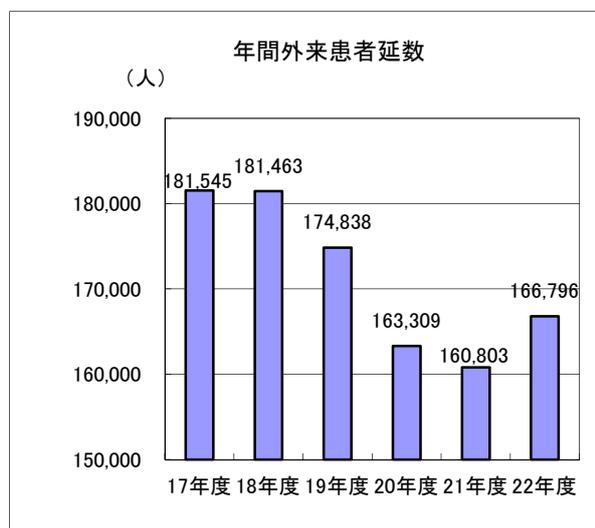
診療科別入院患者数

科	年間入院患者延数						1日平均入院患者数					
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内科	7,668	7,929	8,256	3,174	2,345	2,331	21.0	21.7	22.6	8.7	6.4	6.4
呼吸器科	5,382	7,034	7,494	7,309	8,280	5,289	14.7	19.3	20.5	20.0	22.7	14.5
消化器内科	18,914	18,022	24,822	27,180	28,561	30,189	51.8	49.4	68.0	74.5	78.2	82.7
循環器内科	9,314	7,716	9,540	12,732	6,643	5,724	25.5	21.1	26.1	34.9	18.2	15.7
外科	11,851	14,397	13,653	13,981	12,718	12,220	32.5	39.4	37.4	38.3	34.8	33.5
整形外科	11,751	9,999	4,895	5,745	9,992	10,978	32.2	27.4	13.4	15.7	27.4	30.1
産婦人科	4,304	4,074	3,169	3,446	3,025	4,029	11.8	11.2	8.7	9.4	8.3	11.0
小児科	5,656	4,285	3,842	3,562	2,475	2,735	15.5	11.7	10.5	9.8	6.8	7.5
泌尿器科	4,654	4,720	3,282	2,745	2,236	2,535	12.8	12.9	9.0	7.5	6.1	6.9
麻酔科					50	103						0.3
計	79,494	78,176	78,953	79,874	76,325	76,133	217.8	214.2	216.3	218.8	209.1	208.6



診療科別外来患者数

科	年間外来患者延数						1日平均外来患者数					
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内科	41,620	41,654	46,973	43,193	43,365	42,841	170.6	170.0	191.7	177.7	177.0	176.3
呼吸器科	3,519	5,265	5,078	5,388	4,740	4,557	14.4	21.5	20.7	22.2	19.3	18.8
消化器内科	18,625	16,571	17,060	17,725	18,719	20,588	76.3	67.6	69.6	72.9	76.4	84.7
循環器内科	13,335	13,636	14,425	13,288	11,300	11,372	54.7	55.7	58.9	54.7	46.1	46.8
外科	14,647	15,565	15,473	15,050	14,432	15,292	60.0	63.5	63.2	61.9	58.9	62.9
整形外科	28,478	26,881	20,321	17,968	19,717	22,205	116.7	109.7	82.9	73.9	80.5	91.4
産婦人科	7,348	7,959	7,032	6,814	6,432	7,346	30.1	32.5	28.7	28.0	26.3	30.2
小児科	38,562	38,025	33,790	30,118	26,896	26,017	158.0	155.2	137.9	123.9	109.8	107.1
泌尿器科	14,224	14,640	13,377	12,557	13,330	13,746	58.3	59.8	54.6	51.7	54.4	56.6
眼科	1,187	1,267	1,309	1,208	1,571	2,070	4.9	5.2	5.3	5.0	6.4	8.5
麻酔科					301	762						
計	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	744.0	740.7	713.6	672.1	656.3	686.4



新患患者数（外来）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内科	753	916	817	936	881
外科	248	206	156	152	155
整形外科	568	281	239	289	428
婦人科	139	118	102	88	124
小児科	759	563	343	375	327
泌尿器科	76	62	46	42	64
眼科	2	4	0	7	7
心療内科	2	3	1	3	1
アレルギー・呼吸器内科	117	75	68	15	6
消化器内科	164	255	215	185	143
循環器内科	97	85	43	6	16
放射線科	9	4	19	11	62
人工透析	7	3	1	0	0
麻酔科（ヘインクリニック）	0	0	0	8	6
合計	2,941	2,575	2,050	2,117	2,220

再診患者数（外来・延べ）

診療科	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内科	26,403	29,806	27,177	27,669	28,032
外科	12,327	12,296	11,934	11,599	12,184
整形外科	20,390	15,733	14,313	15,691	17,627
婦人科	4,628	4,308	4,220	4,314	4,752
小児科	26,551	21,882	19,795	16,592	16,582
泌尿器科	6,390	5,655	4,773	5,120	5,473
眼科	1,005	1,028	1,009	1,236	1,615
心療内科	803	1,674	1,467	1,518	794
アレルギー・呼吸器内科	3,945	4,065	4,407	3,987	3,898
消化器内科	13,567	13,764	14,594	15,399	17,003
循環器内科	10,700	11,440	10,961	9,476	9,354
放射線科	74	73	72	100	112
訪問看護センター	1,430	1,877	2,154	1,436	1,035
麻酔科（ヘインクリニック）	5,167	5,932	6,312	239	642
合計	133,380	129,533	123,188	120,919	125,424

地域別患者数の状況

【入院】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
横手市	37,153	36,628	36,693	35,090	33,944	34,190	32,871
平鹿町	8,343	8,363	8,696	8,338	8,707	9,029	8,000
雄物川町	5,233	5,212	4,701	3,737	3,837	4,140	3,820
大森町	1,182	1,111	989	709	866	1,161	673
大雄	2,825	2,708	2,240	2,278	2,340	1,939	2,283
十文字町	5,713	5,697	5,489	6,519	6,782	5,614	6,482
増田町	2,759	2,799	2,609	3,922	3,964	2,535	3,015
山内	4,420	4,321	4,903	4,376	3,745	3,803	3,191
美郷町	4,506	4,397	1,591	1,868	1,513	1,250	323
湯沢・雄勝	4,878	5,056	6,479	8,651	10,576	8,620	9,009
大仙・仙北	924	941	1,930	2,347	2,564	3,057	3,326
湯田町	468	448	529	693	463	477	935
その他	2,486	1,813	1,527	425	573	510	2,205
合計	80,890	79,494	78,376	78,953	79,874	76,325	76,133

【外来】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
横手市	98,831	98,943	93,178	88,798	80,959	78,338	79,024
平鹿町	19,662	20,179	19,055	17,941	16,359	16,239	16,547
雄物川町	10,211	10,369	10,501	9,809	8,606	8,533	8,878
大森町	3,297	3,300	3,118	2,809	2,663	2,401	2,315
大雄	6,115	6,223	6,481	5,792	5,711	5,339	4,782
十文字町	9,890	10,340	12,012	11,682	11,611	11,951	12,529
増田町	5,204	5,362	6,775	6,515	6,233	6,045	6,592
山内	7,664	7,734	7,392	7,001	6,173	6,006	5,903
美郷町	5,514	5,161	4,182	3,926	3,128	2,957	1,275
湯沢・雄勝	8,017	8,255	11,609	13,473	14,463	14,884	16,370
大仙・仙北	2,044	2,013	4,124	4,738	5,176	5,479	7,885
湯田町	803	838	764	820	840	773	1,018
その他	3,029	2,828	2,272	1,534	1,387	1,858	3,678
合計	180,281	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796

紹介患者数（科別）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内 科	321	316	167	165	175
消化器科	493	664	746	770	916
循環器科	149	188	130	124	136
呼吸器科	123	106	80	95	72
外 科	157	124	132	125	140
整形外科	356	248	246	315	332
婦人科	207	169	156	181	199
小児科	487	375	310	291	272
泌尿器科	110	69	112	89	99
眼 科	9	4	6	17	45
心療内科	4	20	9	9	12
麻酔科				20	15
放射線科	707	590	712	760	712
計	3,123	2,873	2,806	2,961	3,125

救急患者統計

救急患者数	救急車	その他	帰宅		入院		転送		その他		軽症		中等症		重症		死亡	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
18年度	16,186	647	15,539	94.40%	853	5.30%	21	0.10%	31	0.20%	15,302	94.50%	594	3.70%	259	1.60%	31	0.20%
19年度	14,694	701	13,993	93.50%	896	6.10%	31	0.20%	35	0.20%	13,763	93.70%	584	4.00%	312	2.10%	35	0.20%
20年度	12,070	680	11,390	92.80%	808	6.70%	32	0.30%	29	0.20%	11,232	93.10%	490	4.10%	318	2.60%	29	0.20%
21年度	12,946	706	12,240	93.10%	821	6.30%	33	0.30%	35	0.30%	12,085	93.30%	486	3.80%	335	2.60%	35	0.30%
22年度	11,241	882	10,359	82.80%	892	7.90%	27	0.20%	35	0.30%	10,314	91.80%	556	4.90%	336	3.00%	35	0.30%

	内科	小児科	整形外科	外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	計
18年度	5,061	8,204	1,495	1,043	230	153	0	16,186
19年度	5,193	7,286	995	913	160	146	1	14,694
20年度	4,366	5,766	803	893	104	136	2	12,070
21年度	4,769	6,480	810	595	173	114	5	12,946
22年度	4,336	4,733	1,038	808	173	143	10	11,241

横手市内のみ

	横手市	増田町	平鹿町	雄物川町	大森町	十文字町	山内	大雄	計
18年度	7,176	805	1,702	951	377	1,366	774	673	13,824
19年度	6,702	720	1,564	795	273	1,235	674	535	12,498
20年度	5,288	575	1,342	656	192	1,112	564	447	10,176
21年度	5,791	632	1,392	695	249	1,181	605	438	10,983
22年度	5,165	497	1,201	571	147	1,016	488	369	9,454

部門報告

部 門 報 告

診療科

内 科

老 年 科

平成22年度の糖尿病・内分泌の診察は、引き続き（月曜日）清水、（火曜日）細葉、（木曜日）佐藤が担当させて頂いた。外来の予約患者数が増加したため、長山先生、奥山先生にも診察をご協力頂き、1日の平均再来数は40～60名程度になっている。診療疾患は、糖尿病、高血圧、脂質異常症が大部分で、次いで甲状腺疾患、下垂体、副腎等の内分泌疾患の順となっている。

院内の先生からは、主に周術期の血糖コントロールや電解質異常等でご紹介を頂いており、入院中の患者様に関しては当科の各医師が連携して週2～3回の診察を行っている。開業医の先生方から糖尿病、内分泌疾患などご紹介頂く際には、できるだけ待ち時間が少なくなるように、予約枠とは別の時間に来院して頂いて診察する等の対応をしている。また入院治療が必要な場合は、当院に常勤医師がいないため、秋田大学糖尿病内分泌内科へ紹介または、当院の消化器内科の先生に入院治療をお願いしている。今後も、消化器科を始め院内の先生方にご迷惑をおかけすることも多いと思うが、地域医療に貢献できるように努力していきたいと考えている。

<文責 細葉美穂子>

脳神経内科

スタッフ：医師 塩屋 斉
外来診察助手 佐藤春子（月、木）
外来診察助手 高橋香里（水）
外来診察助手 梅川素子（金）

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来
火曜日（午後）・・・脳ドック
水曜日（午前・午後）・・・頭痛外来
木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来
金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成22年度頭痛初診患者数：総計865人（男性231人、女性634人）

片頭痛： 567人（男性120人、女性447人）
緊張型頭痛：206人（男性 55人、女性151人）
群発頭痛： 18人（男性 15人、女性 3人）
神経痛： 71人（男性 27人、女性 44人）
副鼻腔炎： 40人（男性 21人、女性 19人）
外傷後： 3人（男性 1人、女性 2人）
その他（くも膜下出血、脳出血、動脈解離、脳腫瘍、他）：23人
上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は49人で全体の5.7%を占めていた

平成22年度疾患別入院患者数：総計45人

脳梗塞： 35人
一過性脳虚血発作： 2人
くも膜下出血： 1人
脳腫瘍： 1人
めまい発作： 3人
神経痛発作： 1人
意識障害： 1人
誤嚥性肺炎： 1人

「講演・学会発表」

平成22年3月5日（金）

Headache Clinical Seminar：頭痛診療の実践（問診編）（日常よく遭遇する頭痛編）

「明日から役立つ片頭痛の診断と治療」

ホテルプラザアネックス横手

平成22年 5月20日（木）

第51回日本神経学会総会イブニングセミナー

「頭痛専門医はこう診る：明日からドクターも患者さんもハッピーに」

「正攻法の頭痛診療 頭痛外来の真骨頂：問診と説明」

東京国際フォーラム

平成22年 7月 9日（金）

Eisai Clinical Seminar

「慢性頭痛の診断と治療：使用する薬剤とその選択」

秋田拠点センター「アルヴェ」

平成22年11月12日（金）

本荘由利保健会研修会

「頭痛外来へようこそ：小児に多い頭痛を中心に」

由利本荘市西目公民館「シーガル」

「番組出演」

平成22年 2月14日（日）

A B Sテレビ「知っとく医療のつぼ」「ズキンズキンと脈打つ痛み 片頭痛」

平成22年 4月23日（金）

A K Tテレビ「知っとく！メディカル情報」「頭痛外来について」

「当院頭痛外来の書籍掲載」

健康雑誌「夢21」2010年 1月号 「頭痛持ちの本当の根治法がわかる頭痛診断室」

健康雑誌「日経ヘルス」2010年 8月号 「女性のお悩み解決手帳 片頭痛」

<文責 塩屋 斉>

消化器科

消化器内科医師

船岡 正人	
藤盛 修成	
奥山 厚	
小田嶋 傑	
武内 郷子	
渡部 昇	(後期研修医 2年目)
木下 幸寿	(後期研修医 2年目)
荒田 英	(後期研修医 1年目)
中島 裕子	(週 2回腹部超音波検査担当)
佐藤美知子	(週 1回腹部超音波検査担当)

平成22年5月より病院増築棟の消化器センターが稼動し、1つのエリアで消化器内科の診察、内視鏡検査、超音波検査、検査前処置が行えるようになり、われわれスタッフはもちろん、患者さんにとっても利便性が向上した。スタッフとしては後期研修2年目の渡部先生、木下先生の成長が著しく、消化管止血術や胃ESDなどの治療手技を問題なく行えるようになってきている。今年度はさらに仙北組合病院で初期研修を終えた荒田先生が後期研修1年目として加わり、後期研修医は計3名となった。

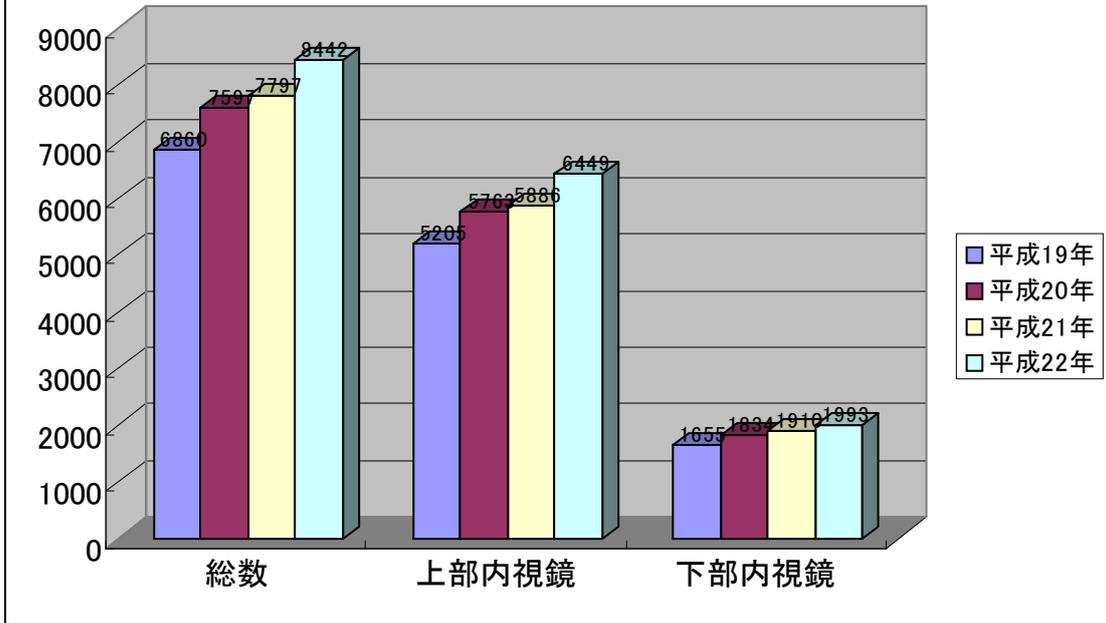
消化管の分野では上部・下部内視鏡検査は検査件数が毎年増加傾向にあるが、本年度も昨年に比し増加を認めた。治療に関しても食道・胃・大腸の早期癌に対する治療内視鏡をはじめ、小腸疾患のカプセル内視鏡、小腸内視鏡による診断・治療と消化管疾患の幅広い診断・治療がなされてきている。また、今年度からラジアル型およびコンベックス型超音波内視鏡もそろい、課題であったEUSによる画像診断とEUSFNAを常時施行することが可能となった。内視鏡件数・治療内視鏡の増加に関しては、新しい内視鏡室のスペースで問題なく行われ、快適な環境であった。ただし、コメディカルのマンパワーが不足で個人への負担が大きいことが問題として残っている。

肝癌に対してはEOBプリモビスト造影MRI、造影US、Realtime virtual Sonography(RVS)などの画像診断を駆使して診断し、みえづらい病変でも人工腹水・胸水下、あるいは外科と協力して腹腔鏡・胸腔鏡超音波ガイド下でRFAを行うようにしている。

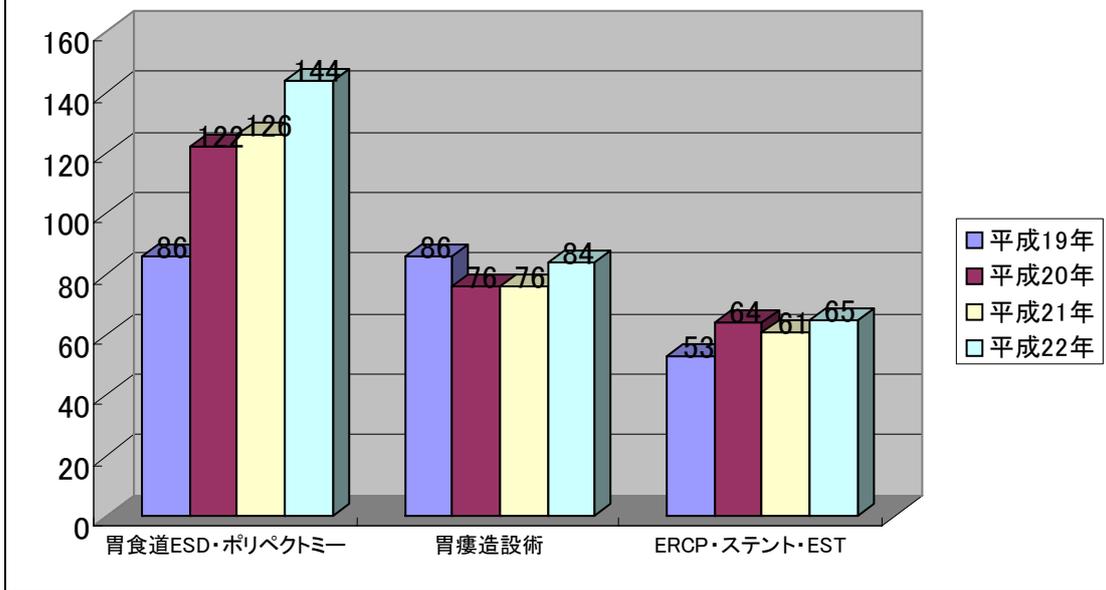
今年度は主として後期研修医が、DDWや地方会などの学術集会で多数の演題を発表した。これと続けると同時に、継続した研究課題をもって日常診療にあたっていく必要があると考える。

<文責 船岡正人>

内視鏡検査数の推移



治療内視鏡の推移



循環器科

スタッフ

常勤医師

循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

大嶋 聡子 (生理検査室)

外来診察助手

金子 洋子 (循環器科担当)

検査 (平成22年4月1日から平成23年3月31日)

心臓カテーテル検査	35件
心臓超音波検査	1613件 (経食道心臓超音波検査含む)
頸動脈超音波検査	252件
ホルター心電図	290件
トレッドミル	5件
24時間心電血圧計	2件
ペースメーカー植え込み	13件 (新規 6、交換 7)
体外ペーシング	3件
下大静脈フィルター留置	2件
血圧脈波検査	406件
CCO用スワンガンツカテーテル留置	1件

循環器科の体制は、これまで通り、根本・和泉の2人体制である。同級生コンビは相変わらずであるが、年々くたびれてきた感は否めない。コメディカルスタッフのバックアップの下、例年通りの仕事をこなしてきた。

各検査ともに検査数に大きな変化はなかった。心エコー装置が待望の更新となり、立ち上がらなかったり、検査中に電源が落ちてしまったり、というトラブルが無くなって非常にストレスがなくなった。

病院増改築に伴う、診察室の変更、生理検査室の変更があった。診察室に関しては問題なかったが、生理検査室は病院の都合により当初の予定通りに行かず、今までの場所に、2階生理検査室の機能もあわせて行うこととなった。スタッフ全員で、設計を練ってきたのに非常に残念である。新しい生理検査室を新たに設計し、新たな場所への移動となる。

循環器科は必修であるため、臨床研修はこれまでどおり、すべての研修医に心エコー、心カテを経験してもらっている。研修時期によって、心カテ件数に差があるが、続くときは毎週1-2

件を経験することができる。研修期間が当初は2ヶ月であったのに、選択期間にもう一度研修に来てくれたり、延長してくれたりする研修医もおり、指導医としてはうれしい限りである。現在研修中の一人が、将来循環器内科医を目指すと決定してくれた事は、当地区で細々と循環器をやっている二人としては、今年度の朗報である。

診療については、降圧剤の合剤が次々に発売されている。その使い分けなどを考えると、今後の高血圧治療はより選択の幅が広がる分、迷うこともありそうである。しかしながら、当院における降圧剤の採用方針が今ひとつ不透明であり、当科としては困惑している。いずれ、採用された薬剤の枠の中で最善を尽くすしかないと思っている。

最後に、年度末の3月11日に東日本大震災が発生した。幸い、当地区への大きな被害はなかったが、停電、断水などの影響が当院にも及んだ。また、県南の循環器治療の基幹病院である平鹿病院の機能がダウンし、一時、体外補助循環・人工呼吸管理中の患者の受け入れ要請があった。幸い、電源車の急行で、搬送とはならず、在宅人工呼吸管理の方の受け入れのみで済んだ。医局スタッフ、病院全体での協力で、乗り切ることはできたが、非常時の体制について考えさせられた。今後、このような非常事態が起こらないことを祈る。

<文責 和泉千香子>

呼吸器科・アレルギー科

<診療内容の概要>

現在、火（竹田）、水・金（齋藤）に外来を行っている。外来では、気管支喘息、肺気腫等については主に竹田が、その他呼吸器全般、特殊なアレルギー疾患については齋藤が担当している。近年は肺癌患者が増加しており、入院および外来にて化学療法を行っている。また、肺気腫、結核・非結核性抗酸菌後遺症等による慢性呼吸不全患者に対し、在宅酸素やNIPPV（非侵襲的陽圧換気装置）を導入している。

<特徴・特色>

気管支喘息などアレルギー疾患はストレスにより増悪する（心身相関する）という報告が多数あり、また呼吸器科においては、過呼吸症候群、原因不明の胸苦、肺がん患者など、心療内科的・緩和医療的アプローチが非常に重要となってきている。当科では平成20年度から、問診・症状によって心療内科的アプローチが必要と考えられた症例には積極的に心理テストを行い、心身症、神経症、うつ病等の鑑別を行い、心身両側面から診断・治療を行うよう心がけている。

<文責 齋藤紀先>

外科

総括

消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。4月1日付で丹羽副院長が院長に就任し日常的に手術に携わることが不可能になったが、さらにコミュニケーションを図ってチームによる質の高い診療を目指した1年間であった。

スタッフ

常勤

- ・ 丹羽 誠 (S55秋田卒) 院長
- ・ 吉岡 浩 (S59自治卒)
- ・ 粕谷 孝光 (S63秋田卒)
- ・ 加藤 健 (H6秋田卒)
- ・ 若林 俊樹 (H14秋田卒)
- ・ 本郷麻依子 (H20秋田卒) 外科専門研修1年目

専門医修練認定施設関係

- ・ 日本外科学会専門医制度関連施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設

人事動向

- ・ 冒頭にも述べたが4月1日付で丹羽副院長が院長に就任され、外科の業務は外来（予約・予約外を各週一日、乳腺専門外来週2回）と手術は乳腺の大部分・甲状腺・肺に携わっていただいた。多忙にもかかわらず、外科診療については引き続き御指導いただいた。
- ・ 本郷医師は当院における2年間の臨床研修を修了し、平成22年4月から3年間の外科専門研修のため当科に所属し、積極的に手術経験を積んだ。
- ・ 今までどおり毎週（水）午後到大森病院の藤田先生に手術応援をして頂いた。
- ・ 臨床研修医の外科研修は、本年度はなかった。

診療関係

- ・ リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高貝先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC佐藤美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。
- ・ 専門外来の乳腺外来は、週2回完全予約制も軌道に乗り、丹羽院長が担当した。確実に患者さんの増加もあり手術症例の増加につながったと思われる。センチネルリンパ節生検も標準術式となり、これは平鹿病院病理診断科の御協力があることである。
- ・ 平成21年に待望していた麻酔科常勤医寺田先生（麻酔学会指導医）を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。横手市梅の木クリニック松元茂先生には月間6～7日の午後からの麻酔

にご協力をお願いし、麻酔科一人体制を支えるため各診療科でも協力を行った。ただし秋大麻酔科からの週1回の派遣は当面うちきられることになった。寺田先生・松元先生の御協力によって、手術症例が増えるなかでもスムーズに手術が行える体制をしいていただいた。

- ・ 肺悪性で縦隔郭清を前提とする症例の手術では、秋田大学呼吸器外科小川教授に今年も御指導を頂いた。
- ・ 消化器癌、乳がん化学療法選択枝増大に伴い、オーダーリングでの標準化、パスの整備を行った。薬剤師の積極的関与が進み、診療の質の向上に貢献している。
- ・ DPC診療体制にあわせたパスの整備、退院調整に努めた。
- ・ 小川感染管理認定看護師と協力し、昨年に引き続きSSIサーベイランスを日常業務とした。
- ・ 病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週1回金曜日午後のカンファレンスを丁寧に行うように務めた。

<文責 吉岡 浩>

外科手術件数

疾患名	数	鏡視下手術件数、再掲
食道悪性	1	
胃良性	1	
胃悪性全摘	21	1
胃悪性幽門側	18	3
胃悪性噴門側	3	1
胃悪性その他	23	5
胆摘(胆石・胆のう炎)	54	46
うち術中胆管切石		
膵・胆管・胆のう悪性	17	
胆道良性		
肝悪性	5	
うちRFA	2	
結腸良性	4	
結腸悪性	40	12
直腸悪性	16	
成人虫垂切除	28	28
腸閉そく	9	
腹膜炎	21	1
小腸良性	2	
炎症性腸疾患		
その他の消化器	12	1
成人鼠径・大腿ヘルニア	58	
閉鎖孔ヘルニア		
痔核	24	
痔ろう・肛門周囲膿瘍	9	
その他	4	
乳腺良性	4	
乳腺悪性	23	

肺良性	3	
肺悪性	5	
副甲状腺		
甲状腺良性		
甲状腺悪性	5	
中心静脈ポート	26	
成人その他	61	
小児鼠径ヘルニア	6	
小児虫垂切除	8	8
小児その他		
術式総計	513	
全麻	348	
腰麻	22	
局麻	97	
症例数	467	

・総説

- 1) 若林俊樹, 加藤健, 粕谷孝光, 吉岡浩, 丹羽誠 : S状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻の1例. 日本外科学系連合学会誌35(2) : 189- 192, 2010
- 2) 加藤健, 本郷麻依子, 若林俊樹, 粕谷孝光, 吉岡浩, 丹羽誠 : 直腸gastrointestinal stromal tumor局所再発に対し経直腸的ラジオ波焼灼療法が有効であった1例. 日本消化器外科学会雑誌44(1) : 92- 99, 2011
- 3) 加藤健, 本郷麻依子, 若林俊樹, 粕谷孝光, 吉岡浩, 丹羽誠, 泉純一, 平野弘子, 高橋正人 : 胸部CT上スリガラス様陰影(GGO)を呈した乳癌肺転移の1例. 臨床外科66(2) : 251- 256, 2011
- 4) Jun-ichi Izumi, Hiroko Hirano, Hiroshi Yoshioka, Jun Takisawa. Computed tomography findings of spontaneous perforation of pyometra. Jpn J Radiol 2010;28:247-249

学会発表

全国

第15回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 東京

- 1) 齋藤紀先, 若林俊樹, 茆原真美, 丹羽誠, (2010) 術後肺癌患者の慢性的症状に対する抑うつおよび不安検査心理テストの有用性について

第23回日本サイコオンコロジー学会，6月，名古屋

齋藤紀先，丹羽誠，芦原睦，柴田浩行，小川純一（2010）術後慢性的症状を訴える肺癌患者に対する心理テストを用いた抑うつ・不安の評価と交流分析的評価の試み

第34日本死の臨床研究会 年次大会，11月，盛岡

1) 丹羽誠，（2010）シンポジウム I 地域で看取る

第72回日本臨床外科学会総会，11月，横浜

- 1) 若林俊樹，加藤健，粕谷孝光，吉岡浩，丹羽誠（2010）特発性大網捻転に対し腹腔鏡下切除術を施行した1例
- 2) 本郷麻依子，若林俊樹，加藤健，粕谷孝光，吉岡浩，丹羽誠（2010）S状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻の1例
- 3) 加藤健，本郷麻依子，若林俊樹，粕谷孝光，吉岡浩，丹羽誠（2010）肛門外脱出したS状結腸癌に対し自動吻合器を用い経肛門的腸切除術施行した1例

地方会

第26回日本臨床外科学会秋田県支部例会，9月4日，秋田

- 1) 本郷麻依子，加藤健，若林俊樹，粕谷孝光，吉岡浩，丹羽誠（2010）直腸GIST局所再発に対するRFA療法が有効であった1例

第190回日本消化器病学会東北支部例会，2月，仙台

- 1) 渡部昇，小田嶋傑，藤盛修成，奥山厚，武内郷子，木下幸寿，船岡正人，吉岡浩，加藤健（2010）粘膜下腫瘍様の形態を呈した多発胃粘液癌の1例
- 2) 荒田英，渡部昇，木下幸寿，武内郷子，小田嶋傑，奥山厚，藤盛修成，船岡正人，加藤健，本郷麻依子（2010）貧血を契機に発見され腸重積を伴った小腸脂肪腫の1例
- 3) 木下幸寿，小田嶋傑，藤盛修成，奥山厚，中島裕子，武内郷子，渡部昇，船岡正人，加藤健，吉岡浩（2010）胆石イレウスの2例

第41回日本超音波医学会東北地方会学術集会，3月，仙台

- 1) 本郷麻依子（2010）USが診断に有用であった小腸重積症の二例

整形外科

スタッフ

平成22年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

看護師：小野ゆう子

谷藤 文子

清水まゆ美

事務：藤原真喜子

概要、平成22年度特記事項、業務内容

【外来】

常勤医2名で外来診察を行った。毎週月曜には秋田大学整形外科教室より応援医師を派遣していただき外来診療を手伝ってもらった。また研修医の佐々木研先生が5ヶ月間整形外科研修で一緒に仕事をした。

外来患者数 1,850人/月、91.4人/日であった。相変わらず増加傾向にある。

【入院】

入院患者総数 10,978人/年、30.1人/日であった。入院患者数も年々増加し、手術件数も増加傾向である。22年5月には新病棟に移動したため、病床数の減少を余儀なくされているが、在院日数の短縮により何とか工夫している。

手術件数

脊椎		102
腰椎	ヘルニア切除術	30
	開窓術	31
	PLIF	21
胸椎		2
頸椎	拡大術・固定術	12
骨折		142
	大腿骨骨接合術	45
	大腿骨人工骨頭挿入術	5
	その他骨接合術	97
人工関節置換術		20
	THA	7
	TKA	13

手根管・肘部管開放術	16
膝関節疾患	13
その他	64
総数	357

常勤医2名の体制となって2年目であり、外来患者が増加傾向にある。手術件数も富岡医師の活躍により非常に増加した。2人ではこなせない数であったが、整形外科志望の研修医である佐々木研先生が数ヶ月一緒に仕事をしてくれたため、何とかこなったようである。

今年の冬は豪雪の影響もあり、外傷患者が毎日のように搬送されてきた。手術も毎日行っていたが、手術中にもどんどん救急外傷が運び込まれ救急搬送の依頼を断ざるを得ない患者さんもいた。他病院でも整形外科医の忙しい状況は同様に圏外に搬送をお願いしなければいけない患者さんもいらっしまった。もはや救急対応は我々整形外科医だけでは対処しきれず、病院全体あるいは広域での対策を考えていく必要がある。

今年の5月から新築病棟に移転し、よりよい環境での治療を患者さんに提供できるようになった。術後の感染を常に心配している我々にとっては、個室が大幅に増えたことで心配の種が少し減ったところである。手術も脊椎以外に外傷の手術例が増えてきており、研修医にとっては、充実した研修施設となっている。関節疾患も安定した成績が定着しており、手術を希望される患者さんが増加傾向にある。ただ患者層の高齢化に伴い、合併症を抱える患者さんが多く、内科などと連携しなければいけない症例が増えてきている。患者数に対する整形外科医の数はまだまだ足りず、増員にむけて努力していかなければならない。

<文責 江畑公仁男>

小児科

stuff 医師：常勤 小松 明
 非常勤 小山田 遵（第1、3月曜日午前中）
 看護師：石田亜希子、伊藤 良子
 事務：高橋 香里、梅川 素子

外来

診療時間：午前8時30分～、午後14時～ 内容：表-I～IVを参照。

表-I：外来診療内容

	午 前	午 後
月	一般診療	検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン）
火		乳児健診
水		予防接種
木		1、3週 乳児健診
金		慢性外来

表-II：各外来患者数

	一般外来	乳児 健診				予防接種	慢性外来	合計
		1ヶ月	7ヶ月	10ヶ月	その他			
H22/4月	2153	18	5	11	0	132	126	2411
5月	2120	22	17	8	0	90	111	2321
6月	1938	31	13	17	0	113	112	2163
7月	1431	30	3	13	1	145	145	1721
8月	1650	38	5	27	0	161	113	1924
9月	1461	22	8	12	0	171	130	1762
10月	1724	23	2	9	0	242	157	2123
11月	1786	26	6	8	0	609	139	2534
12月	1861	25	17	16	0	805	146	2812
H23/1月	1615	28	11	10	1	480	118	2213
2月	1387	34	3	16	0	543	118	2048
3月	1539	41	13	17	1	360	97	1996
合計	20665	338	103	161	3	3851	1512	26028

表-III：予防接種内訳

DPT	602	ポリオ	1
MR	349	B型肝炎	17
おたふく	87	ヘブスブリン	2
水痘	62	インフルエンザ	1352
BCG	165	ヒブ	291
DT	3	肺炎球菌	295
日本脳炎	625		
		合計	3851

- * 一日平均患者数 約 71.3人 (土、日、祝日も含む)。前年比 - 3.3人。
- * 外来患者総数 26028人。前年比 - 1204人。
- * 一般外来患者総数 23056人。前年比 - 2391人。
- * 乳児健診受診総数 605人。前年比 +88人。
- * 予防接種外来受診総数 3851人。前年比 +1577人。
- * 慢性外来患者総数 1512人。前年比 - 50人。

表-IV 医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介		当院から紹介	
朝日ヶ丘レディースクリニック	184	高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	98
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	48	阿部耳鼻咽喉科医院	31
しおたこどもクリニック	9	平鹿総合病院	24
岡田小児科医院	7	(小児科13)	
ダイゴクリニック	5	(耳鼻咽喉科10)	
		(形成外科1)	
		秋田大学附属病院 小児科	8
		すずき皮膚科クリニック	8
		岡田小児科医院	5
		雄勝中央病院 耳鼻咽喉科	5
		守口耳鼻咽喉科医院	3
		しおたこどもクリニック	3
		えのきこどもクリニック	2
		やすおか小児科医院	2
		盛岡赤十字病院 小児科	2
		仙北組合総合病院 小児科	2
		総合水沢病院	2
		他 医療機関 (宛先あり)	20
		(宛先なし)	10
他 医療機関	13		
合計	266	合計	226

昨年度に比し、他院からの紹介は24件減、当院からの紹介は16件増。

病棟（入院）

3 A病棟（整形外科との混合病棟、定床15床）。新生児入院は2 F新生児室にて管理。

表-V：疾患別入院数

		患者数	
感染症	気管支炎・肺炎等1)	173	437
	上気道炎2)	49	
	喉頭炎3)	39	
	腸炎4)	116	
	歯肉・口内炎5)	20	
	中耳炎	14	
	髄膜炎・脳炎	0	
	インフルエンザ6)	8	
	その他7)	18	
気管支喘息		59	
精神・神経系	熱性けいれん	2	9
	無熱性けいれん	6	
	その他8)	1	
周産期	高ビリルビン血症 など9)	13	
川崎病		6	
代謝・内分泌系10)		10	
その他11)		20	
合計		554	

- 1) RSV 感染症 62例を含む。
- 2) 溶連菌感染症 4例を含む。
- 3) 喉頭蓋炎 2例を含む。
- 4) ロタウイルス感染症 23例、サルモネラ感染症 1例、カンピロバクター感染症 3例を含む。
- 5) 手足口病 4例、ヘルパンギーナ 10例、ヘルペスウイルス感染症 4例を含む。
- 6) インフルエンザA 6例、B 2例。
- 7) 突発性発疹症 3例、水痘 1例、尿路感染症 2例、ウイルス性肝炎 9例、筋炎 1例、咽頭結膜熱 1例、流行性耳下腺炎 1例を含む。
ウイルス性肝炎は、EBV 5例、CMV 1例、原因不明 3例であった。
- 8) 心身症 1例。
- 9) メレナ 1例、ヘルペスウイルス感染 1例を含む。
- 10) GH 分泌負荷試験 6例、周期性ACTH・ADH放出症候群 3例を含む。
- 11) アレルギー性紫斑病 5例、肥厚性幽門狭窄症 1例、回腸末端炎 2例、蜂巣織炎 2例、頭部打撲 1例、Hirschsprung病 1例、腸重積症 2例、乳児難治性下痢症 1例、一酸化炭素中毒 2例、薬剤性過敏症症候群 1例含む。

表－VI：年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0－1才	61	63	124
1－2才	66	60	126
2－3才	54	20	74
3－4才	40	22	62
4－5才	20	13	33
5－6才	28	10	38
6－8才	13	15	28
8－10才	16	16	32
10－12才	13	8	21
12－14才	9	3	12
14才～	1	3	4
合計	321	233	554

総入院数は 554人、前年比 +32人

院外活動

明照保育園（園医）

県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診

ももの家講話

最後に

病院の改築工事に絡み、小児科外来はH22年5月に移転した。夏の暑い盛り～大雪の真冬を新居にて過ごし、H23年3/初に再びもとの場所へ帰ってきた。途端に東北大震災が起き、停電による初めての業務縮小を経験した。長くやっているといろんなことが起こるものである。病院から離れることが出来ない一小児科医として、せめてもの慰めにといい思いを込めて、被災された方々が受診された際には、特に丁寧に説明を心がけている。被災された方々、被災地の一日も早い復活、復興を願うばかりである。

<文責 小松 明>

産婦人科

2010年度の産婦人科は滝澤先生に代わり、佐々木満枝先生が赴任されました。明るい性格ですぐに馴染んでくれて日々の仕事をこなしてくれました。女性の先生でもあり、外来・病棟の雰囲気のがらっと変わった感じでした。外来スタッフでは藤沢親子さんに変わり、11月より育休明けの吉田紗希子さんが勤務してくれました。病棟では初めて自分たちの教え子である県立衛生看護学院から、吉水桃子さんが助産師としてスタッフに加わりました。

病棟では5－9月に新たに2病棟の大部屋の改修が始まり、産科のスタッフはごく少人数で、特に夜間はたった1人で勤務となり、大変な思いをしたと思います。婦人科はその間、3C病棟を間借りして手術患者などをこなしていましたが、特に8－9月にかけては重症患者や大きな手術が多数あり、このとき分娩も多かったので非常に忙しい思いをしました。また、平鹿病院が麻酔科不在になった影響で救急搬送、緊急手術例が立て続けにあったこともありました。

そんなこんなで例年とは違った1年だったと思います。2病棟が2A病棟となり、年度の後半はようやく腰を落ち着けて仕事をできる環境になりました。

産婦人科を巡る環境は、比較的变化が少ない当地域でも少しずつ変わっているような気がします。現在の自分は改築という大目標が達成され、祭りの後ではないけれど、多少力が抜けた感じがあります。当科のこれからの方向性を模索している段階で、地域の中でどういう役割を果たせるか、日々考えております。

最後に、初期研修医の齊藤大成先生が、2月から勤務してくれています。産婦人科志望で、8月の研修医不在で困っているときもいろいろ助けてもらいました。ぜひ、頑張っけて信頼される産婦人科医になってほしいと思います。

<文責 畑沢淳一>

平成22年度手術件数

手術件数 154件 (うち全身麻酔 108件)

・子宮頸癌	
広汎子宮全摘	3件
・子宮頸部上皮内癌・高度異形成	
子宮腔部円錐切除	8件
・子宮体癌	
準広汎子宮全摘術	6件
腹式子宮全摘術	1件
腔上部切断術	1件
再発手術(リンパ節切除)	1件
・子宮内膜異型増殖症	
腹式子宮全摘術	1件
・卵巣癌	
卵巣癌根治術(リンパ節廓清あり)	3件
腹式子宮全摘+両側付属器切除	1件
試験開腹	1件
・悪性リンパ腫手術	1件
・子宮肉腫手術	
腔式子宮全摘(子宮内膜間質肉腫)	1件
再発肉腫切除(平滑筋肉腫)	1件
・子宮筋腫	
腹式子宮全摘術	11件
腔式子宮全摘術	8件
腹腔鏡→腔式子宮全摘術	1件
子宮筋腫核出(開腹)	4件
子宮筋腫核出(腔式)	2件
・子宮腺筋症	
腹式子宮全摘術	1件
腔式子宮全摘術	1件
・子宮内膜ポリープ	
子宮鏡下ポリープ切除	2件
腔式子宮全摘→開腹止血	1件
・卵管留膿腫	
両側付属器切除	1件
・子宮脱	
腔式子宮全摘術+腔壁形成術	7件
腔閉鎖術	2件
リング抜去	1件

- 卵巣腫瘍
 - 腹腔鏡下卵巣嚢腫手術 15件
(皮様嚢腫8 内膜症4 その他3)
うちその後開腹、腸縫合したもの1例あり
 - 付属器切除(開腹) 3件
- 子宮外妊娠
 - 腹腔鏡手術 3件
 - 開腹手術 1件
- 子宮鏡検査 15件

- 帝王切開術 19件
- 流産手術 5件
- 人工妊娠中絶術 7件
- その他の手術
 - バルトリン腺 コンジローマ 膣腫瘍 各1件

分娩件数 168件(死産7件を含む) *双胎を2件とする

自然分娩	114件 (死産6件)
圧出分娩	17件
吸引分娩	10件
鉗子分娩	2件
骨盤位牽出	3件 (死産1件)
帝王切開	20件

眼 科

眼科外来は、月曜日、木曜日、金曜日の週3日体制で診療を行っています。

診療には、眼底カメラや視野検査機器などを活用することで、病状に対する客観的評価および定期経過観察時の経時的変化を捉えることが可能となっております。

また、人間ドックによる眼底検査結果の評価を行い、眼疾患および全身疾患との関連を有する眼底病変の早期発見に役立っています。

現在、秋田県の病院眼科医療体制は殆どの施設で常勤医不在という非常に厳しい状況のまま変化はありません。

泌尿器科

<スタッフ>

医師： 伊藤 卓雄

外来： 藤坂マリ子、千葉公子（10月まで）、最上智佳子（10月から）

病棟： 主に3B病棟

透析室： 別稿に譲る

<年度特記事項>

4月に医師交替、前任の神崎正俊医師が転出し、伊藤が着任した。

例年同様に医師一人体制で泌尿器科診療・透析診療を担当した。

病院増築に伴い5月に外来診察室がC棟に移設された。

<日常業務>

外来診療は月曜から金曜までの毎日午前。

検査・手術等は不定期で午後に施行。

透析は月曜から土曜まで午前・午後・夜間（月水金のみ）の3部制、祝祭日も稼働。

<概要>

外来：例年通りに、排尿障害、尿路結石、尿路悪性疾患、腎不全といった泌尿器科一般疾患を広く診療した。外来移設直後は不慣れなため苦労したが診療には影響なかったと思われる。3月の震災による影響は幸いにも最小限であった。

入院：手術症例や前立腺生検例が主であった。入院日数が短期になるのは前述のような患者の特性であると思われるが、入院患者実数も前年に比べ少なかった。癌末期患者では長期入院例もあり、小康状態での介護施設等との連携が課題となる場面があった。

手術：経尿道的手術(TUR)、透析シャント手術を主に施行した。前立腺全摘、膀胱全摘、鏡視下腎摘等も秋田大学泌尿器科教室医師に応援いただき施行した。尿管鏡が以前から使用不可の状態であり、尿管結石をはじめとする尿管鏡手術適応例は他院に紹介した。

<総括>

医師一人体制での診療のため様々な制限が避けられない中、外科をはじめとした他科の先生方やスタッフの皆さんに支えていただきながらなんとかやっているのが実情です。当面はマンパワーの改善はなさそうですが、現状なりに、それでも向上心を忘れずに、より良い泌尿器科的医療が提供できるよう努めて参ります。

<文責 伊藤卓雄>

放射線科

スタッフ

常勤医師： 平野弘子*、泉 純一

応援医師： 秋田大学放射線科より随時

*平成23年2月より非常勤

特記事項

平成22年度は待望のMRI装置更新があった。平成23年2月14日よりGE社製1.5T機種(HDxt 1.5T ver. 16)が使用可能となり、これまでの0.5T機種に比べ、高速撮像・高精細画像取得が可能となった。これまで苦手としていた肝胆膵領域や、腹部領域のMRA、四肢領域での高精度画像が期待されている。また、乳腺や肝臓領域の高精細ダイナミック検査が可能となり、症例が増えつつある。CT機種は平成17年5月よりBrilliance CT 40(Philips社)を、また血管造影システムは平成20年10月よりBransist Safire(SHIMADZU社)を継続使用している。

業務内容

平成22年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT 6994件、MRI 1815件、単純写真6904件であった。院内診療科からの依頼による単純写真読影件数は841件で、このうち胸部単純写真が825件であった。造影CT検査は2701件で、このうちCT angiography (CTA) が204症例に行われた。さらにCTAのうち心臓CTが92件であった。またCT colonography は7人に施行されている。造影MRI件数は294件であった(表1)。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 350件、MRI 362件、単純写真15件であった。多施設依頼CT、MRIは、各々読影件数全体の5.0%、19.9%を占めていた(表1)。

CT/MRIには画像診断管理加算2が、単純写真には画像診断管理加算1が算定されている。

血管造影検査は34件で、全例がIVR目的であった。内訳は、肝腫瘍に対するTACE が31件、重症膵炎に対する動注用カテーテル留置が2件、胃静脈瘤に対するBRTOが1件であった(表1)。

検診業務としては、脳ドックが158件、胸部単純写真読影が6048件、CTによる内臓脂肪量測定が50件、肺がん検診が33件であった(表1)。

表2に過去5年間の検査・読影件数の推移を示す。

検査		件数	%
CT	総計	6994	100.0
	病診	350	5.0
	CT angiography	204	2.9
	CT coronary angiography	92	1.3
	CT colonography	7	0.1
	健診内臓脂肪	50	0.7
MRI	健診肺CT	33	0.5
	総計	1815	100.0
	病診	362	19.9
単純写真	健診脳ドック	158	8.7
	総計	6904	100.0
	病診	6048	87.6
血管造影	病診	15	0.2
	総計	34	100.0
	TACE*	31	91.2
	動注用カテーテル留置**	2	5.9
	BRT0***	1	2.9
*肝細胞癌 **重症膵炎 ***胃静脈瘤			

年度	CT	MRI	単純写真	血管造影
平成18年度	5747	2050		21
平成19年度	6026	1544	3245	17
平成20年度	6592	1538	5851	23
平成21年度	6469	1546	6401	28
平成22年度	6994	1815	6904	34

<文責 泉 純一>

麻 醉 科

スタッフ

常 勤：寺田宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅の木ペインクリニック）

秋田大学医学部麻酔科応援医ほか

業務内容

1. 手術での麻酔または検査での麻酔

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔
件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。

2. 外来（ペインクリニック）

平成21年6月から開設。月・水・金曜日午前

治療対象

○帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

○顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

○腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、
圧迫骨折、頰肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会
陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性委縮症などのうち手術の対象
にならないもの）

○けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

○まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に変な方向を向いて
しまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

実績

新規患者数74名、延べ患者数761名。疾患別内訳は、腰部脊柱管狭窄症やヘルニアによる腰下
肢痛が306例、首や肩の疾患は137例、帯状疱疹痛が145例、顔面の激しい痛みを生じる三叉神経痛
は83例である。そのほかの神経障害性疼痛の診療22例や顔面痙攣のボツリヌス毒素治療6例も行
った。治療内容の内訳は、腰下肢痛や体幹の帯状疱疹に対して行う硬膜外ブロックが161件、星状
神経節ブロックが48件、三叉神経ブロックが22件（うちガッセル神経節ブロック2件、高周波熱
凝固治療8件）、神経根ブロック21件、超音波ガイド下神経ブロック23件、イオントフォレーシス
治療61件、トリガーポイントブロック治療78件などであった。

<文責 寺田宏達>

リハビリテーション科

I. リハビリテーション科・組織

江畑公仁男	(副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科長)
小田嶋尚人	(技師長) 理学療法士
高橋 貞広	(主任) 理学療法士
高橋 洋	(主任) 作業療法士
高橋 茂実	(主任) 理学療法士
鈴木 務	(副主任) 理学療法士
熊谷 剛	(副主任) 作業療法士
古関 佳人	言語聴覚士
花脇 加奈	理学療法士
渋谷 美紀	助手
渡部香菜子	助手(産休補助)

II. 定例スケジュール

毎週月曜日	: リハビリテーション科ミーティング
第1月曜日	: 3C病棟カンファレンス
第1水曜日	: 4C病棟カンファレンス
第2火曜日	: 3A病棟カンファレンス
第2木曜日	: 2A病棟カンファレンス
第2金曜日	: 3B病棟カンファレンス

III. 業務

1. 院外活動

- ①横手市デイサービスセンター 康寿館
5月24日(月)～28日(金)
- ②ヘルパー講習講師 横手市社会福祉協議会 小田嶋尚人
8月31日、9月10日
- ③第92回全国高等学校野球選手権秋田大会 トレーナー
高橋 茂実 花脇 加奈
- ④出前健康講座
8月25日、9月10日、12月6日

2. 研修活動

平成22年

4月17日	第22回ハンドセラピー学会	新潟市	熊谷 剛
17日	秋田県NST研究会	秋田市	高橋 洋、古関 佳人
24日	平成22年度秋田県作業療法士学会	由利本荘市	高橋 洋
25日	第7回日本PNF協会学会	盛岡市	鈴木 務

5月16日	第11回SET BasicCourse	一関市	4名
23日	秋田県理学療法士会研修会	秋田市	4名
6月5日	生涯学習新人オリエンテーション	秋田市	花脇 加奈
11～13日	第44回日本作業療法学会	仙台市	高橋 洋、熊谷 剛
7月11日	秋田県理学療法士会公開講座	大仙市	5名
8月20日	全国自治体病院協議会研修会	東京都	鈴木 務
9月18日	第59回東日本整形災害外科学会	盛岡市	熊谷 剛
25～26日	東北作業療法学会	秋田市	高橋 洋
10月2日	小児理学療法ネットワーク	秋田市	4名
3日	関西呼吸ケア研究会研修会	仙台市	花脇 加奈
8～9日	第37回日本肩関節学会	仙台市	熊谷 剛
23日	秋田県理学療法士会講演会	秋田市	花脇 加奈
31日	秋田県理学療法士会研修会	秋田市	鈴木 務
11月6日	第28回東北理学療法学会	秋田市	4名
13日	SET CorePlusCourse	一関市	5名
12月4～5日	離床研究会研修会、心電図	仙台市	小田嶋、鈴木務
平成23年			
2月5～6日	第47回作業療法全国研修会	つくば市	熊谷 剛
3月5日	秋田県理学療法士学会	秋田市	5名

3. 臨床実習受け入れ

理学療法学科

秋田大学	2名	高橋 茂実	担当
弘前大学	1名	高橋 貞広	担当
青森県立保健大学	1名	鈴木 務	担当

作業療法学科

国際医療福祉大学	1名	熊谷 剛	担当
秋田大学	1名	熊谷 剛	担当

IV. 総括

今年度は、理学療法士1名が新たにリハビリテーション科スタッフに加わり理学療法士5人体制になった。診療報酬上施設基準の違いはないが算定単位数の増加につながった(図1)。入院患者数は、例年の傾向と同じように理学療法・作業療法・言語聴覚療法とも6月～8月にかけてと3月にピークがあった(図2～4)。

臨床実習は理学療法士養成校・作業療法士養成校から例年通りの受け入れを行った。臨床実習指導について最終的な調整は小田嶋が担当し実際の学生指導は担当を振り分けて対応した。

治療機器ではレッドコード、コンビネーション刺激装置を購入した。レッドコードは運動器疾患の患者様だけでなく中枢神経疾患の患者様にも応用できた。またリラクゼーションだけではなくストレングストレーニングにも応用でき、様々な患者様の治療に役立った。コンビネーション刺激装置は県内の病院で導入している施設はごくわずかであり、臨床での有効性は十分認識されているが、今後も臨床での応用について検討・研究の余地があると思われる。

増改築工事により、大きな騒音の元での診療となった。言語聴覚室の改修においてコンクリート壁の取り壊しが必要であったが、それ自体は工事関係者との打ち合わせで休診日に工事を行ったため直接的騒音は最小限に抑えることができた。しかし1階の旧内科外来の工事の際にはリハ科への連絡がなく日中の診療最中も強烈な騒音と振動に悩まされた。

また今年度は甚大な自然災害が多い年だった。大雪の影響による転落事故が多発し、屋根の雪下ろし作業中の転落による脊椎圧迫骨折・踵骨骨折、また落雪による頸髄損傷などの患者様が多かった。3月11日に発生した東日本大震災で幸い直接的な被害は無かったが停電による診療への影響があった。リハ科では救急対応はできずに「とりあえず待機」という状況であった。

患者の集計については以下の資料を参照していただきたい。

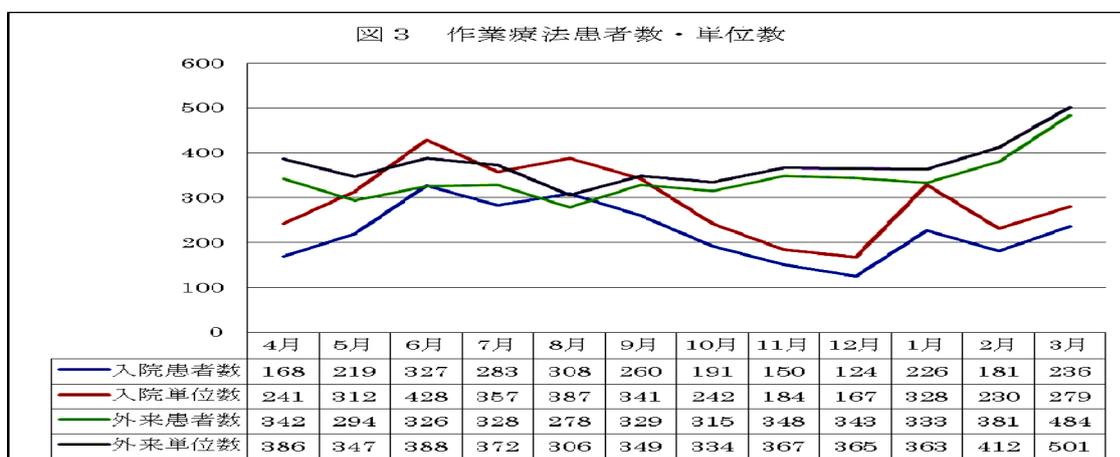
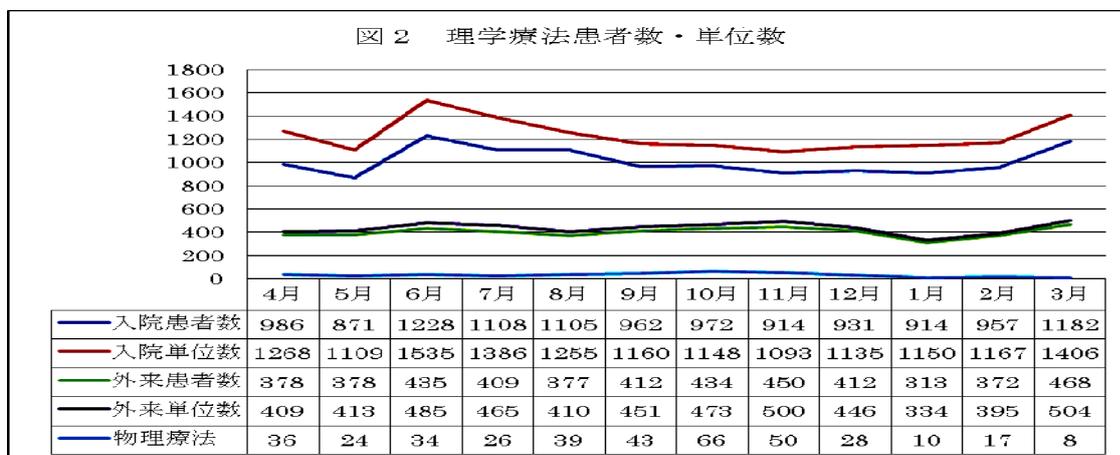
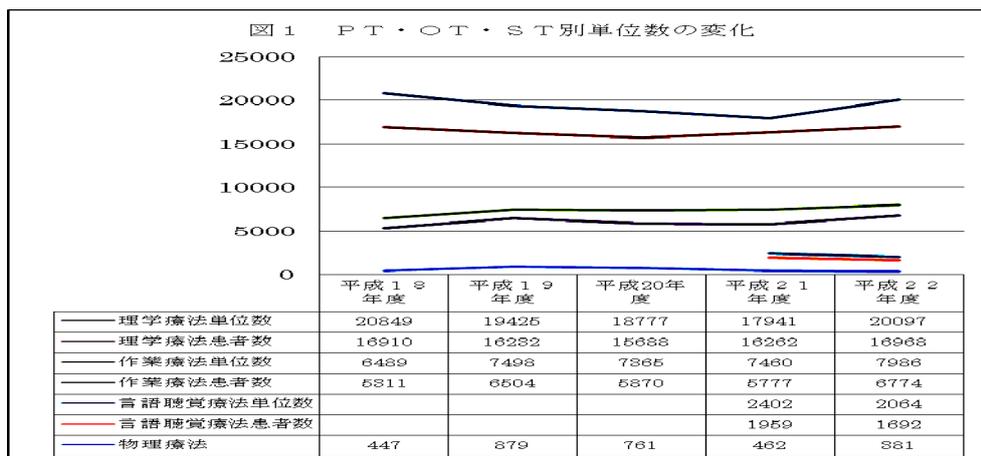


図4 言語聴覚療法患者数・単位数

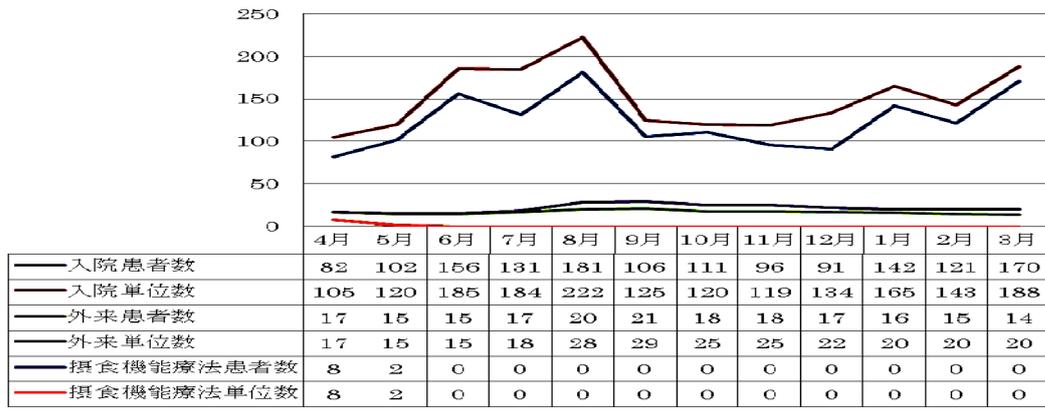
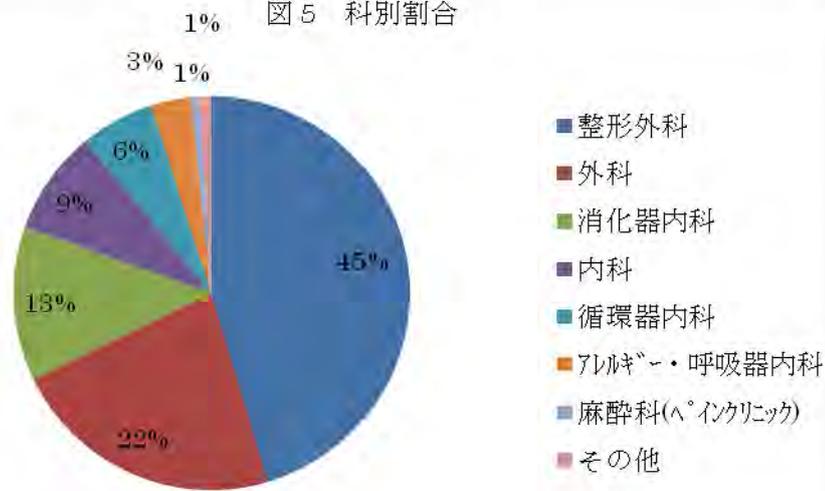
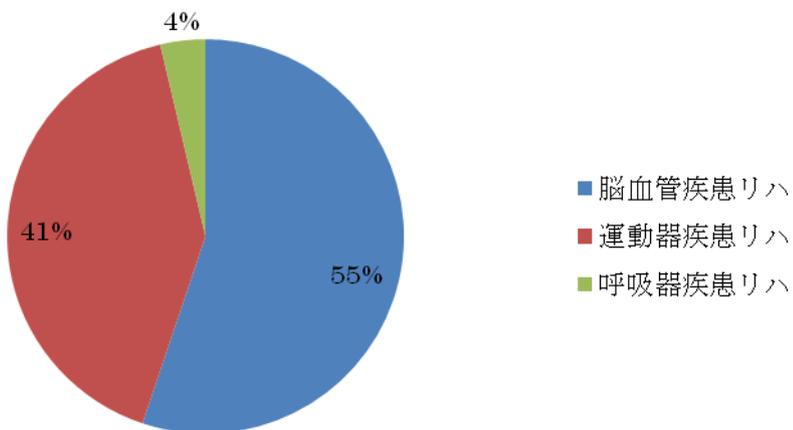


図5 科別割合



リハ療法割合



<文責 小田嶋尚人>

救急センター

<救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員(非常勤職員も含めて)の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

<スタッフ>

救急センター責任者 江畑公仁男

専任看護師 和賀美由紀

<救急患者取扱状況> H22年4月1日～H23年3月31日分

1. 取扱患者数 11,241人

2. 来院時間と来院方法

患者数

区 分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜(再掲)	計
救急車	309人	573人	142人	882人
その他	0人	10,359人	837人	10,359人
計	309人	10,932人	979人	11,241人

3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内 科	4,336人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	4,733人	循環器科	0人	その他	143人
整形外科	1,038人	産婦人科	173人		
外 科	808人	眼科	10人	計	11,241人

4. 患者の症状など

区分	疾病程度(患者数(人))				受付後の扱い(患者数(人))			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	86	7	6	2	84	13	2	2
急 病	9,353	525	266	32	8,444	792	21	32
その他	875	24	64	1	783	87	4	1
計	10,314	556	336	35	9,311	892	27	35

<H22年度総括>

救急時間帯の紹介や手術依頼、CPAも増加しており救急運営委員会で症例検討を行っている。より迅速で効果的な質の高い救急医療をチームで行うために更に検討を重ね全体で質の向上をめざしたい。

<文責 和賀美由紀>

薬 剤 科

科 長 石田 良樹
主 任 佐々木洋子 渡邊 圭子 小宅 英樹
主 査 小川由起子
薬 剤 師 谷川 裕子 武石 知希
薬剤助手 大山 丹子 北小路由紀 柿崎 幸 高橋 紀子
近江真梨子 高橋みきこ

平成22年度 目標

1：チーム医療への貢献

医療従事者の連携によるチーム医療へのモデル転換に際し、薬剤師のチームへの積極的参加と貢献。

2：病院経営への貢献

ジェネリック薬品への切替の推進。

3：医療の質的向上

医療安全、患者満足度向上等の質的向上のために薬剤管理指導件数、カバー率の向上。

病院改築という環境の中での1年であった。平成21年度末に受審した病院機能評価の指導を受け、数週間のトレーニングの後、平成22年5月より病棟注射薬剤のセットを個人セットから一施用ごとのセットに変更した。これにより看護業務の軽減と医薬品のエラー防止の効果向上が期待される。

平成23年1月より患者様へのアカウントビリティ向上と持参薬の安全使用のために全ての外来患者様（院内処方）と退院患者様に対してお薬手帳の配布と手帳用シールの発行を開始した。

最も印象に残ったのは3.11の東北大震災である。製薬関連工場の被災や薬品流通の寸断により多くの医薬品が供給不可能になり、当院としては初めての外来処方日数制限を行なった。その後も供給体制の完全復旧には相当の時間を要する事となった。

今年度をもって小川由起子主査が定年退職する事となった。

平成22年度実績

	平成22年度
院外処方箋件数	94529件
院内処方箋件数	18165件
院外処方箋発行率	83.9%
入院注射件数	159711件
外来注射件数	23619件
薬剤管理指導算定件数（2及び3）	3708件
無菌製剤処理件数（1及び2）	5769件
医薬品収益/医療収益	17.8%

<文責 石田良樹>

診療放射線科

スタッフ

診療放射線技師	技師長	藤原 理吉
	総括室長	岡根 和義
	室長	郡山 邦夫
	室長	法花堂 学
	主任	細谷 謙
	副主任	斎藤 千尋
	副主任	佐藤 裕基
		村上 千恵
看護師	小松田江利子	平成22年9月30日 退職
	佐々木史子	平成22年10月1日 ~
看護補助者	織田美和子	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日
受付	三浦 真理	

平成22年度目標と評価

目標	被ばく低減施設認定の取得
評価	平成21年度に未達成であり、続けて目標として取得を目指した。平成21年度の病院機能評価受審でマニュアル類は完成していたので、検査ごとの被ばく線量の推定、エビデンスに基づいた撮影線量の決定、正当化の明記等、整備した。平成23年2月16日に社団法人日本放射線技師会より4名のサーベイヤーによる訪問審査を受け、3月1日に認定された。

関連資格取得状況

放射線管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙
放射線機器管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学
医用画像情報管理士	藤原 理吉
肺がんCT検診認定技師	法花堂 学、細谷 謙
検診マンモグラフィ精度管理・撮影技術認定	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、 細谷 謙、斎藤 千尋
臨床実習指導教員	郡山 邦夫、法花堂 学

院内・院外の発表

4月11日	CT ColonographyにおけるElectronic Cleansingの基礎的検討 第66回日本放射線技術学会総会学術大会	法花堂 学
5月30日	放射線科における緊急時対応の取り組み 第70回秋田県放射線技師会学術大会	斎藤 千尋
10月1日	医療被ばく施設認定 第12回コ・メディカル研究発表会	村上 千恵
10月14日	小児頭部CTにおける撮影条件の最適化 第49回 全国自治体病院学会	佐藤 裕基
10月31日	医療被ばく低減施設認定への取り組み 日本放射線技師会東北地域学術大会	法花堂 学
11月21日	医療被ばく施設認定 第18回秋田県医療学術交流会学術大会	村上 千恵
1月15日	上部消化管撮影における 撮影手技の問題点と対策 秋田県放射線技師会研修会	法花堂 学
1月23日	実践医療被ばく線量測定セミナー ImPACTの基本使用方法 日本放射線技師会セミナー	藤原 理吉
1月29日	X線 (CT) 画像の見方 平成22年東北地区生物化学分析部研修会	藤原 理吉

放射線科カンファランスと担当者

4月15日	ICRP2007年勧告について	藤原 理吉
5月13日	医療被ばく低減施設認定について	村上 千恵
6月3日	小児頭部CT撮影条件の見直し	佐藤 裕基
7月8日	デジタルマンモグラフィ品質管理用 1 Shotファントムの紹介 (1 Shotの解析値と実測値の比較)	齊藤 千尋
8月5日	JSGIファントムを使用した透視撮影の管理について	郡山 邦夫
9月2日	PCのセキュリティを考える DIPの撮影条件について	細谷 謙
10月1日	コ・メディカル研究発表会 医療被ばく低減施設認定について	村上 千恵
11月11日	口から食べられなくなったらどうしますか?	岡根 和義
12月15日	医療被ばく安全管理委員会が実施したアンケートを委員会報告前に検討	藤原 理吉
1月13日	上部消化管における撮影手技の問題点と対策	法花堂 学
2月11日	マンモグラフィにおけるポジショニングの評価	齊藤 千尋
3月17日	肝臓解析ソフト導入にあたって	佐藤 裕基

18年度を100とした時の推移

	年度(平成)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
一般撮影	総撮影件数	100	86	87	76	95
	出張撮影件数	100	91	95	91	90
	乳房撮影件数	100	101	118	123	122
健診	胸部撮影人数	100	98	104	108	113
	胃透視検査人数	100	90	86	86	79
造影・透視検査	消化管	100	100	114	131	141
	肝・胆・膵	100	97	115	74	84
	泌尿器・産科領域	100	42	72	52	42
	整形領域	100	70	64	82	92
	心カテ・血管造影	100	41	61	94	88
C T人数		100	105	114	112	121
M R I人数		100	92	76	75	93

件数・人数の推移

	年度(平成)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
一般撮影	総撮影件数	外来	26,950	22,746	22,558	22,932	27,431
		入院	12,765	11,579	11,938	9,663	10,117
		合計	39,715	34,325	34,496	30,234	37,548
	総曝射回数	外来	43,398	35,203	34,939	38,733	42,960
		入院	16,290	14,435	15,083	11,852	12,594
		合計	59,688	49,638	50,022	50,585	55,554
	出張撮影件数	6,415	5,856	6,104	5,834	5,757	
乳房撮影件数	1,826	1,844	2,155	2,253	2,227		
フィルム枚数	46,066	485	2,527	185	167		
健診	胸部撮影人数	5,326	5,232	5,515	5,753	6,005	
	胃透視検査人数	1,078	969	923	926	857	
造影・透視検査	消化管	438	439	501	575	619	
	肝・胆・膵	173	168	199	128	145	
	泌尿器・産科領域	394	167	282	204	167	
	整形領域	326	228	208	266	300	
	心カテ・血管造影	64	26	39	60	56	
C T	人数	外来	4,179	4,457	4,828	5,154	5,552
		入院	1,576	1,578	1,750	1,286	1,395
		合計	5,755	6,035	6,578	6,440	6,947
フィルム枚数	31,522	1,361	1,231	1,337	1,229		
M R I	人数	外来	1,677	1,351	1,275	1,439	1,676
		入院	373	536	293	153	234
		合計	2,050	1,887	1,568	1,545	1,910
	フィルム枚数	10,330	1,270	1,260	1,296	1,026	

<文責 藤原理吉>

看護科

平成22年度は増改築工事、引越し、病院機能評価認定（V6）、猛暑、豪雪、震災と嬉しいこと、悲しいことなど、どれをとっても忘れることのできない光景が今でも脳裏に残っている。

平成22年3月に病院機能評価（V6）受審を終え、ほっとしている間もなく増築棟への引越し準備に追われた。「市民のための優しい病院づくり」を目指して、平成21年2月から工事を進めてきた新館（増築棟）が4月末完成し、4月5日連休に人工透析室・内科外来・小児科外来・採血室・泌尿器科外来・救急センター・消化器センター・健康管理センター・3C病棟・4C病棟への引越しをし増築棟は稼働となりました。稼働し落ち着いた8月に、病院機能評価認定を更新し、県内では初めてのVer・6の認定を受け職員一同感激に浸った。

平成22年12月から病床数10%削減し、病床数250床4病棟→225床5病棟体制と変わるにあたり病棟看護スタッフの配置、分散された外来看護スタッフは再三、業務改善について検討した。療養環境は整備されたが、新たな問題が発生し院内で業務改善委員会が発足。病院全体で業務改善していく方向に向ったのは一歩前進である。

新たな事業として横手市医師会が、平成22年4月から横手地域の開業医医師が「日曜救急診療」第1、第2、第3日曜日、9時～12時まで当院救急外来にて、医師事務作業補助者の協力も得て診察開始となったことである。

まだ記憶に新しいが、平成23年3月11日午後2時46分、東日本大震災。日本ではかつて経験したことの無い巨大地震で実態が明らかになるにつれ、恐ろしいまでの自然の威力とその被害の甚大さが深刻であった。横手市は震度5強を記録した。停電となり何が起こったのか、確認しようとしてもテレビは映らない。後にラジオで情報を聞いて伝わってきたのは想像もつかない事態が起こっているということ。信号が消えた夜の交差点を車で走り抜ける怖さ、懐中電灯とろうそくを灯して過ごした寒い一夜は今でも忘れられない。「豊かさ」が一瞬にして崩れ去り、もはや当たり前ではないことを一人一人が思い知らされた。

平成22年度	入院総患者数	76,325人
	一日平均患者数	209.1人
	稼働率	87.5%
	平均在院日数	15.6日

看護科理念・方針

- 理念 1、人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。
2、地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1、専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。
2、病院の健全経営に積極的に参加します。

1、平成22年度看護科目標と結果評価

1) 安全で質の高い看護を提供します

入院患者の転倒転落の報告が数件あった。医療安全管理室からの要望もあり、転倒転落防止センサーの導入により、減少し防止につながったと言える。また専門分野では医療安

全担当・感染管理・WOCの看護師の力も非常に大きかった。また、増改築による外来・病棟の引越し作業は各部署の協力によりスムーズに、また安全に行われた。

2) 業務改善と活気ある元気の出る職場づくりを目指します

病院の改修工事に伴い、療養環境も整備され働きやすくなったが、特に外来は分散されたことで業務が煩雑となった部署もある。250床から10%減の225床となり、12月からは5病棟での新体制となった。途中退職者もあり人員不足となり職員の不満など問題提起され、看護科全体で話し合いを行い改善に向けて検討した。また院内で業務改善委員会が発足され、問題点、改善策を出し積極的に取り組んだことも良かった。この事があったので平成23年度看護職員増員につながったと言える。

3) 接遇の向上に努めます

接遇に関しては、職員に対するお褒めの言葉を沢山いただいたが、半面、苦情クレームもあった。外来、病棟で実施している患者満足度アンケート結果を基に今後も職員の意識向上に努めていきたいと思う。

○看護要員関連

平成22年度産休・育児休業・長期病欠・退職状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実人数	延人数
産休	1	1	1	1	0	1	2	2	2	2	2	3	5	18
育児	4	5	5	5	6	6	5	4	4	4	5	5	7	58
長期休暇		1	1	1								1	2	4
採用	15 (1)		(1)						(1)			(1)	15 (4)	
退職			1 (1)			1	(1)				(1)	3 (2)	5 (5)	

() 嘱託

平成22年4月現在、看護科正職員 平均年齢 35.2歳

離職率 3.4%

平成22年度看護科職員総合数（平成23年3月末 205名）

- 保健師 2名
- 助産師 8名
- 看護師 153名（嘱託・パート25名含）
- 准看護師 6名（嘱託5名含）
- 看護補助者 36名（嘱託35名含）

○インターシップ受け入れ

- ・ 6/25 横手市立鳳中学校3年生 5名
- ・ 7/7 秋田県立湯沢商業高校1年生 1名
- ・ 7/14 秋田県立大曲農業高校2年生 1名
- ・ 7/23 秋田県立横手高校1年生 6名
- ・ 7/26 秋田県立平成高校2年生 3名

○看護学生実習受け入れ

- ・秋田県立衛生看護学院看護科3年（在宅看護論実習）期間 平成22年5／6～12／9 5名
- ・秋田県立衛生看護学院助産科（助産学実習） 期間 平成22年6／2～6／18 10名

○ふれあい看護体験

- ・7／28 横手市内の中学2年生 16名

○研修会参加状況

秋田県看護協会研修

研修会名	ねらい	参加者数
看護管理者・指導者育成のための教育 ○いまだきの若者の育て方 学生や新人の成長を支援するために	現代青年を取り巻く社会環境とそこに生きる若者の意識や行動を理解し彼らの成長を支援することができる	1名
○Care For Caregiver ー援助者のためのストレスマネジメント	ケアを提供する側、看護職の感情的ストレスを健全なものに改善し自己を高める認知行為療法を学ぶ	1名
ジェネリストの教育 ○タクティールケア がん患者、認知症患者への緩和ケア	タクティールケアの手法を学び緩和ケアに活用できる	2名
○がん化学療法の実践に必要な知識と看護	がん化学療法において起こり得るリスクを把握し予見性のある看護ケアを実践するために必要な知識を学ぶ	3名
○「フットケア」とはー正しい爪切りー	フットケアについて理解し正しい爪切りを習得する	1名
○口腔ケアの基本	口腔ケアの基本を学び実践することができる	2名
○看護研究プロセス ～看護研究計画作成から論文作成・発表まで～	看護研究プロセスを学び臨床における看護研究の実践能力を高めていく	3名
○看護師への子育て支援「仲間とつながりハッピーに生きようぜ！」	看護師として親としてそして人間として今何を大事にしなければならないのか。自分自身の心のケア、子育て、看護に役立てる機会とする	1名
○中堅看護師キャリアアップ ー看護師としての未来を描こうー	中堅看護師が自己を振り返りキャリア目標を描くことができる	1名
○看護師のための睡眠講座 ーサーカディンリズムに基づく効果的休養ー	科学的な根拠に基づいた正しい睡眠の基礎知識を理解する。	2名
○がん性疼痛コントロールにおける看護の役割	医療用麻薬（オピオイド）についての基礎的知識を知りがん性疼痛コントロールにおける看護の実際と役割を学ぶ	3名

院外研修

研修会名	日時	場所	参加者数
第5回秋田県NST（栄養サポートチーム）研修会	4/17	秋田市	5名
平成22年度透析療法従事者職員研修	4/9・10	埼玉	1名
第2回平鹿総合病院新生児蘇生法Bコース	5/9	横手市	4名
第1回秋田滅菌および感染対策研究会	5/23	秋田市	3名
看護必要度評価 院内指導者研修	6/6	仙台市	2名
第4回SSユーザー会看護部会	8/21	大阪	2名
第21回東北ストーリーマリアハビリテーション講習会	8/26～28	仙台市	1名
平成22年度東北手術医学研究会	9/25	仙台市	1名
第1回いわて緩和ケア研修会	10/9	北上市	1名
第2回いわて緩和ケア研修会	10/23	北上市	1名
第3回いわて緩和ケア研修会	11/23	北上市	2名
第27回秋田県消化器内視鏡技師研究会	11/7	秋田市	4名
看護必要度評価の“うまいやり方”と管理への活かし方	11/27	仙台市	1名
平成22年度全国自治体病院協議会 医療安全管理養成研修会（管理コース）	12/6・7	東京	1名
（実践コース）	12/8～10	東京	1名
（専門コース）	12/11・12	東京	1名
秋田県病院協会 平成22年度第2回研修会	11/23	秋田市	3名
第3回訪問看護ステーション協議会研修会	12/4	秋田市	1名
平成22年度東北ブロック医療安全に関するワークショップ	12/16	盛岡市	1名
第29回東北消化器内視鏡技師研究会	12/12	仙台市	3名
秋田県糖尿病看護ネットワーク	2/10	秋田市	1名
手術室リスクマネジメントに関する研修会	2/26	仙台市	2名
第4回秋田県糖尿病看護ネットワーク	2/26	横手市	5名
看護助手・医療クラーク活用で看護師不足解消	3/6	仙台市	1名

学会参加状況（学会・看護協会・その他）

研修会名	日時	場所	参加者数
日本褥瘡学会学術集会	8/20・21	千葉	1名
第49回全国自治体病院学会（ポスターセッション座長）	10/14・15	秋田市	3名
平成22年度 第37回秋田県看護学会	11/12	秋田市	2名
日本褥瘡学会 在宅褥瘡ケアとコツ	11/23	秋田市	1名

院外発表

研修会名	日時	場所	発表者
第3回東北感染制御ネットワークフォーラム 感染管理ベストプラクティス部会にて発表 「尿排出の感染管理におけるベストプラクティスの取り組み」	8月29日	仙台市	高橋 康子
第49回全国自治体病院学会 「簡易懸濁法導入に伴う看護の課題」	10月14日	秋田市	佐々木文子
第14回秋田県腎不全研究会 「外来透析患者の体重管理に及ぼす患者参画型看護計画の効果」	11月28日	秋田市	伊藤 優子
平成22年度医療学術交流会	11月21日	秋田市	中村勇美子
平成22年度横手地区支部看護研究発表会	12月15日	横手市	蒔野 美樹

院外活動

	日時	場所	参加者数
看護協会主催 わくわく子育てフェスティバル	10/11	横手市	1名
看護協会主催 まちの保健室（血圧測定・健康相談）	年3回	横手市	6名
看護協議会主催 いきいきサロン（血圧測定・健康相談）	年3回	横手市	3名
救護班 あさくら地区登山	6/5	八幡平	1名
送り盆まつり	8/16	横手市	2名
ぼんでん祭り	H23・2/17	横手市	2名

<文責 木村カズ子>

2 A病棟

<病床数>

51床（重症加算病床 2床 LDR室 2床含）

<担当科>

産婦人科 内科（主に消化器内科）

<看護方式>

固定チームナーシング

<年間の入院状況>

- ・ 延べ患者数 15,033名
- ・ 平均在院日数 12.8日
- ・ 病床稼働率 89.6%
- ・ 回転数 2.0
- ・ 年間分娩数 164件（帝王切開 18件）

<病棟の概要>

- ・ 病院の増改棟完成後、2 A病棟は産科9床と新生児室のみ使用し、他の病室は改築工事のため、5月1日婦人科と消化器内科は3 C病棟へ移動した。看護室も2箇所となり夜間は、2 Aは助産師1名の夜勤のため分娩の時は、3 C病棟よりスタッフが手伝いに行った。3 C病棟では婦人科の術後管理・化学療法・消化器の処置検査と多忙な日々であった。
- ・ 改修工事後2 A病棟は女性病棟となった。大部屋は4床でLDR・重症室含め39床となり、9月1日に患者様が他病棟より移動してきた。病室は広々し、トイレの段差も解消して患者様が安心して療養できる環境になった。

<病棟目標>

安全・感染対策の徹底をし、針刺し事故の減少に努める

<目標の反省>

針刺し事故対策に取り組むことで感染管理を多方面から考え、H22年度の針刺し事故ゼロ件達成することができた。

<文責 高橋千鶴子>

3 A病棟

【病床数】

H22. 4月～63床（重症加算室 5床 亜急性期病床 10床含） …旧4 A病棟

H22. 9月～49床（重症加算室 3床 亜急性期病床 4床含） …新3 A病棟

【担当科】

呼吸器科 循環器科 脳神経内科 内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【年間延べ入院・退院患者数 在院日数 稼働率】

年間延べ患者数…19,072人

平均在院日数 …20.2日

病床稼働率 …95.3%

回転数 …1.3

【H22年度 病棟の概要】

年々入院患者さんの年齢層が上昇し、90～100歳代の方の入院も珍しくなくなり、当病棟患者さんを見るだけでも、横手地区及び県内の超高齢化に拍車がかかっている現況を推測できると言っても過言ではない。

H21年度に引き続きH22年度は、まる一年間増改築工事の騒音に悩まされた日々だった。4 A病棟においては、階下の工事の下から突き上げられる騒音がひどく、また、9月に3 Aに引っ越し後からは、4 F管理棟改築に伴う工事で天井からのものすごい騒音にかなり苛立ち悩まされた。そのような中、患者さんはもちろんご家族の方や御面会の方々にも本当にご迷惑をおかけし、謝罪続きの毎日だったと思う。

9月の引っ越しに伴い、患者さん個々や荷物整理に加え、病棟内備品の移動・整理などの煩雑な業務もまた大変だった。しかし、6人部屋の狭々しい病室から晴れて4人部屋になり、職員も然ることながら、患者さんもやはり満足そう何よりだったと思う。また、4 A病棟ならではの看護補助者の夜勤もなくなり、看護師業務の内容も整理・変更を余儀なくされ、それもまた慣れるまでは非常に大変だった。

1月以降はスタッフのインフルエンザ感染が多発し、病休が重なり合うこともあり勤務予定の変更などに追われたが、何とか5名に留まりホッと胸を撫で下ろした。今更ながらスタッフ個々の協力体制に頭が下がり、非常に感謝している。

また3月11日の東北大震災時は、病棟の入院患者さんへの配慮はもちろんのこと、入院も快く受け入れ、スタッフ個々の地域医療へ貢献する意識の高さを感じた。

【平成22年度 病棟目標】

1. 針刺し及び暴露事故0目標
 - (1) セーフティボックスの必帯
 - (2) 血液・粘液の取扱時には、必ず手袋を装着する

2. 業務整理をし、ゆとりある看護をめざそう
 - (1) バイタルサイン測定のガイドラインを週1回主治医とカンファレンスをする
 - (2) 観察項目の見直しを週1回行う

【目標の反省】

1. セーフティボックスの携帯は、習慣づいてきている。また、手袋着用については、点滴の抜去時などはまだ着用していないことがある。サーフロー針のリキャップ率が0にならなかったため、徹底して呼びかけを強化することが今後の課題である。

針刺し事故は1件あった。医師処置後の針は、使用した医師が破棄することとなっており、医師の言葉を信じての針刺し事故であったが、やはり自身でも必ず再確認しながら処理をする必要があると反省した。

2. 看護情報の医師指示について、各チームで週1回カンファレンスを行い、不要な指示の削除を依頼した。医師によってはなかなか削除されていないことが問題である。観察項目の見直しは適宜されており、業務改善につながった。

<文責 藤井洋子>

3 B病棟

【 病床数 】

60床（重症加算室 5床）

H22年12月～44床

【 担当科 】

外科、泌尿器科、消化器内科、一般内科の混合病棟

【 看護方式 】

固定チームナーシング

【 年間延べ入院患者数、在院日数、稼働率 】

年間延べ患者数 18,225人

平均在院日数 13.6日

病床稼働率 91.2%

【 病棟の概要 】

外科の手術件数は昨年度より45件多く、緊急手術の割合も増加している。泌尿器科の手術件数は減少した。手術対象患者の年齢層も高く、一人暮らしや家族間の複雑な背景など問題となるケースもあり、手術前から要介護の方、認知症状のある方、術後せん妄症状のコントロールなど手術前後に関わる看護度が年々高まっている現状である。

介護対象の手術ケースもあり、在宅ケアに向けてはMSW、ケアマネージャーや施設相談員との連携は更に重要となり在院日数の延長も大きな問題となっている。緩和ケアは、緩和ケアチームが中心となり、総回診やカンファレンスでの情報交換で個別性のあるより良い関係が持てるよう努力している。化学療法の対象患者も増加し、薬剤の漏えい事故には細心の注意を払って、薬剤の取り扱いなど他部門との連携も密にした管理をしている。

褥瘡回診、NST回診、ICT回診での情報交換、指導も有効に取り入れた看護に取り組んでいる。当初、改築予定していなかった3B病棟ですが、患者様はじめ多くの方々より要望が高く、H22年9月から旧4A病棟に転棟し改築工事に着工。H22年12月より現在の病棟に再度引っ越し業務再開となりました。広い4人部屋と全体に明るい使用しやすい病棟内となり、患者様からも良い反響をいただいている。

H22年度外科手術件数 474件 泌尿器科手術件数 54件

【 H22年度 病棟看護目標 】

- 1、術後感染症を低下させるために、術前手術部位の皮膚の清浄化がはかれるように患者に指導し確認できる。
- 2、術後感染症を低下させるため除毛の必要性が理解でき、標準化を図る。

上記の目標に対して達成のための具体的な方法（行動、スケジュール）を検討し実行した。

【 目標の反省 】

前年度から感染管理対策に取り組み、その反省から本年度の目標を計画取り組んだ。

SSI対策で皮膚の清浄化が有効であることをスタッフ全員が理解し、同じ目的に向け洗浄部位、皮膚の正常化の必要性を記載したパンフレットを作成、術前オリエンテーションで説明した。入浴後は肉眼的に確認し、10月・2月にプロセスサーベイランスを実施評価して改善に繋げた。

また、SSI対策・業務改善チームを作り、タイムスケジュールの見直し、業務整理に取り組んだ結果、1に対して目標の80%を上回る遵守率で術後感染症の低下（SSIサーベイランスの結果報告からも発生率が減少傾向にあることを示唆された）になり、2に対しては90%の目標達成までは届きませんでしたが必要性は十分周知できた。

外科系の病棟なので、今後も業務改善に取り組み術後感染症の低下に努めていく。

<文責 木下文子>

3 C病棟

【 病床数 】

47床 （重症加算室 2床 ）

【 担当科 】

消化器内科、一般内科の混合病棟

【 看護方式 】

固定チームナーシング

【 年間延べ入院患者数、在院日数、稼働率 】

年間延べ患者数 15,268人（6ヵ月間）
平均在院日数 14.4日
病床稼働率 86.2%

【 病棟の概要 】

当病棟は9月より新設された病棟として、消化器内科を中心に稼働を始めた。

消化器センターと連携し消化器疾患特有の検査・治療を中心に、術前検査入院など非常に入退院の激しい病棟であった。

一方、患者層も高齢の方が多く、指示の入らない方の対応にも苦慮しながら安全に治療・処置・ケアを行った。

夜勤二人体制の中にあっても バリエーションを防ぎながらケアに努め、さまざまな業務改善を重ねた結果、現在は概ね各種業務体制が改善され 定着されてきている。

新築後初めての迎えた冬期は、寒さ対策 結露対策に追われ 患者さまのお声に毎日精神誠意お答えする季節であった。

また急性期看護の他に寝たきり、亜急性期、終末期看護と多岐に渡り、緩和ケア回診、デクビ回診など個別性のあるカンファレンスを積極的に行い、MSWと連携しチーム医療として患者家族を支援することが出来た。

【 H22年度 病棟看護目標 】

消化器内科病棟として看護体制を確立する。

- 1、業務改善を推進する
- 2、部署・各種マニュアルの整備

【 目標の反省 】

- 1、毎月の病棟例会で業務改善について検討を重ねた。その結果消化器疾患の特殊検査・クリティカルパス入院の看護体制が整備された。今後更に研修会を行い、疾患に対するケアの改善向上を目指し、エビデンスに基づいた看護体制を整備したい。
- 2、9月以降の業務改善に伴い、それと連動してマニュアルを整備した。更に二度の監査を良い機会とし改善が促進された。
次年度は新人のスタッフも加わる為、尚一層新人教育にも活用出来るようにしたい。

<文責 高本和子>

4 C 病棟

【病床数】

46床（重症加算病床 2床、 亜急性病床 4床含む）

【担当科】 整形外科 小児科

【看護方式】 固定チームナーシング

【年間の入院状況】

- ・延べ患者数 14,840名
- ・平均在院日数 11.6日
- ・病床稼働率 85.2%
- ・回転数 2.3

【病棟の概要】

今年度 5月4日から増改築等にて4C病棟が新たに稼働した。新病棟という事でハード面、ソフト面共に準備はしていたものの戸惑いは多かった。しかしチーム一丸となり、スムーズに病棟基礎を固められたと思う。

整形外科は豪雪に関わる緊急手術が多かった。平成22年12月下旬から平成23年2月上旬までは目がまわるほどの忙しさだった。入院するベットがなく、通院可能な患者さんには早期退院で協力していただいた。リハビリ、ケースワーカーなどコメディカルとの連携にも力をいれ、患者さんの自立に力を注いだ一年だった。

小児科は整形外科と同時期にRSV、胃腸炎、肺炎など季節的な疾患が一気に増えた。4～5日の入院ではあるが、帰る際の子供たちの笑顔を見るのは嬉しいものである。しかし昨年同様、家族背景の複雑化は相変わらずであり工夫してはいるが対応に四苦八苦している現状である。

【病棟目標】

ONE目標 ～業務の見直しを行い、統一された安全な医療が提供できる～

【目標の反省】

- ・2人夜勤開始当初は問題点を一つ一つ解決しながら業務を遂行していった。現在も2人夜勤は不安が多く精神的にもストレスになっているようだが、声掛けを多くしお互いに助け合いながら行っている。緊急入院や緊急手術が多い時期はいかに安全、安心な看護を提供できるかカンファレンスを頻回に行い業務改善に努めた。

<文責 木村真貴子>

外来部門

《平成22年度外来患者総数》 166,796人 《一日平均外来患者数》 686.4人

《外来の概要》

看護科は、外来・病棟一元化として機能しているが、患者サービス・患者への接遇を考えれば固定した人員配置を行っている。しかし、外来診療日により極端に多忙度が違うため、各科病棟より応援があり遂行されている。

昨年度から開始されている病院増改築がC棟完成に伴い、5月より外来の移動・移転が開始された。外来の移動・移転は3月の小児科外来・訪問看護の移動・移転を最後にすべて終了した。

消化器センターが新設されたことにより、消化器内科外来・内視鏡室・超音波室がひとつのフロアへまとまった。1階の内科外来は、分散されていた特殊外来も同じフロアで診察ができるようになった。外来化学療法の需要に伴い、外来化学療法室が新設された。平成23年度からの開始に向けて準備に入った。

救急外来では5月6日から、地域連携のため市内診療所の医師が、当番制で隔週の午前中（第1・第3・第5日曜日）当院救急外来で休日診療が開始された。

採血室は、独立された採血室になり患者確認システムが導入された。システム導入により、安全な患者確認業務ができるようになった。

各科外来の移転終了し新外来として体制を整えようとしていた時期、3月11日（金）14時46分前代未聞の巨大地震（東日本大震災）が発生した。

《外来の移転・移動日程》

- 5月 1日 内科外来 第3・4・5診察室、泌尿器科外来、消化器センター（内視鏡室含む）、内科処置室の一部。
- 5月 5日 AM 内科外来 第1・2診察室、救急センター、内科処置室の一部
PM 救急センターシミュレーションを行い、救急診療開始
- 5月 6日 内科外来・泌尿器科外来・消化器センター（内視鏡室含む）の診療開始
独立した採血室での採血開始
- 5月15日 外科・整形外科・小児科外来・眼科・心療内科改築のため仮外来へ移動
- 9月16日 外科・整形外科・眼科外来、新外来へ移転
- 9月18日 外科・整形外科・眼科外来 診察開始
- 3月 5日 小児科外来新外来へ移転
- 3月 7日 小児科外来診察開始

《H22年度外来目標》

- 1、針刺し事故ゼロを目指す。
- 2、増改築に伴い外来が分散するため、各外来との連携を図り患者さんがスムーズに受診できるように接遇に気を付ける。
- 3、各科マニュアルを見直し、年度内に完成させる。
- 4、身だしなみチェック表で定期的にチェックする。

《まとめ》

今年度は病院増改築により外来部門の配置が大きく変わるようになった。外来部門へ、消化器センターが新設され、看護スタッフが不足するため病棟からの応援体制を強化し、開始となった。

また、増築移転により、かなりの整理整頓はできた。マニュアルの改訂は各外来今年度中すべて完成できなかったが、業務を進めながら徐々に改訂を行っている。

外来の体制が変わり、医療者側も大変混乱し患者サービスの低下が懸念されたが、外来スタッフは毎日ミーティングを行い情報交換することで、外来の流れの把握に努めた。そして、接遇面でも一人一人が注意を払い対応したことで、大きなトラブルはなく経過していくことができた。

<文責 木村恵美子>

手術室、中央材料室、洗濯室

<手術室構成>

4室稼働（A・B・C・D）

A：バイオクリーンルーム

B/C：一般手術使用

D：局麻手術（外来手術etc.）

<年度手術件数実績（昨年実績）>

外科	474件（+45）		
整形外科	360件（+40）		
婦人科	154件（+21）		
泌尿器科	54件（-72）		
内科	4件（+1）		
合計	1046件（+42）	全身麻酔件数	654件（+22）
		緊急手術件数	124件（+20）

<手術室年間目標>

「安心・安全で質の高い看護を提供する」

- ① 術前・術後訪問の充実
- ② 医療事故防止の徹底
- ③ 自己研鑽

<年度目標の評価>

- ① 手術件数も多く、手術状況によっては術前訪問できずカルテからの情報収集で終わる事もあった。訪問できない事によって、患者さんの不安の軽減を図る目的を果たせなかった。術後訪問に関しては、術後訪問用紙を作成し、統一した観察ができるように試みたが、時間的・人的余裕がなかった事と、術後訪問の必要性の理解が乏しかった事が実施率の低下につながった。今後は、スタッフ間でより良いコミュニケーションをとり、術前・術後訪問を行うことで個別的な看護につなげていきたい。
- ② 安全確認項目のチェックリストを活用し、医療事故を防止するための対策は取られた。ヒヤリハットや各個人の気づきや提案があれば朝のカンファレンスで取り上げ、改善策を考える取り組みはできた。しかし、体位チェックに関しては医師に任せてしまう傾向が多く、今後は看護師サイドでも体位チェックできるように、安全・安楽な体位固定について知識・技術の向上に努めたい。
- ③ 研修会には、全体的に積極的に参加できた。又、月／1回の割合で勉強会も開催し、スタッフの知識を深める機会にはなったと思う。これからも、研修会参加率を高め伝達講習の場を設け、手術室スタッフの看護の質の向上に努めたい。

<まとめ>

3月の東北大震災の影響もありながら、昨年実績を上回る手術件数を消化できた事と医療事故がなかった事に感謝したい。これからも、「安心・安全な医療の提供」を軸とした周術期医療を、全ての患者さんに提供できるよう日々努力していく。

<文責 佐藤昌悦>

人工透析室

<構成スタッフ> (手術室より出向)

看護主任 和泉奈保子
看護副主任 小田嶋明子 小田嶋ゆう子 中村勇美子
看護師 佐々木美紀子 伊藤 優子 佐々木智美

<ベット数>

15床 累積患者数 月間平均 562名

<特徴>

透析療法は（移植されなければ）生涯継続されなければならないため、患者自身の自己管理が不可欠である。そのためには、患者の健康とともに精神面・背景に及ぶ援助が必要となる。身体的・精神的・社会的でのアセスメントを行い、患者自身が透析を取り入れた生活スタイルを確立できるように、援助を行うのが透析看護目標である。

* 勤務体制 月・水・金 3クール（夜間透析施行）
火・木・土 2クール

<目標>

安心・安全な透析を提供します。

- 1、トリプルチェックの徹底
- 2、針刺し事故「0ゼロ」
- 3、透析装置「DCG-03」の操作の習得

<特記事項>

4月 透析室移動準備
業者の透析機器の始業点検

5月 5月 2日 引っ越し（全員出勤）
5月 3日 新透析室始業
患者監視装置（アシスタント）導入し、透析装置と連動
【5台より開始】

7月 7月 9日～7月10日
透析療法従事者職員研修会（大宮） 【参加者 伊藤 優子】

11月 11月21日
医療学術交流会 【研究発表 演者 中村 勇美子】
アシスタント個人用以外も全て透析装置と連動

11月28日
秋田県腎不全研究会 【研究発表 演者 伊藤 優子】

1月 アシスタントバージョンUP

3月 3月11日 東日本大震災にて、停電。以後3月中は、夜間透析休止。
夜間透析患者を日中に変更。日中は、ほぼ満床の状態にて施行した。

<1年間のまとめ及び反省>

5月2・3日に病院増築により、人工透析室移動。ベット数5床増え、計15床となり、透析装置DCG-02から新装置03に変更、患者監視装置(アシスタント)もバージョンアップした。また、機械室の透析液供給装置等も新装置導入し、薬品の補充・消毒方法も変わった。このように移動及び新透析装置導入により、スタッフは引っ越しの準備や片づけ、新装置操作等の習得に必死の1年間であった。

現在(3月)の透析患者数は44名。

ベット数が増えたことにより、透析前準備ができるようになり患者様を待たせることが以前より少なくなり、スムーズになってきている。また、業務支援の透析アシスタント導入により、確認は必要なものの、記録簡略化され軌道にのっている状況である。

スタッフ構成は、1名減が続いている状況で厳しいが、MEに協力を得ている。

目標については、針刺し事故は「0」で目標達成、トリプルチェックは、装置のアラームが鳴ることもあるが、大きな事故もなく稼働できた。

3月には東日本大震災による停電と断水のため、透析時間を短縮・透析方法の変更、夜間透析を中止した。大震災の余波にて透析補充液が入らず、減量でのHDFをしばらく続けざるを得なかった。夜間透析は、余震・停電の危険があり、3月は中止とした。患者様にご迷惑をかける事になったが、納得・ご理解して頂き、感謝している。全患者が日勤体制での透析になり、日勤の業務が繁雑になったため、スタッフに協力を得、スムーズに透析ができるよう、連日の早出で頑張ってもらった。

H22年度「延べ患者数6743名」「新規導入5名」「緊急・依頼延べ103名」である。

今後は、透析待機患者が控えており、年々依頼患者も増えているため、患者数は増加することが予測される。今回の地震の経験も踏まえて、マニュアルと災害時のマニュアルを見直しながら、遵守していきたい。今後も引き続き医療事故の無いように、安全で質の高い看護を提供するために、努力していきたい。

<文責 高橋佳子>

訪問看護センター

<平成22年度 4月1日現在のスタッフ>

看護師 主任 小田嶋恵美子
看護師 副主任 佐々木康子
看護師 小林 貴子
看護師 佐藤 友紀
事務 三浦 君子

<移動>

4月 看護師主任 高橋 礼子 (訪問看護センターから4病棟へ)
4月 看護師主任 小田嶋恵美子 (4病棟から訪問看護センターへ)

<機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。

実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在、訪問看護の対象者は、終末期患者、中心静脈栄養、胃ろう、腸ろう、尿道カテーテル挿入、気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方が増えている。それに伴い在宅での看取りも増えつつある。

<特記事項>

- ・今年で3年目となったが、5月より秋田県立衛生看護学院、衛生看護科の実習生5名を受け入れ在宅看護の実習指導にあたった。
- ・今年で5回目となる介護保険サービス提供事業所の情報公表に関しては大きな問題点はなく、情報公表調査もスムーズに受けることができた。

<平成22年度訪問看護件数>

- ・訪問看護総件数 1548件
- ・訪問診察総件数 496件
- ・臨時訪問件数 126件
- ・訪問看護利用総人数 85名
- ・新規対象者数 30名
- ・死亡者数 35名 (自宅9名、病院26名)

H22年度 訪問地区別利用者数

訪問地区	利用者数
横手	76
平鹿	5
大雄	2
山内	1
雄物川	1
増田	0
十文字	0
合計	85

H22年度 介護認定内訳

要支援	0
要介護1	0
要介護2	1
要介護3	3
要介護4	21
要介護5	52
医療保険	9

H22年度 年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	3	2	1
50～54	0	0	0
55～59	1	1	0
60～64	2	2	0
65～69	3	0	3
70～74	2	2	0
75～79	8	5	3
80～84	18	11	7
85～89	20	8	12
90～94	17	3	14
95～99	9	0	9
100	1	0	1
合計	85	34	51

H22年度 疾患別利用者数

疾患別	人数
脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）	21
心疾患（心不全等）	1
悪性疾患	9
特定疾患・難病（パーキンソン病等）	3
精神疾患（老人性痴呆等）	1
筋骨格疾患（骨折・関節症・骨粗鬆症等）	3
脳性麻痺	2
脳症（低酸素・インフルエンザ）	0
先天性疾患	0
呼吸不全	1
その他	44
合計	85

H22年度 利用者の医療処置状況（重複あり）

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	39
胃ろう	18
褥瘡	8
中心静脈栄養カテーテル	3
在宅酸素	1
気管カニューレ	2
ネーゼル	2
人工肛門	3
人工呼吸器	1
PTBD	0
腸ろう	2
処置なし	0
膀胱ろう	0
食道ろう	0
ペースメーカー	1

<文責 小田嶋恵美子>

M E 室

【体制】

< 室 長 > 吉岡 浩
 < スタッフ > 川越 弦 柏谷 肇

【業務内容】

医療機器安全管理室 医療機器中央管理
 院内機器管理（各病棟・外来・手術室・透析室・新生児室など）
 各種血液浄化および胸・腹水処理 回収式自己血輸血
 心臓カテーテル検査 ペースメーカー管理
 在宅医療における医療機器管理
 教育・啓蒙 各委員会への参加

【各施行件数】

	症例数	備考
持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）	2	総施行回数 3回
エンドトキシン吸着（PMX-DHP）	2	総施行回数 4回
白血球除去療法（LCAP）	2	総施行回数 7回
人工呼吸	13	
腹水処理（CART）	23	総施行回数 63回
心臓カテーテル検査	35	
体外ペーシング	3	
フィルター留置	2	
ペースメーカー植込み	13	新規 6件 交換 5件
ペースメーカー外来	164	ケアリンクによるフォロー 12件
回収式自己血輸血	25	整形 24件 婦人科 1件

※ 血液浄化の激減と腹水処理の大幅増が目立つ。また、今年度から回収式自己血輸血において機器の操作を行うことになった。

【主な機器の異動】

① 『新規導入・更新機器』

新規・更新	メーカー	モデル	設置部署	備考
静脈麻酔用 TCIシリンジポンプ	テルモ	TE-371	手術室	1台 新規
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-6501	手術室	1台 更新
気化器	GE	TEC-7	手術室	1台 更新
深部静脈血栓 予防装置	村中	フオートロン EXEL	手術室	4台 新規
電動油圧手術台	MIZUHO	MOT-5601	手術台	1台 更新
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	ME室	5台 更新
疼痛緩和用 シリンジポンプ	テルモ	TE-361	ME室	1台 更新
輸液ポンプ	テルモ	TE-161	ME室	5台 更新

輸液ポンプ	テルモ	TE-161	化学療法	5台 新規
除細動器	日本光電	TEC-5531	救急外来	1台 更新
水処理装置	日機装	VCR-81HS	透析室	1台 更新
循環加温装置	日機装	DRH-45C	透析室	1台 新規
透析液作成装置	日機装	DAD-50	透析室	1台 更新
透析液供給装置	日機装	DAB-20E	透析室	1台 更新
多用途 透析監視装置	日機装	DCG-03	透析室	14台 新規および更新
個人用多用途 透析監視装置	日機装	DBG-03	透析室	1台 新規

※ 新透析室における機器の全面更新と新病棟におけるモニター新設、化学療法件数増大によるポンプの台数増加と更新による。

②『廃棄機器』

廃棄	メーカー	モデル	設置部署	備考
透析液供給装置	東レ	TC-ABV	透析室	1台
透析液作成装置	ニプロ	NPS-40	透析室	1台
水処理装置	東レ	MX-600	透析室	1台
多用途 透析監視装置	日機装	DCG-02	透析室	10台
輸液ポンプ	テルモ	TE-112	ME室	7台
シリンジポンプ	テルモ	TE-311	ME室	1台
シリンジポンプ	TOP	5300	ME室	6台
パルスオキシメータ	フカダ電子	513	病棟備品	1台
パルスオキシメータ	フカダ電子	Ubi-x	病棟備品	1台
自動血圧計	コリン	BP-103N	ME室	2台
自動血圧計	コリン	BP-8800	ME室	1台
自動血圧計	コリン	BP-103i	ME室	4台
自動血圧計	コリン	BX-2	ME室	3台
血圧監視装置	コリン	BP CENTRAL1/four	ME室	1台
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-8502	ME室	3台
セントラルモニター	日本光電	WEP-8530	3A病棟	1台
サーマルアレイレコーダー	日本光電	WS-800R	ME室	1台
サーマルアレイレコーダー	日本光電	WS-821R	ME室	1台
送信機	日本光電	ZB-860P	ME室	3台
送信機	日本光電	ZB-810P	ME室	1台
洗浄装置	ZIMMER	PULSAVAC	手術室	1台
保育器	アトム	V-850	新生児室	1台

※ 旧式のポンプ類やモニター、自動血圧計の廃棄が多い

【院内報の発行】

- 5/17 増改築に於ける機器の異動について・その他
- 6/30 諸連絡・お願い・諸注意・点検結果報告
不具合報告書の運用開始について
- 8/31 不具合点検報告・ひやりハット事例の検討・輸液回路
- 12/27 不具合点検報告からの事例検証・人工呼吸器チェックリストについて

3 / 3 不具合点検報告からの事例検証・諸連絡

【学会・研修会への参加】

- 5 / 2 新規導入透析装置操作説明 (ME川越 ME柏谷)
- 5 / 22・23 日本臨床工学会 (ME川越ME柏谷)
- 6 / 11 ケアリンク説明会 (Dr2+1 ME2 柿崎：医療情報管理室)
- 6 / 25 医療安全「ER診療の落とし穴」 (ME川越)
- 7 / 24・25 第3回 透析液安全管理責任者セミナー (ME川越)
- 9 / 5 第6回 秋田県透析セミナー (ME川越)

【院内研修の実施】

- 4 / 2 新採用者オリエンテーション (新採用職員)
- 5 / 28 病棟機器取り扱い「モニター・DC・ポンプ」 (3 B 2名)
- 5 / 31 病棟機器取り扱い「モニター・DC・ポンプ」 (3 A 2名)
- 8 / 5 輸液・シリンジポンプ取り扱い (4 A 1名)
- 8 / 6 輸液・シリンジポンプ取り扱い (2 F・3 C 2名)
- 8 / 24 ケアリンク説明会システムについて (外来Ns)
- 11 / 5 除細動器取扱い基本操作 (看護課 医局)
- 11 / 26 人工呼吸器取扱い初級編 (看護課 医局)
- 1 / 24・26 BLS講習会AEDの使用法について (医療職種以外)

【学術発表・他】

- 5 / 22・23 第20回「日本臨床工学技士会」(ME柏谷)
「訪問看護患者に対する在宅ペースメーカーフォローアップの試み」
- 10 / 14 第49回「全国自治体病院学会」
「臨床検査・臨床工学分科会」ポスターセッション
「呼吸・循環」 座長 (ME柏谷)

【業務改善等への取組み】

1. 「不具合報告書」の運用開始

機器の修理や点検について、院内スタッフからの「修理依頼伝票」提出を中止とし、かわりに「不具合報告書」に詳細を記載して報告してもらおう形とした。これは報告された不具合内容についてMEが点検・検証し提出側へ報告し、有益な情報は院内報を通じて情報を公開、全体で共有する試みである。これまで一方通行だった修理・点検の内容を共有化することができることになる。今回、医療機器安全管理室の承認を経て採用された。なお、修理伝票はMEが必要に応じて作成し総務課へ提出することとした。

2. 人工呼吸器における「指示書兼チェックリスト」の運用開始

かねてより人工呼吸器の使用時のチェックリストは存在していたが、今年度はこれを刷新し、設定についてもDrより指示を記載してもらい、電子カルテへ保存することとなった。これにより指示の所在が明確となった。呼吸ケアチーム加算の取得は来年度以降の目標にしたい。

3. 「透析液水質確保加算」の取得

計画的、定期的な水質チェックにより診療報酬に加算されるが、今年度より取得できることになった。これにより透析器安全管理委員会が設置され、より安全な管理体制が構築されることになった。

4. 臨床業務の拡大

今年度より手術中の回収血自己血輸血における機器の操作を行うことになった。また、来年度よりラジオ波治療にも関与する見通しである。

5. 遠隔モニタリングシステム「ケアリンク」の導入

従来の通院下でのペースメーカ管理に加え、遠隔地から送られてきた情報をWebサイトで効率的に管理する遠隔モニタリングシステムを導入した。これにより治療の質の向上と外来業務のスリム化が図られる。

【総括】

病院機能評価の合格に一息つくも、増築棟への透析室移転、新病棟稼働と慌ただしいスタートを切った一年であった。法改正後より業務内容は増え、手も頭も回らない状況の中、増改築に伴った機器の更新や設置、新透析室の機器管理、業務改善への検討と奔走したつもりである。旧機器は徐々にではあるが概ね更新され、操作や管理がしやすくなったことで、より安全な機器を提供できるようになった。おかげで以前よりトラブルやインシデントの報告は少なくなったように思える。

その後の冬は大雪に嘆き、更には東日本大震災の発生。殆どの機器は電気を必要とするため、停電における脆弱性が見事に露呈されてしまった。備品や薬品の在庫、食料、水や電気、燃料といったライフラインの確保などは、これまでのような安易な考えを払拭し、対応を考慮、検討し今後の業務に当たらなければならないと痛感した。

来年度はスタッフが增えることになった。業務範囲の拡大や機器管理の見直しを図り、よりよい体制で臨みたいところである。

<文責 川越 弦>

臨床検査科

スタッフ

佐藤恵美子 (技師長)
平塚多喜雄 (室長)
小丹まゆみ (室長)
佐々木絹子 (室長)
工藤真希子 (主任)
長瀬 智子 (主任)
佐々木美奈子 (主任)
大嶋 聡子 (副主任)
高橋 隆子 (総括検査助手)
加賀谷美智子 (検査技師)
和賀 幸子 (検査技師)
田中 清美 (検査技師)
村上さとみ (検査技師) 平成22年5月10日より
松井富美子 (業務員)

目標 正確かつ迅速な結果報告で安心できる良質な医療へ寄与する

検体検査

遠心分離する検体の分別を徹底した。これにより、分析機の休止状態が減少し、効率良く分析することが報告時間の短縮へつながったと思う。

病院にとっては予定外の「検査科改修工事」も実現していただいた。水周りが中心で大掛かりな工事であったがお陰様で、スタッフの希望通り部屋全体のレイアウト変更が叶い、全員の業務動線が随分楽になった。工事期間中は、分析機の隣で工事関係者も業務をされており、同じ空間で検査室業務と工事業務が同時進行するという、稀な体験をした。

生理検査

改築工事中の仮住まいの部屋が狭く、患者さんと対峙する業務なので接遇の上でも、改築工事の日程・移動場所確定するまでの長い時間は精神的に厳しい日々であった。

あの環境で事故なく過ごせて何よりである。

病理検査

増改築工事計画で「病理検査室」が新たに出来た。病理検体と結果の管理のほか、病理診断・切り出し、病理医と臨床医とのデスクッションなど、病理診断に関する業務が全て一つの部屋で行えるようになり業務環境が改善された。特に、切り出しは、標本室を借りていたので、使用時間帯が、Ope後のご家族への説明の時間と重なり、遠慮せねばならず時間の配分が大変であった。これを気にすることもなく業務ができるのでとても快適になった。

年間検査実績(件)

検体検査

尿一般	26,595	生化学	484,327	赤沈	3,391
尿定性	17,267	血糖	25,078	血ガス	2,136
尿沈渣	9,740	HbA1c	12,475	免疫関連	5,423
便潜血反応	4,196	血液一般	42,564	輸血関連	3,032
インフルエンザ	1,725	凝固線溶	9,185	乳幼児	1,488
一般細菌	2,511	感染症	15,695	外注	20,077
結核菌関連	859	腫瘍マーカー	9,152	外注率(%)	2.6

生理検査

心電図	11,120	簡易聴力検査	6,397	腹部エコー(検診)	1,451
ホルター心電図	263	スパイログラフイー(VC・FVC)	2,011	甲状腺エコー	26
マスターダブル	209	眼底カメラ	1,541	頰動脈エコー	274
マスタートリプル	5	脳波	47	心エコー(UCG)	1,613
トレットミル	5	MCV	142	指尖容積脈波	8
24時間心電血圧計	3	新生児聴力検査	158	血圧脈波	249

病理細胞診

生検	2,177	術材	244	細胞診	818	婦人科細胞診	3,957
----	-------	----	-----	-----	-----	--------	-------

<文責 佐藤恵美子>

OLYMPUS システム顕微鏡 BX43を導入して

平成22年7月 尿沈渣鏡検の機器として、OLYMPUS BX43システム顕微鏡が導入された。

今までの顕微鏡との大きな違いは高演色白色LEDを搭載しており、ハロゲンランプと同等の色合いが再現され、明るさを変えても色合いが保たれるので、フィルターによる色合い調整が不要で、長寿命(約20,000時間)により照明性能を維持することができる。これにより解像力、コントラストも以前より充実している。尿沈渣は無染色での鏡検である為、以前より優れた解像力、コントラストにより、鏡検業務がスムーズに行われている。今回この機器が導入されたことにより、今以上に臨床診断に少しでも役立つような尿沈渣の鏡検結果を提供していきたい。

<文責 佐々木絹子>

カード用全自動輸血検査装置 IH-1000を導入して

H22年10月、全自動の輸血検査装置が導入された。

この分析器はIDカードを使用し、分注から検査結果の読み取りまで全て自動で行われる。従来、輸血に関連した検査は試験管法にておこなわれ、凝集の有無は検査した当事者でなければ分からず、凝集像の保存は不可能であった。その為、検査者の手技の統一が重要であったが、実際は難しく、また、用手法である為、検体の取り間違えや判定間違いが起こり得る危険があった。

本分析器を導入したことにより、結果の解離や判定間違いを防止することができた。また、検体は全てバーコード管理の為、検体の取り間違えも防止する事ができ、より、安全で精度の高い輸血検査を行うことができるようになった。更には、全自動の為、業務の効率化が得られた。

<文責 佐々木美奈子>

食 養 科

平成22年度を振り返ると、夏の猛暑（脱水症患者の急増）から始まり、冬の豪雪（死傷者続出）そして、やっと訪れる春を心待ちにしていた矢先の大地震、と大変な一年だったように思います。

ところで、今回の震災で改めて感じさせられたことが多々ありました。

まず、当院で定期的に行われていた火災訓練（震災訓練ではなかったが）は、避難誘導・役割分担・点検・報告等、これらは実際の場においてはあまり活用されておらず、見直す点があると思いました。また、ライフライン（ガスや電気や水）の問題・ボイラーなどの熱源の問題・食品の備蓄や燃料備蓄の問題・食品の調達方法など、今後検討を要する課題が山積状態にあると思いました。特にライフラインのストップ状況によって対応が違ってきますので、今後は、使用可能な場合と使用できない場合を想定しながらの対応（体制作り）も必要だと感じました。

今回は自家発電により電気は供給されたものの優先順位があり、高いボルトを要する「熱風消毒保管庫」が使えず、また多量の水を必要とする「食器洗浄器」も制限され、更には「厨房専用エレベーター」も稼働できない状況でした。

ただ、そのことにより（エレベーターが使用できなかった事により）職員総動員による配膳・下膳の作業（リレー方式）では、すばらしい協力体制（チームプレイ）で、職員が心をひとつにできた瞬間だったように思います。

また、ふだん当たり前（普通）だと思っていたものが失われてみて、はじめて当たり前（普通）である事が、どんなに有難いものであるかを痛感させられました。

ところで、今回（この震災時に）提供した食事について、患者さんからお礼のお便りが2件寄せられました。

「災害時なのにいつもと変わらない温かい食事を有難う」

「停電や断水があったにもかかわらず、普段と変わりなくするように工夫していて感心しました。」

（原文のまま掲載）

われわれにとって、患者さんから頂くこういった感謝のお言葉は、本当に「励み」となり「やる気」となり「活力」となります。これからも、頑張っって参りたいと思います。

食養科スタッフ

技師長 原田 優子

主任 川越 真美

主席調理技能士 天羽 勝義

主任 小松 信宏

嘱託事務員 幕沢 美紀・藤原 由香

嘱託調理員 松井世津子・佐藤 美枝（平成22年12月退職）

石川 勝美・高橋 広美・赤川 千恵・富永美保子

百合川智賀子・大坂美津代（平成22年8月退職）・佐藤殉子・高橋麗
（平成23年3月より産休）・高橋陽香（平成23年3月退職）・千葉恵理
子（平成22年5月退職）・細川陽子
パート食器洗浄員 柴田文子（平成23年3月退職）・田中澄子・小山訪子

計 22名

院内活動

平成22年10月1日

コメディカル研究発表会 食養科担当

院外活動

平成22年10月14日～15日

全国自治体病院学会（市立秋田総合病院担当・秋田市にて）

パネルセッション

演題 「食事サービスの取り組み」

原田 優子

平成22年10月24日（日）

秋田県栄養士会県南地区会

食育事業（栄養指導等）（秋田県立雄勝高等学校にて）

テーマ 「バランスのとれた食事をしていますか。」

原田 優子

*出前健康講座（いきいきサロン）実績

平成21年6月27日

八王寺会館にて 原田 優子

平成21年8月5日

御所野会館にて 川越 真美

平成21年11月17日

安田原下町町内会館にて 川越 真美

平成22年12月24日

杉目会館にて 原田 優子

教育実習受け入れ状況

平成22年7月26日～7月31日

柳沢 悠奈（秋田栄養短期大学）

山田 夕貴（秋田栄養短期大学）

平成23年2月21日～2月26日

矢野 美智（東北女子大学）

平成22年度食数及び給食材料費

区分	食 数				1人1日当たり単価			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	4842	3905	4355	13102	725	681	691	701
5月	5161	3895	4404	13460	690	646	575	640
6月	4930	3718	4526	13174	714	660	569	649
7月	5047	3752	4494	13293	683	638	572	633
8月	5121	3865	4759	13745	665	639	542	615
9月	4621	3739	5204	13564	761	659	565	658
10月	5770	3913	4964	14647	693	644	556	634
11月	4901	3814	4207	12922	754	629	600	667
12月	4612	3929	3754	12295	739	674	701	707
1月	4880	3558	4967	13405	689	712	513	630
2月	4748	2496	5398	12642	737	776	571	674
3月	5728	2758	4340	12826	627	694	687	662
合計	60361	43342	55372	159075	8477	8052	7142	7870
平均	5030	3612	4616	13256	706	671	595	656

平成22年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来													
	肥満症	2				1	2	1					
	糖尿病	7	5	6	3	5	2	6	8	2	2	2	1
	脂質異常症	1			2	1	2		1	1			
	慢性腎不全								1	1			
入院													
	手術後食		2	2	3	4	8	5	7	8		4	6
	糖尿病	4	3	3			1		2		5	2	1
	心疾患			1									
	慢性腎不全			1					2	1			
	肥満	1											
	クローン病	1											1
集団													
	糖尿病			4	2	3	1	6	2	3	9	4	3
	合計人数	13	10	17	10	14	16	17	22	16	16	12	12

< 文責 原田優子 >

健康管理センター

スタッフ

所 長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師	鈴木久美子	
保健師	佐藤恵美子	
保健師	松浦 喜美	
看護師	加藤 亜樹	
副主査	柴田 昌洋	
事務員	菊地 智子	
事務員	藤倉 美穂	
事務員	奥山沙耶香	
事務補助	藤田 千紘	(平成22年5月から8月まで)
事務補助	藤屋奈緒子	(平成22年5月から7月まで)
事務補助	藤井 虞子	(平成22年5月から7月まで)
事務補助	細川美沙樹	(平成22年5月から7月まで)

概 要

主な健診項目での対前年度比では、延べ受診者数で10,859名となり、昨年度と比較して2.05%の増となり、昨年度に引き続き延べ受診者数で1万人の大台を突破しました。なお実質の受診者数は、7,156名です。請求額は146,627千円で10,702千円、7.87%増となりました。この実績は、院内関係部署各位のご理解ご協力により達成されたものであり、心より感謝申し上げます。

近年健康保険組合や事業所などが生活習慣病予防に係る健診を充実させている事に伴い健診受診者が増加傾向にあり、また二次検診予約窓口への対応や受診者への継続フォローの充実といった本来の業務の他、外来部門での健康診断や予防接種の担当、院内職員健康管理として衛生委員会の指示のもと感染データ管理や各種予防接種対応などといった部署外の業務も当センター保健師が担っており、業務の範囲や量は年々拡大・増加し続けております。

平成22年5月に健康管理センターが新棟2階に移り、新たな環境の下業務がスタートしました。その中でも引き続き当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づき、「地域医療・保健に貢献します。」の基本方針の実現に努めるとともに、二次検診を通して保険診療部門へ貢献する事で、健全な病院経営に資するよう頑張っております。

22年度目標

1. 医療事故防止に努める
2. 二次検診受診率向上
3. 新棟での健診体制の充実

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
政管一般健診・付加	1,960	2,013	1,842	2,465	2,671
日帰り人間ドック	783	910	957	939	1,018
宿泊人間ドック	186	172	184	185	182
脳ドック	157	119	134	128	158
市役所関係職員健診	2,222	2,298	2,477	1,900	1,933
事業所健診	801	797	718	759	675
子宮がん検診	1,602	1,579	1,950	1,889	2,080
乳がん検診	949	1,243	1,500	1,634	1,669
B型肝炎検査	451	443	431	462	473
小計(件数)	9,111	9,574	10,193	10,361	10,859
増減率(%)	5.82	5.08	6.47	1.65	4.81
二次検診(自動車健保)	43	34	56	—	—
合計(件数)	9,160	9,613	10,255	10,361	10,859
請求額(千円)	116,912	124,037	130,993	135,925	146,627
増減率(%)	2.41	6.09	5.61	3.77	7.87

参考資料

特定健康診査	受診者	122名	請求額	825,344円
特定健康指導	受診者	4名	請求額	32,130円
内蔵脂肪CT	受診者	50名	請求額	150,000円
肺CT	受診者	33名	請求額	396,000円
腫瘍マーカー	受診者	521名	請求額	1,625,870円
ピロリ抗体	受診者	67名	請求額	67,000円

平成22年度(2010年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数	請求金額	検査料金	消費税
協会けんぽ一般健診	2,569	45,537,555	43,369,100	2,168,455
付加健診	142	3,176,506	3,025,244	151,262
子宮ガン検診	131	501,480	477,600	23,880
子宮ガン(オプション)	506	1,535,520	1,462,400	73,120
乳ガン(オプション)	442	1,871,651	1,782,525	89,126
肝炎ウイルス検査	4	7,936	7,558	378
日帰り人間ドック	1,018	33,354,477	31,766,168	1,588,309
宿泊人間ドック	182	11,253,637	10,717,750	535,887
脳ドック	158	5,435,000	5,176,190	258,810
市役所関係職員健診	1,933	18,508,687	17,627,321	881,366
事業所健診	675	10,677,993	10,169,517	508,476
婦人科検診	1,132	4,292,830	4,088,410	204,420
乳ガン視触診・マンモグラフィー	1,227	6,297,585	5,997,700	299,885
B型肝炎検査・接種	473	1,080,427	1,028,978	51,449
CT・腫瘍マーカーほかオプション	671	2,238,870	2,132,257	106,613
特定健康診査・特定保健指導	126	857,474	816,642	40,832
合計	11,389	146,627,628	139,645,360	6,982,268

<文責 柴田昌洋>

事務局

平成22年度は、「市民のための優しい病院づくり」を目指して平成21年2月から始まった増改築工事において、増築棟が完成し、新しい病棟や外来での診療を始めた一方で、通常通りの診療を行いながら、既存建物の改修工事を進めるという一年でした。引越しをしては工事を行い、引越しをしては工事をするというあわただしさの中で、患者さんには騒音や振動なども含め、ご迷惑をおかけしたのではないかと、大変申し訳なく思っています。

工事期間中ということで、患者数が減るのではないかと心配しましたが、大幅な減少はなく、むしろ外来患者数は増える結果となり良かったと思っています。

工事も解体工事と外溝工事などを残すのみとなり、間もなく完成の予定です。

平成22年度の診療報酬改定は、診療報酬本体でプラス1.55%、薬価改定等はマイナス1.36%となり、全体ではプラス0.19%と10年ぶりのプラス改定となりました。また、DPC対象病院として2年目となり、在院日数が減った影響もあって入院基本料が増え、手術が増えたことなどにより収益の増を図ることができました。一方で、人件費の増や増築棟の維持管理費の増などで経費が増えましたが、薬価改定やジェネリック薬品の使用拡大などで薬品費が減少したことなどにより、平成22年度も引き続き黒字決算となりました。

「病院事業改革プラン」は、2年度目にあたりますが、これによって目標は達成できたものと考えております。

平成22年3月に訪問審査を受けた病院機能評価（Ver. 6.0）は、5月7日付けで「中間的な結果報告」をいただき、書類による補充的な審査を経て、8月6日にVer. 6.0では県内初めての認定を受けることができました。

年度末には、大きな災害が発生しました。平成23年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震です。当地域は震度5弱の揺れとなり停電しました。翌日、午後2時16分に電気が復旧し、午後4時10分に水道が復旧しましたが、この間、職員ひとりひとりが患者さんを守り、医療を継続するために奮闘しました。

震災は、東北地方や関東地方のみならず日本全体に影響を及ぼす災害となり、当院にも流通の問題を含め大きな影響をもたらしました。地震発生時や停電、断水時の対応など防災対策マニュアルの見直しや非常時の診療体制のあり方など、今後の課題として早急に検討しなければならぬものとなりました。

平成22年度も、患者さん中心に安心・安全な医療の提供に努め、地域の人々に信頼される病院を目指して努力してまいりました。今後も引き続き、経営の健全化に努め、地域の人々の信頼に応えるべく努力してまいります。

<文責 佐藤正弘>

総務課

企画係

スタッフ 佐藤俊幸、柿崎正行、阿部千鶴子

業務内容

- ・ 病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・ 病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・ 病院機能評価の取得に関すること。
- ・ 病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・ 病院広告及び広報に関すること。
- ・ 病院ホームページに関すること。
- ・ 皆様の声（投書箱）集計。
- ・ 外来・入院患者さんアンケート調査及び集計。

平成22年度「皆様の声」集計結果

【入手方法】

投稿など	電話	電子メール	職員へ口頭で	その他	合計
68	4	9	1	3	85

【内容】

	苦情	要望	感謝	その他
診療科	3	2	8	3
看護科	15	5	12	2
事務局	16	18	2	2
リハビリテーション科	0	2	0	0
食養科	0	3	8	1
健康管理センター	0	1	0	0
その他	5	4	0	2
合計	39	35	30	10

<文責 佐藤俊幸>

総務係

総務係

スタッフ 佐藤潤、菊池優、亀谷良文、後藤美佐子、中田千絵、佐藤ひろみ、長澤克彦、
三浦和也、津川明子、藤田千紘

業務内容 人事・給与支払等管理業務

旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務
文書收受・発送・保管業務
電話交換業務
公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務
選挙事務（院内入院患者の不在者投票）
互助会会計事務

医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

業務内容 医局関連庶務業務全般

医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】

医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務

医局費、旅行積立金収支報告処理業務

医師給与に関する書類の作成業務

医局行事のセッティング業務

事務当直

スタッフ 佐々木悟、茂木伸悦、小田島定男、照井利明

業務内容 夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備

スタッフ 照井祐一、福田藤太郎、堀江努、鈴木重樹、佐藤賢

業務内容 夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

<文責 藤木正文>

管財係

管財係スタッフ

係長（薬品担当） 阿部 光子

物品担当 菅原 祐司、照井 真澄、伊藤有希子

施設担当 伊藤 建一、高橋 正男、渡辺ひとみ

ボイラー室 森谷 茂、柿崎 更生、杉田 健一、堀江 敦司

山中慎太郎、千葉 禎彦、佐藤 幸夫

駐車場 珍田 健、黒沢 秀利、佐々木政雄、谷口 英明、

高橋幸志（～6/30）、田口雅浩（～11/15）、高橋 諒

※ 藤倉忠彦、佐藤悠樹（病院増改築のため仮設の出入口に配置）

* 係長（薬品担当）

業務内容

- ・ 管財係統括

- ・ 医療機器の購入に関すること
- ・ 医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・ 酸素使用状況調査
- ・ 職員被服の見積・発注
- ・ 未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・ 医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・ 棚卸資産調査、統計に関すること
- ・ 院内掲示に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他管財係に関すること
- ・ 病院増改築に関すること

○ 医療機器契約業務（経常分）

契約件数 画像診断ワークステーション他50件
 契約総額 ¥116,939,100.-

○ 医療機器契約業務（増改築分）

契約件数 デジタル超音波診断装置他30件
 契約総額 ¥404,564,581.-

○ 医薬品見積状況

試薬 H22.3.30 507品目
 薬品 H22.9.24 1474品目

平成22年度医療機器購入実績

番号	品名	科・課名
	【経常分】	
1	画像診断ワークステーション	読影室
2	放射線部門画像システム	サーバー室
3	超音波画像診断装置	整形外科外来
4	エンドパス内視鏡用手術用持針器、把持角度自動修正機能付き	手術室
5	エンドパス内視鏡用手術用持針器	手術室
6	光線治療器LEDベッド	産婦人科病棟
7	気管挿管ファイバースコープ	手術室
8	イオン導入装置	ペインクリニック外来
9	レッドコード（スリングエクササイズセラピー）	理学療法室
10	高圧蒸気滅菌器	臨床検査科
11	全自動輸血検査装置	臨床検査科
12	システム生物顕微鏡	臨床検査科

13	小型シリンジポンプ	ME室
14	シリンジポンプ	ME室
15	輸液ポンプ	ME室
16	静脈麻酔専用シリンジポンプ	ME室
17	麻酔用ベッドサイドモニター	ME室
18	気化器	手術室
19	人工呼吸器AVEA点検治具	ME室
20	深部静脈血栓予防装置	手術室
21	無散瞳眼底カメラ	健康管理センター
22	ベットパンウオッシャーN I N J O	2A、3A病棟汚物室
23	電動油圧手術台	手術室
24	メディカルシーラー(印字付き)	中央材料室
25	チューブ・器具乾燥収納庫	中央材料室
26	マナ板殺菌庫	厨房内
27	パンラック	食養科倉庫
28	インシデントアクシデントレポート	院内
29	オーダーリング検査所見サーバ	サーバ室
30	誘発電位測定装置 バイキングクエスト	臨床検査科
31	カーボンヘッドフレーム	手術室
32	コンビネーション刺激装置	理学療法室
33	ジンマー パワープロマックス	手術室
34	薬用冷蔵ショーケース	薬剤科
35	リストバンドプリンター	医事課
36	ウォームタッチブロワー	手術室
37	パルスオキシメーター	新生児室
38	超音波画像診断装置	手術室
39	透析液中エンドトキシン測定装置	人工透析室
40	ストレッチャー	3C病棟
41	バーコードラベルプリンター	臨床検査科
42	与薬カート	薬剤科
43	渦流浴装置ワールプール	理学療法室
44	高輝度光源装置(中古品2004:11製造品)	内視鏡室
45	長下肢装具(KAFO)	理学療法室
46	公用車	総務課
47	モニタラック	MR I 操作室
48	救急カート	MR I 操作室
49	シリンジポンプ	ME室

50	輸液ポンプ	ME室
51	モニタラック	読影室
	【増改築分】	
1	デジタル超音波診断装置（腹エコー）	超音波室（消化器センター）
2	デジタル超音波診断装置（検診用）	健康管理センター
3	電子内視鏡システム 内視鏡用超音波観測装置 アルゴンプラズマ凝固装置 内視鏡用炭酸ガス送気装置	内視鏡室、透視室A
4	心臓用超音波診断装置	生理検査室
5	ビズラス532S レーザースリットパイプ	眼科外来
6	自己血採血用ベッド	自己血採血室
7	カメラ及び写真撮影装置一式	病理検査室
8	輸液ポンプ	ME室
9	モニター及び送信機、付帯費用 セントラルモニター	ME室
10	モニター及び送信機、付帯費用 送信機	ME室
11	アンテナ工事費用	ME室
12	除細動器	ME室
13	消化器センターDCR機器追加	内視鏡室
14	外来診察状況表示システム	院内
15	配膳車	食養科
16	MR I	MR I室
17	化学療法用ベット	化学療法室
18	医療用備品一式	増築棟
19	施設用備品一式	増築棟
20	院内ネットワークHUB増設	院内
21	無影燈	救急センター
22	内視鏡用保管庫	内視鏡室
23	待受状況表示用ディスプレイ	内科外来消化器センター
24	カプセル内視鏡システム	消化器センター
25	検診宿泊室備品一式	検診宿泊室
	【昨年度繰越分】	
26	増築棟胸部X線撮影装置	増築棟X線室
27	FCRSpeediaCSシステム	増築棟X線室
28	MWM接続	増築棟X線室
29	採血業務支援システム1・採血台2(新規)	外来採血室

30	人工透析装置	透析室
31	ウォークスルーオンラインバス(寝たまま介助入浴・新規)	増築棟3階
110	便尿器自動洗浄消毒装置(新規)	増築棟他
111	超音波診断装置(新規)ソノビスタ-C3000	増築棟2階
112	アトム検診台(新規)・附属品含む	増築棟2階
113	医療照明装置(新規)	増築棟2階

薬品購入実績

	21年度	22年度
内服	207,411,309	185,856,023
注射	458,162,699	463,839,683
外用	44,718,461	35,437,761
血液	30,148,937	26,112,493
試薬	64,285,789	68,166,141
合計	804,727,195	779,412,101

(消費税含まない)

<文責 阿部光子>

* ボイラー室

業務内容

- ・ボイラー室の保守管理
- ・空調機械保守管理
- ・冷暖用ファンコイル保守管理
- ・蛍光灯交換及び管理
- ・冷房・暖房運転
- ・自家発電機の管理
- ・重油取り扱い及び管理
- ・医療ガス情報監視、点検及び酸素ボンベ交換

○ 宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請

警報関係 17件
 施設関係 28件
 蛍光灯関係 76件
 ナース関係 23件

まとめ

1. 気温、気象について

22年度は前年度と比較すると6月から10月までの5ヶ月間、気温の高い日が続き猛暑の夏でした。また、1月は気温が低く、例年のないほどの降雪量で豪雪の冬でした。

そして3月11日の東日本大震災では、今までに経験したことのない停電、断水と大変な1年でした。

2. 経費について

猛暑、豪雪ということで冷房、暖房の運転時間が昨年度より増加しました。その結果、ボイラーの重油消費量が前年度より3,230L増加しました。また、21年度より高騰を継続している重油の単価上昇に歯止めがかからず年度平均で前年度より約12円/L上昇し、年間で約470万円の経費増加となりました。

水道水使用量は、ボイラーからの復水回収量を改善することで、年間で131m³の削減をすることができました。

薬品の使用量ではボイラーの薬品注入量を適正に管理することで、年間で96Lの削減をすることができました。

3. 23年度の課題

重油の価格上昇に対応するために、更なる燃料コスト削減に向けてボイラーの運転方法の見直しや配管からの放熱ロス回収するなどの改善を早急に行う必要がある。

(例：バックアップボイラーの運転見直し、蒸気、冷温水配管の保温)

節電の取組みでは、空調機設備の運転方法の見直しを図り、院内の全体を対象とした運転方法から必要などころだけに必要な時間だけという局部空調をめざし改善を行います。(例：夜間の病棟系と診療棟系の差別化)

修理、修繕等の外注依頼費削減のため更なる内作化(内製化)に努めるとともに予防保全を重視し点検サイクルの見直しや保全作業の習熟、平準化に向けた取組みを行います。(例：点検シートの見直し、作業習熟計画)

<文責 柿崎更生>

医 事 課

平成22年度は診療報酬プラス改定の影響で、入院収益で5.12%増、外来収益で0.39%増という結果となった。内容は、新たな施設基準を取得することにより収益が増加したことと、手術料の適正評価による単価アップで外科系の手術が増収となったことがあげられる。さらに、DPC係数改定による係数アップも収益増に大きく影響した。

DPC請求に関しては今後も機能評価係数Ⅱでの係数アップのため、職員が自分自身の役割を明確にし高い意識を持って、医師・診療情報管理士・医事課職員との連携を円滑に進めていかなければならないと思う。

平成22年4月1日現在のスタッフ

浮嶋 優子	高橋 功	石山 博幸	照井 圭子	百合川深里
石塚 紫	伊藤 雅子	田澤 妙子	谷川加奈子	伊藤 雅子
佐々木有紀子	瀬田川春香	佐々木和貴子	照井希世子	菅原真由美
藤田ゆかり	高橋真知子	高橋由紀子	青池 満雄	村田 芳江
伊藤喜美子				

医事課の業務内容

- ※ 窓口業務
- ※ 医療費請求業務
- ※ 医療相談業務

医事係

《入院事務担当》

- ・救急医療情報（空床状況救急報告）送信
- ・保険請求業務
- ・DPC調査票内容検討
- ・入院請求書発行、配布、送付
- ・査定、返戻内容の検証
- ・未収金状況確認と対策
- ・労災、公務災害処理
- ・新生児出産届け出
- ・産科医療補償制度処理
- ・諸証明の受付管理
- ・入院申込書、病衣使用同意書、個室使用同意書の保管

《外来事務担当》

- ・受付業務
- ・カルテ管理（紙）
- ・保険請求業務

- ・交通事故、労災、公務災害の処理
- ・生保給付券の処理
- ・医療要否意見書の処理
- ・諸証明の受付処理
- ・検診契約
- ・病院日報、月報の作成
- ・各種申請届出
- ・院内調整

会計係

- ・窓口現金徴収
- ・未払い金の徴収
- ・現金収入内訳票の作成
- ・日計表の作成
- ・納入通知書の作成、消込
- ・調定業務
- ・決算資料の作成

医療相談室

- ・医療相談
- ・福祉機関との連携
- ・介護保険主治医意見書の処理

<文責 浮嶋優子>

医療安全管理室

概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。

平成20年4月より、医療安全管理室に専任の医療安全管理担当者を配置し、病院全体の医療安全のに関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務める。

構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長 | 吉岡 浩 |
| 2) 医療安全管理室担当者（専任リスクマネージャー） | 佐々木佳子 |
| 3) 医薬品安全管理者 | 石田 良樹 |
| 4) 感染対策管理担当者 | 小川 伸 |
| 5) 褥瘡対策管理担当者 | 佐藤美夏子 |
| 6) 医療機器安全管理担当者 | 川越 弦 |
| 7) 医療安全管理室事務 | 阿部千鶴子 |

【医療安全】

業務

- 1、院内報告制度の整備ひやりハット報告書の検討集計・分析
- 2、医療安全の委員会に関する活動 リスクマネージャー委員会・感染対策委員会・救急運営委員会etc.
- 3、医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案 ひやりハット通信の作成・回覧
- 4、医療安全の為の指針やマニュアルの作成
 - 1) 医療安全に関する指針・規程の見直し
 - 2) 医療安全マニュアルの作成
- 5、医療安全に関する研修・教育

開催日	内容	対象
4月22日	静脈注射シミュレーション	看護科新規採用職員
5月21日	手術室での火災リスク Fire Safety in the Operating room	手術室・防災関係者
5月24日	血流感染とマキシマルバリアアプリケーション集合研修と演習を行う	臨床研修医新規採用職員・看護科 新規採用職員・興味のある方
6月7日	中心静脈カテーテル挿入シミュレーション-安全なCVC留置のご案内-	臨床研修医
6月14日	院内暴力 -働く女性が身を守る研修会-	全職員

7月23日	採血検体の取り扱いについて	診療科・看護科
8月9日	アレルギーの仕組みとアナフィラキシーショック	研修医・看護科・興味のある方
8月30日	関節拘縮のある患者の関節の動かし方	看護科・興味のある方
9月22日・24日	造影剤のリスクマネジメント 職業被曝防護 MRIのリスクマネジメント	全職員
11月1日	埋め込み型ポートの管理	診療科・看護科・薬剤科
11月5日	除細動器の勉強会	診療科・看護科
11月26日	人工呼吸器の取り扱い	診療科・病棟看護師
12月10日	がん化学療法における嘔気対策	診療科・看護科・薬剤科
12月15日	輸血施行時のリスクマネジメント	診療科・看護科・薬剤科・検査科
1月27日	KYT危険予知トレーニング	リスクマネージャー委員
2月2日・7日	MRI勉強会	全職員
2月25・28日	医療安全管理者養成研修を受講して みんなの願い！安全で質の高い医療を 提供したい	全職員

6、医療安全に関する院外からの情報収集と対策 医療安全情報の掲載

7、医療安全に関する院内評価業務

投薬確認の監査薬品保管に関する監査

救急カートの整備状況監査

平成22年度の主な事項

1、インシデント・アクシデントシステムの導入

インシデント・アクシデントレポートを、院内ネットワークを使用し報告できることによって、入力時の負担を軽減し、発生部署での検討内容の入力と、院内での情報共有を図る。また、統計処理が簡単にできるようになることを目的とした。

4月からシミュレーションを行い、9月に導入した。導入後のレポート提出の件数の減少はなかった。今後は、入力方法や内容について検討し改善を行っていく。

2、点滴・注射薬剤の一施行毎払い出し

病院機能評価での指摘事項である「点滴・注射薬剤の一施行毎払い出し」について、薬剤科と検討し、5月27日から実施開始とした。

3、輸液ポンプ使用マニュアルの改訂

ハイリスク薬剤使用時のインシデントレポートから、医薬品安全管理担当、看護科作業部会で検討の結果、輸液ポンプ使用時のチェックリスト使用を行う事とした。1か月使用後に、見直しを行い、院内の手順とした。

4、患者個別の禁忌薬剤の注意喚起表示

禁忌薬の注意喚起について、患者個別に設定を行う事とした。薬剤科、医療情報管理室で設定を行う。

5、凍結血漿の融解について

凍結血漿融解方法のインシデントレポートから、輸血療法委員会と検討の結果、恒温槽の導入と、検査科での融解払い出しを行う事とした。

6、抗凝固薬・抗血小板薬の休薬方法

手術・検査・処置時の抗凝固薬・抗血小板薬の休薬について診療科・医療情報・薬剤科と検討し、休薬時の手順・説明・同意書の作成を行った。

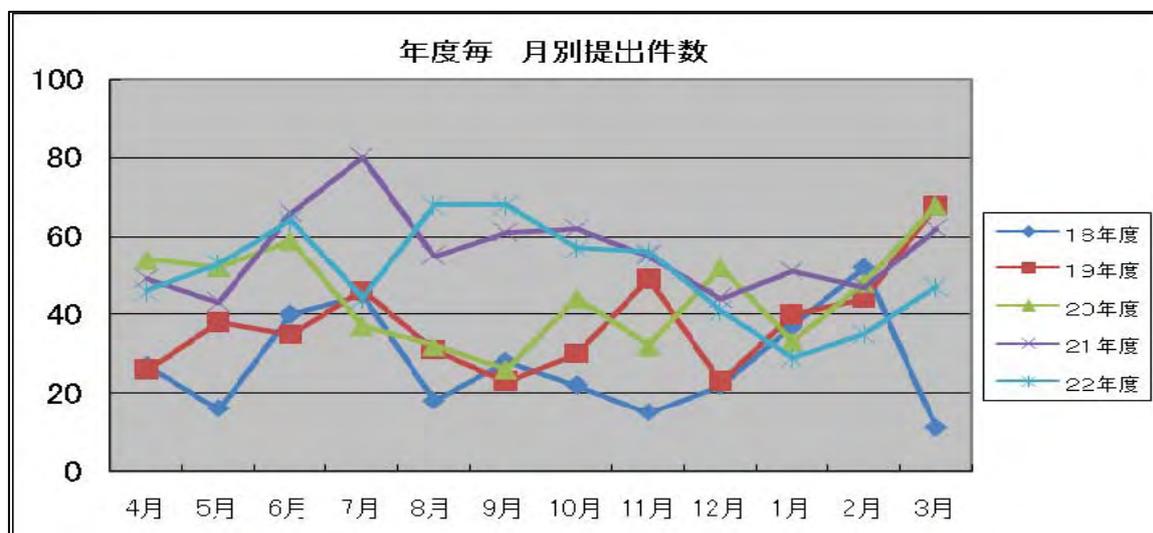
7、薬剤の使用期限

薬剤の使用期限を24時間としていたが、使用量や使用方法について問題提議があり、薬剤科・感染対策委員会と検討し、薬剤の使用期限について改定を行った。

ひやりハット集計

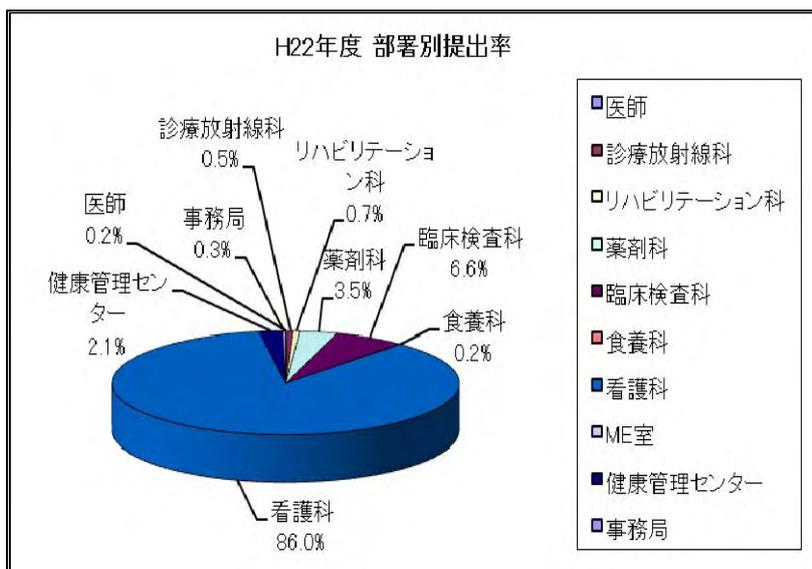
<月別件数>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H18年度	27	16	40	45	18	28	22	15	22	37	52	11	333
H19年度	26	38	35	46	31	23	30	49	23	40	44	68	453
H20年度	54	52	59	37	32	26	44	32	52	33	48	68	537
H21年度	49	43	66	80	55	61	62	55	44	51	47	62	675
H22年度	46	53	64	44	68	68	57	56	41	29	35	47	608



<平成22年度 部署別提出率>

部署名	提出数
医師	1
診療放射線科	3
リハビリテーション科	4
薬剤科	21
臨床検査科	40
食養科	1
看護科	523
ME室	0
健康管理センター	13
事務局	2
総提出数	608



<月毎レベル別件数>

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0	1	2	5	3	5	19	11	14	4	5	5	9	83	6.9
1	13	21	27	13	26	14	15	11	8	9	11	9	177	14.8
2	27	25	29	25	31	26	27	28	21	11	12	21	283	23.6
3a	5	4	3	3	3	26	4	3	0	4	6	8	52	4.3
3b	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	1	0	2	0.2
4a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
不明	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3



<文責 佐々木佳子>

医療情報管理室

平成22年度は病院医療情報システムの安全かつ合理的な運用を図り、併せて電子カルテ運用の適正な管理を行うことを目的とした。

<電子カルテ>

電子カルテシステム関連として、日々のシステム更新に加え、

- ① 老朽化した検査・所見サーバの更新の実施
- ② 消化器センター開設に伴う内視鏡画像システム（DCRシステム）の画像取込端末及び参照端末の増設
- ③ 患者待受状況表示システムを、電子カルテと同じソフトベンダーへ更新
- ④ インシデント・アクシデントシステムの導入
- ⑤ 病診連携システムの運用開始（1診療所、1介護施設）
- ⑥ 増改築事業に伴う各部署の移動について、ネットワーク及び端末配置の更新の実施を実施した。

また、例年に引き続き、電子カルテソフトベンダーからのSEの定期訪問事業を実施し、各部署の要望等を取り入れたシステム更新を実施した。

<平成22年度のスタッフ>

藤盛 修成	加藤 健	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子
浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	渡辺 瑞穂	木村 宏樹
佐藤 恵	田中 大輔	伊藤 誉幸	千葉 崇仁	

<医療情報管理室の業務内容>

- ・電子カルテシステムを主とした院内医療情報システムの更新及び保守
- ・院内情報システム機器の更新・修理・新規設置等の作業
- ・新規システム導入に関する企画・立案及び各部署への助言
- ・病診連携システム導入に関する調整
- ・院内職員に対するシステム関連のヘルプデスク作業
- ・診療情報に関する統計的資料の作成及び分析

<文責 柿崎正行>

地域医療連携室

平成12年に病診連携室を発足し、業務を行ってきたが、平成22年7月より、病診連携室をより発展させ、一層の連携充実を図るため、名称を地域医療連携室と変更し、業務にあたっている。

今年度は、診察2373件、検査752件、合計3125件のご紹介をいただいた。昨年度と比較し、164件の増加となった。しかし、診察の紹介件数は増加となったものの、検査の紹介件数は64件の減少となっている。これからは、新MRI装置のPRを積極的に行い、紹介件数増加につなげたい。今後も、皆様に選ばれる病院を目指して地域医療に貢献できるよう努めたい。

また、10月26日には地域医療連携セミナーを開催し、19施設の先生方のご参加をいただいた。浮嶋優子医事課長より「当院における休日当番医制」、消化器内科藤盛修成医師より「地域医療連携システムの現状報告について」、整形外科江畑公仁男医師より「腰痛の診断ポイントと治療～どこで何が起きているのか～」と題してセミナーが開催された。地域医療連携セミナーは、年1回の貴重な情報交換の場として有意義なものとなっている。地域医療連携を円滑に進める上でも今後も続けていきたい。

スタッフ

室長	藤盛 修成
医事課長	浮嶋 優子
医事課	高橋 美幸

業務内容

- ・ 医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・ 医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・ 紹介患者の経過報告
- ・ 医師異動や外来担当変更時、変更内容について医療機関へ連絡
- ・ 紹介元医療機関と病院側との諸連絡の取次ぎ
- ・ 紹介患者実績や検査利用状況などの統計資料を月1回作成
- ・ 地域医療連携だより「かじか」発行
- ・ 医療機関訪問・・・8月上旬と12月下旬の年2回、39医療機関訪問
(丹羽院長、吉岡副院長、藤盛副院長、船岡副院長、江畑副院長、浮嶋課長補佐、高橋)
- ・ 地域医療連携セミナー・・・10月26日（会場：横手セントラルホテル）
セミナー・・・院外19人、院内42人 計61人参加
懇親会・・・院外16人、院内34人 計50人参加

平成22年度 紹介率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
①初診患者数	1496	1487	1507	1448	1611	1390	1386	1532	1373	1407	1344	1434	17415
②救急搬送数	43	71	72	62	96	73	71	63	75	88	74	94	882
③紹介患者数	159	145	188	175	164	173	139	194	164	144	138	155	1938
紹介率(%)	13.5	14.5	17.3	16.4	16.1	17.7	15.2	16.8	17.4	16.5	15.8	17.4	16.2

紹介率 = (②+③) / ① × 100%

(①・・・時間外、休日、深夜受診の6歳未満の小児患者を除く)

平成22年度平均紹介率 = %

平成22年度 紹介内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
診察	190	202	212	205	209	199	189	235	183	189	171	189	2373
C T	29	16	29	52	25	35	33	29	32	23	25	22	350
MRI	41	27	37	39	32	25	26	31	28	27	20	29	362
MCV	3	2	6	2	2	1	1	5	4	2	1	2	31
EEG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホルター心電図	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
UCG	0	0	1	1	0	1	2	1	1	0	1	1	9
計	263	247	285	299	268	261	251	301	248	241	218	243	3125

平成22年度 紹介内訳(診療科別)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科	14	16	15	18	17	12	15	20	11	13	5	19	175
消化器科	76	77	87	77	75	89	67	104	65	67	60	72	916
循環器科	14	11	9	13	12	10	11	13	14	4	12	13	136
呼吸器科	5	8	4	8	9	7	5	9	8	5	2	2	72
外 科	9	18	9	13	10	13	12	9	12	10	12	13	140
整形外科	29	22	34	25	24	28	21	28	29	34	34	24	332
婦人科	15	15	17	12	22	14	19	19	13	24	12	17	197
小児科	24	22	31	22	28	16	21	24	20	23	21	20	272
泌尿器科	5	13	5	9	7	7	14	8	6	5	10	10	99
眼 科	1	2	6	6	1	5	5	5	9	1	3	1	45
心療内科	0	0	1	1	1	0	2	2	1	3	1	0	12
麻酔科	1	0	1	4	5	0	0	0	0	2	1	1	15
放射線科	70	43	66	91	57	60	59	60	60	50	45	51	712
計	263	247	285	299	268	261	251	301	248	241	218	243	3125

平成22年度 紹介内訳(地域別)

紹介件数

	診察	検査	計
横手市	1681	727	2408
湯沢市・雄勝郡	266	1	267
大仙市・仙北郡	103	23	126
県内	169	1	170
県外	154	0	154
計	2373	752	3125

依頼検査

	CT	MRI	MCV	EEG	UCG	ホルター心電図	計
横手市	349	339	31	0	8	0	727
湯沢市・雄勝郡	0	0	0	0	1	0	1
大仙市・仙北郡	0	23	0	0	0	0	23
県内	1	0	0	0	0	0	1
県外	0	0	0	0	0	0	0
計	350	362	31	0	9	0	752

< 文責 高橋美幸 >

委員会活動

リスクマネージャー委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。リスクマネージャー委員会は、医療事故防止を図るための実質的な委員会として、ひやりはっと報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・実施・評価を行う。

委員会の構成員

委員長	吉岡 浩			
委員	和泉千香子	寺田 宏達	佐々木 研	本郷 修平
	佐藤セツ子	木村恵美子	田中 由江	菅原奈緒子
	赤川恵理子	小野寺摂子	鳶田 麗子	佐々木 薫
	高橋 正子	佐藤由美子	嶋田麻由子	佐藤 秀子
	小田島千津子	佐藤 昌悦	小田嶋ゆう子	
	鈴木久美子	佐々木佳子		
	石田 良樹	法華堂 学	高橋 貞広	川越 弦
	平塚多喜雄	天羽 勝義	照井 圭子	菊池 優

委員会開催日

平成21年	4月13日	5月11日	6月8日	7月13日
	8月10日	9月14日	10月12日	11月9日
	12月7日			
平成22年	1月11日	2月8日	3月8日	

主な協議事項

- 1、特殊薬剤（アンスロビンP）の投与方法について
- 2、消化管の放射線・内視鏡検査時の前処置の表示方法について
- 3、手術室での薬剤確認方法
- 4、TCI使用時の設定確認方法
- 5、特殊薬剤発注手順
- 6、輸液ポンプ使用時の確認・観察手順
- 7、内服薬中止時の手順
- 8、FAX使用による患者情報の発送
- 9、病理検体の患者確認
- 10、入院時持参薬監査
- 11、薬剤用法入力
- 12、凍結血漿の融解方法
- 13、MMG検査不応患者の対応
- 14、検査同意書に対する対処

<文責 佐々木佳子>

医療事故防止委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大きな医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。

構成員

委員長	診療科	丹羽 誠
	診療科	吉岡 浩
	診療科	藤盛 修成
	診療科	※ 主治医
	看護科	木村 カズ子
	事務局	佐藤 正弘
	医事課	浮嶋 優子
	医療安全管理室	佐々木 佳子

委員会開催日

平成23年 1月11日 1月24日 1月27日 2月25日 2月18日 2月24日

主な協議内容

- 1、事故発生の対応に対する検証と原因の分析。
- 2、患者・家族への対応方針の検討と決定。
- 3、患者・家族への説明のための情報収集と情報の確認。

<文責 佐々木佳子>

院内感染予防対策委員会

1. 概要

院内感染対策委員会の目的は、院内感染の積極的な防止、並びに病院から排出される医療廃棄物の適正処理に関して必要な事項を審議することを目的としている。市立横手病院ICTが実践活動を行い、病院長の諮問機関である院内感染対策委員会へ提言・報告を行っている。

2. 構成員

委員長	医師	齋藤 紀先		
委員	医師	丹羽 誠	船岡 正人	和泉 千香子
	事務局	佐藤 正弘	伊藤 建一	
	薬剤師	石田 良樹		
	臨床検査技師	佐々木 絹子		
	看護科	木村 カズ子	佐藤 セツ子	佐藤 昌悦
		照井 洋子	高橋 礼子	下夕村 優子
		高橋 共子	高橋 佳子	小田嶋 恵美子
	医療安全管理室	佐々木 佳子	小川 伸	

3. 2010年度、感染管理組織の活動と改善項目

- ① 耐性菌サーベイランスの他、グラム陰性菌検出数、緑膿菌耐性率のサーベイランスを開始した。
- ② 消化器外科手術部位感染（SSI）、中心静脈カテーテル関連血流感染（CA-BSI）、尿道留置カテーテル使用比、手指衛生、職業感染に関するサーベイランスを継続的に行った。
- ③ 厚生労働省消化器外科サーベイランスに平成22年6月より参加した。
- ④ 秋田大学地域モニタリングシステムReNICSへの参加を開始した。
- ⑤ 全病室前にPPE（個人防護具）ホルダーを設置した。
- ⑥ 全病棟にベッドパンウオッシャーを設置した。
- ⑦ 在宅治療に関わる、医療関連廃棄物の回収窓口を採血室とし周知を行った。

4. 主なサーベイランス結果

- ① 消化器外科手術における手術部位感染（SSI）の発生率は、2009年度の13.3%から2010年度の9.6%に減少した。

表1 消化器外科手術における SSI 発生率

	手術件数*	SSI**	
		発生数	発生率 (%)
2010年度	271	26	9.6
2009年度	174	18	13.3

*期間中に実施した消化器外科手術件数

**期間中の手術実施症例に発症した SSI

- ② 心静脈カテーテル関連血流感染（CA-BSI）は、2009年度の1.81から0.98に減少した。

**表 2 中心静脈カテーテル関連血流感染
(CA-BSI) 感染率**

	感染率*	使用比**
2010年度	0.98	0.12
2009年度	1.81	0.85

*CA-BSI 発生件数÷カテーテル使用のべ日数

**カテーテル使用のべ日数÷入院患者のべ日数

- ③ 血液・体液・粘膜曝露・嚙傷事例は、2009年度の17件から8件に減少した。

表 3 血液・体液・粘膜曝露・嚙傷事例件数

事例内容	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	合計
針刺し・切創	13	13	13	7	46
体液・粘膜	0	0	3	1	4
嚙傷	0	1	1	0	2
合計	13	14	17	8	52

5. まとめ

サーベイランスによって自施設の問題点を把握し、介入・改善を継続的に行ってきたことが、医療関連感染の低下に結びついてきたと考えられる。今後も、質の高い医療を地域の患者様に提供できるよう、感染管理に取り組んでいきたいと考えている、

〈文責 小川 伸〉

倫理委員会

概要

院内における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施について生命倫理及び医学倫理に関する事項が妥当であるかを審査することを目的として設置された。院外委員1名を含んでいる。

構成員氏名

	役 職	氏 名
委員長	院 長	丹 羽 誠
副委員長	副 院 長	藤 盛 修 成
	総看護師長	木 村 カズ子
	リハビリテーション科技師長	小田嶋 尚 人
	薬剤科主任	渡 邊 圭 子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	見識を有する者	三 橋 由美子

活動記録

平成22年度は、倫理委員会で審議すべき申請や案件がなかったので開催されなかった。

<文責 佐藤正弘>

栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

協議事項

栄養業務の運営に関する事項

栄養業務の向上に関する事項

各職域間の円滑な運営に関する事項

施設・設備の改善に関する事項

その他栄養サービスに関する事項

委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成22年度の主な議題を示しました。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院長	丹羽 誠	薬剤師	小宅 英樹
副院長	船岡 正人	食養科技師長	原田 優子
食養科長	粕谷 孝光	主任	川越 真美
事務局長	佐藤 正弘	主席調理技能士	天羽 勝義
医事課長	浮嶋 優子	嘱託調理師	松井世津子
総師長	木村カズ子	嘱託調理師	佐藤 殉子
2 A病棟師長	木下 文子	嘱託調理師	高橋 麗
3 A病棟師長	藤井 洋子		
3 B病棟師長	高橋千鶴子		
3 C病棟師長	高本 和子		
4 C病棟師長	木村真貴子		

平成22年度委員会開催日および主な議題

平成22年 4月26日

- * 「栄養サポートチーム加算200点」が新設
- * 栄養摂取基準の変更あり（塩分男性9g未満・女性7.5g未満）
- * 機能評価で指摘事項1点あり（栄養指導件数を増やすように）

平成22年 7月27日

- * 食養科のエレベーター工事はじまる。
- * 今年度も大学からの実習生受け入れる。（8月～）

平成22年10月27日

- * 「半固型化流動食PGソフト」について
- * 横手保健所による医療監視があり（指摘事項特になし）

平成23年 1月26日

- * 「全粥すりばち食」の名称変更（「全粥ミキサー食」となる）
- * 食養科勉強会を実施できた
- * 東北厚生局による立ち入り検査結果から
- * 次年度の予算請求物品について

<文責 原田優子>

NST委員会

目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

構成員

Supervisor	長山正四郎				
Chairman	粕谷 孝光				
Director	船岡 正人				
Core Staff	江畑公仁男	古関 佳人	木村カズ子	佐々木康子	小田嶋千枝子
	金子由美子	吉田紗希子	武田フミエ	奥山かずえ	渡邊あかね
	小棚木美香	櫻谷 麻美	藤井 洋子	横井 道子	原田 優子
	川越 真美	小宅 英樹	佐々木美奈子	百合川深里	菊池 優

役割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する。
2. 抽出した症例に対してNST Core Staffによる症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う。
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する。
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NSTメンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする。
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催。
6. その他、栄養療法に関する事柄

委員会開催日時（ミーティング、NST回診）

毎週月曜日15：00から

<文責 百合川深里>

褥瘡対策委員会

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。院内における褥瘡予防体制確立のための活動や、褥瘡発生事例の対策に関する調査や審議を行っている。

【構成員氏名】

委員長	医師	吉岡 浩
副委員長	医師	船岡 正人
褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子
委員	病棟師長	木下 文子
	病棟看護師	高橋 佳子、安藤 宏子、鈴木 利恵
		松本 優子、煙山由紀子
	訪問看護師	佐藤 友紀
	手術室看護師	岩村 久子
	透析室看護師	伊藤 優子
	薬剤師	渡邊 圭子
	管理栄養士	川越 真美
	臨床検査技師	工藤真希子
	理学療法士	高橋 茂実
	医事課	百合川深里
	総務課	阿部 光子
事務局	管材係	菅原 祐司

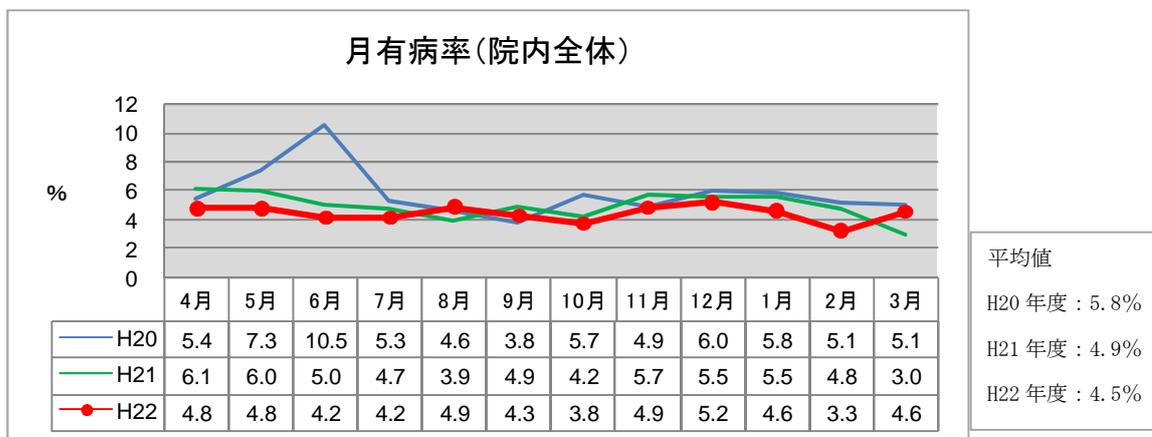
【主な活動内容】

- 1) 褥瘡対策委員会開催
平成22年：4/14、5/12、6/9、7/14、8/11、9/8、10/13、11/10、12/8
平成23年：1/12、2/23、3/14
- 2) 褥瘡回診（1週間に1回）ならびにハイリスク患者カンファレンスの実施
- 3) 体圧分散寝具等の整備
- 4) 委員会だよりの発行（平成22年度は第19号から第23号を発行）
- 5) 学習会の実施
新規採用者研修：「褥瘡対策の概要について」4/5
新規採用者実技研修：「創傷ケア・褥瘡ケア」6/25
看護補助者研修：「褥瘡予防のケア」7/22
看護科褥瘡対策研修：「オムツを知ろう！」10/21

【動向】

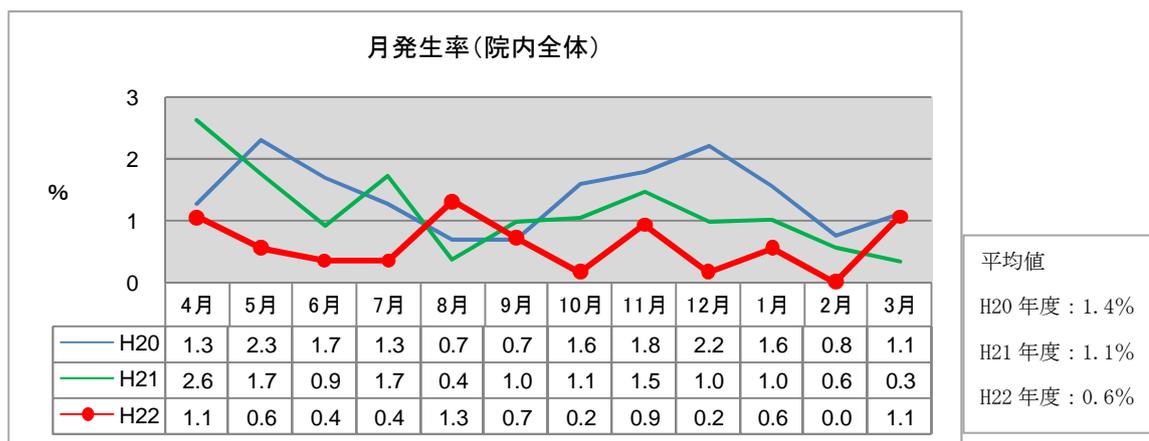
1) 褥瘡有病率の推移

●褥瘡有病率＝調査期間中に褥瘡を保有する患者数÷調査期間の実入院患者数×100



2) 褥瘡発生率の推移

●褥瘡発生率＝調査期間中に院内で褥瘡が発生した患者数÷調査期間の実入院患者数×100



過去3年間の有病率に大差はないが、発生率は減少傾向にあり、褥瘡対策の効果が表れてきている。平成22年度は、褥瘡発生率1.0%以下を目標に褥瘡対策の推進を図った。その結果、褥瘡発生率の平均値は1.0%以下に達することができた。しかし、月単位の発生率は1.0%を超える月がいくつかあり、不安定さがみられる。今後も褥瘡発生予防に重点をおき、褥瘡対策の推進を図っていきたい。

<文責 佐藤美夏子>

緩和ケアチーム委員会

【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に
来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになるこ
とを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院と
しての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。
その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために ①勉強会及びケースカンファレンス ②緩和ケアチーム(PCT)回診 ③院内勉
強会 ④緩和ケアマニュアルの整備等を行う。

【22年度構成員】

委員長： 丹羽 誠

副委員長：高橋共子

委員： 石田芳樹・佐々木康子・高橋麻理子・佐藤直子・倉田久美子・佐藤秀子・高橋康子・
末次エリカ・加賀谷優紀・池田弘恵・高橋歌澄・佐々木文子・原田優子・鈴木努・
石山博幸

事務局： 亀谷良文

【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

【特記事項】

- ① 緩和ケア回診：毎週月曜日・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象
- ② 勉強会の開催：7月27日 フェントステープ製品説明会
(ア)10月19日 癌性疼痛の評価と治療 参加者 46名
- ③ 院外勉強会への参加
 - ・厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
 - ・9月10日 県南緩和医療研究会への参加
 - ・秋田県緩和ケア実施研修への参加(外旭川病院ホスピス・仙北組合総合病院)
 - ・3月19日 横手市医師会主催・在宅緩和ケア勉強会への参加
 - ・2月18日 フェントステープ勉強会
 - ・6月19日 「あきた がん ささえ愛」キャンドルナイトへの参加
- ④ 緩和ケアマニュアルの整備

<文責 高橋共子>

救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。(平成14年12月)

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

救急センター運営委員

委員長	江畑公仁男	
副委員長	藤盛 修成	
委員	小松 明	工藤真希子
	法花堂 学	渡邊 圭子
	木村真貴子	川越 弦
	佐々木佳子	和賀美由紀
事務局	木村 宏樹	

本年度の活動状況

平成22年 4月27日	機能評価指摘事項改善内容について検討
平成22年 5月17日	救急カートについて検討
平成22年 7月26日	救急搬送患者の入院率向上について検討
平成22年 9月 6日	救急車統計について検討
平成22年10月20日	救急救命講習会に19名参加
平成23年 1月 6日	救急搬送患者動向について検討
平成22年 1月24日	AED・BLS学習会に94名参加
平成22年 1月26日	AED・BLS学習会に92名参加
平成23年 2月10日	救急車統計について検討

<文責 木村宏樹>

手術室運営委員会

概要

- ◎ 手術室業務報告
(各科月間手術件数・緊急手術件数・延べ手術時間・麻酔時間・在室時間・手術室スタッフの時間外状況etc.)
- ◎ 手術室で行っている業務改善報告
- ◎ 外科系医師・麻酔科医師・手術室スタッフ・MEの連携を図る

構成氏名

委員長	寺田 宏達	手術室室長、麻酔科科長
委員	吉岡 浩	副院長、ME室室長、外科科長
	江畑公仁男	副院長、整形外科科長
	畑澤 淳一	産婦人科科長
	伊藤 卓雄	泌尿器科科長
	木村カズ子	総看護師長
	石橋由紀子	手術室主任
	川越 弦	ME室主任
事務局	佐藤 昌悦	手術室師長

委員会開催日及び議題

4月26日

- * 手術室入室後の血管確保について
- * 入室後の抗生剤施行に関して

7月9日

- * 術中の体温測定を口腔・直腸から耳へ変更して行っています。(コスト削減)
- * 医療安全対策に対する各科への協力依頼(体位チェック確認サイン)

9月9日

- * 術中の保温対策について
- * 手術室で使用されている吸収糸を安価なものに変更していきます

2月9日

- * 喉頭鏡のブレード消毒をEOG⇒高水準消毒へ変更
- * PCA装置のメーカー変更(東レへ:コスト↓)
- * 予定手術は木曜日に締切、次週の手術スケジュールを組立てる際、1時間位の入室時間の変更があった場合は連絡をしませんので確認してください
- * 次年度から手術室運営会議には、外科の加藤Drにも参加して頂きます

<文責 佐藤昌悦>

糖尿病委員会

【委員会活動概要】

急増する糖尿病患者様に、糖尿病委員会は病院および地域へ啓蒙活動の推進役として取り組んでいる。

平成22年度は、糖尿病教室を新設の健診センターに場所を移し、横手川の流れや鳥海山の景観を楽しみながら教室を開催した。

糖尿病療養指導士の単位習得をメインにした、院外の研修会参加で専門的な糖尿病の知識習得。県南地域での糖尿病治療に関わる医師やスタッフと交流が持てたことが22年度の大きな収穫であった。

【構成メンバー】

委員長	小田嶋 傑
副委員長	照井 洋子 和賀美由紀
食養科	原田 優子 川越 真美
薬剤科	佐々木洋子
リハビリ科	小田嶋尚人
健康管理センター	鈴木久美子
看護科	小田嶋明子 高橋 智美 熊澤あゆみ 町本 典子 高橋加美子
総務課	佐藤 俊幸

【活動報告】

委員会開催 11回

糖尿病教室開催 10回（6月～4月）

講義担当者：小田嶋医師 管理栄養士 薬剤師 保健師 理学療法士

〈かまぐらの会：糖尿病患者会〉

理事会出席（照井）日本糖尿病協会秋田県支部主催行事

「第46回全国糖尿病週間秋田県の集い」運営スタッフ参加（照井）

〈糖尿病週間行事：委員会主催〉

10月10日ウォーキング（史跡をめぐる）

一般参加者・スタッフ30名参加

講師：リハビリ科 小田嶋尚人 前年度総務課 栗田公平氏

〈研修会運営〉

糖尿病看護ネットワーク2月開催

世話人会出席6月・11月（照井）当日運営スタッフ、研修会参加者6名

糖尿病・看護・療養指導を考える試行錯誤の会（年3回）

世話人会出席（和賀）研修会出席

<文責 照井洋子>

輸血療法委員会

委員長医局（産婦人科）	畑澤 淳一（輸血業務責任医師）	
委員医局（内科）	船岡 正人	
医局（外科）	吉岡 浩	
医局（整形外科）	江畑公仁男	
医局（泌尿器科）	伊藤 卓雄	
薬剤科	小宅 英樹（事務局）	
看護科	木下 文子	佐藤 鋼子
検査科	佐藤恵美子	佐々木美奈子
総務課	阿部 光子	
医事課	百合川深里	

輸血療法委員会設置の目的

当院における輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための輸血療法委員会が設置されている。

第1回 平成22年4月21日

平成21年度A/M比、F/M比についての報告、それを踏まえてアルブミン製剤の濃度変更（25%⇒20%）の検討を行い、薬事委員会へ20%製剤を申請することを決定。他、輸血前検査の状況報告。

第2回 平成22年6月16日

アルブミン製剤の濃度へ変更について薬事委員会では一旦見送りとなった旨の報告。
平成22年度4・5月の血液製剤の使用状況報告。輸血前検査の状況報告。

第3回 平成22年8月17日

血液製剤使用状況、輸血前後感染症検査実施状況の報告。
輸血管理業務担当者会議出席の報告として今後は血液センターについて秋田センターの製剤業務が宮城センターへ集約される、秋田センターからの供給は継続されるとの報告。
薬事委員会にて（旧）アルブミン25%静注12.5g/50mLが（新）アルブミンベアリング20%静注10.0g/50mLへ変更されることが承認された旨報告。

第4回 平成22年10月20日

血液製剤使用状況、輸血前後感染症検査実施状況の報告。
輸血実施マニュアル・緊急時輸血の対応を検討、改善について提案。

第5回 平成22年12月13日

輸血療法委員会主催の勉強会を医療安全室と合同開催（講師：阿部真 氏（秋田赤十字血液センター製剤課長））
緊急時輸血マニュアルの作成について検討

第6回 平成23年2月4日

血液製剤の医療安全について臨時開催。婦人科手術の際にFFPが凝固したケースがあり融解機器の導入について検討を行う。融解機器の予算要求は畑澤医師が管財へ直接交渉。FFPの使用頻度、使用部署を検査科で算出し、管理場所を次回委員会で検討。

第7回 平成23年2月17日

FFP溶解機導入について運用方法・理由の検討を行い、委員会として機器2台購入を予定・申請することを決定。運用については再度検討。来年度委員会構成について要綱の修正なども含めメンバーは再度検査科と審議。

平成22年度 診療科別血液製剤使用状況

診療科	製剤名	本年度使用本数
外科	I r -RCC-LR-1	85
	I r -RCC-LR-2	184
	I r -PC-10	23
	I r -PC-15	3
	I r -PC-20	11
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	3
	FFP-LR-2	100
	自己血	2
産婦人科	I r -RCC-LR-1	16
	I r -RCC-LR-2	38
	I r -PC-10	3
	I r -PC-15	0
	I r -PC-20	0
	FFP-5	2
	FFP-LR-1	2
	FFP-LR-2	22
	自己血	74
整形外科	I r -RCC-LR-1	8
	I r -RCC-LR-2	40
	自己血	63
内科	I r -RCC-LR-1	209
	I r -RCC-LR-2	380
	I r -PC-10	35
	I r -PC-15	5
	I r -PC-20	9
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	0
	FFP-LR-2	21
泌尿器科	I r -RCC-LR-1	10
	I r -RCC-LR-2	22
	I r -PC-10	0
	I r -PC-20	1
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	0
	FFP-LR-2	3
	自己血	11

<文責 小宅英樹>

臨床検査適正化委員会

概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とし、平成 12 年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

構成員

委員長	丹羽 誠 (医院長)
委員	船岡 正人 (副院長)
	藤盛 修成 (副院長)
	畑澤 淳一 (検査科科长)
	加藤 健 (外科科長)
	浮嶋 優子 (医事課長)
	木村カズ子 (総看護師長)
	佐藤恵美子 (検査科技師長)
	長瀬 智子 (内部精度管理責任者)

委員会開催日及び検討事項

平成 22 年 5 月 22 日 (木)

1. 適正化委員会要綱について
2. 平成 21 年度日本医師会コントロールサーベイ結果報告
3. 検査項目検討詳細について
 - ①試薬変更 4月より BUN ; セロテック→ニットウポーへ変更
6月より RF ; 同一メーカーで試薬変更
 - ②項目検討 カンジダ抗原 (カンジテック) →B-D グルカンへの提案
再度検討し、検査科から検討案として医局に提示することに決定。
 - ③院内測定から外注検査へ移行項目 ; マイコプラズマ抗体価、蛋白電気泳動
4. 外部委託契約について
今年度も継続で、SRL、BCL、(財)秋田県総合保険事業団とすることに決定。
5. 脳波検査委託について
脳波検査室工事に伴い、平鹿病院と興生病院に検査を委託。病診を窓口とする。

平成 23 年 1 月 13 日 (木)

1. 平成 22 年度日臨技コントロールサーベイについて

2. 検査項目検討等について

①BNP・AFP；2010年9月27日より測定機器変更（AIA→アーキテクト）。

オーダー名をBNP（CLIA）法に変更。結果報告欄も旧法と分離。

②FER；測定試薬の変更。測定範囲5.0～1000ng/ml。

測定下限値が5ng/mlとなるため、基準値をF 3.6～114ng/mlから5.0～114ng/mlに変更決定。試算でコスト減。

③Theo；試薬検討問題なく、新年度より変更予定。試算でコスト減。

④Zn；褥瘡管理目的のため、検査への依頼あり。採血方法（時間・ゴムキャップ）での問題ありルーチン検査に適さないと判断し、検討中止とした。

⑤病理遺伝子関連項目 K-RAS EGFR について

AKH 保管の病理検体ブロック標本を検体とし、SRL で検査を行う。検査依頼時は検査室へ連絡頂きたい。

3. その他

①K-RAS 結果報告日数について

AKH・SRL と外注先 2 箇所をわたる検査であり、迅速化のため外注先同士での検体移動を依頼している。

②Ccr 検査時、血清 Cre 値も報告することに決定。

化学療法最後に放射線検査で、血清 Cre 測定の必要があるため。

③丹羽院長より；検査データの精度は重要なので、外部サーベイは意義あることです。検討・向上に務めるようにしてください。

<文責 長瀬智子>

図書委員会

[目的]

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

[スタッフ]

委員長	平野 弘子（診療科）平成15年9月～平成23年1月
副委員長	谷口 明美（総務課）平成14年9月～
書記	中田 千絵（総務課）平成19年4月～平成22年9月
委員	島田万里子（医療情報管理室）平成19年4月～
委員	阿部千鶴子（総務課）平成20年1月～

[図書室概要]

面積・・・34.8㎡

座席数・・・4席

設備・機器・・・コピー&Fax機（1台）

- ・コンピューター（2台）・1台インターネットに接続・1台院内LANに接続
- ・プリンター 1台

書架・・・移動式書架

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・単行書（約850冊）、製本雑誌（約1990冊）、CD-ROM（4枚）

- ・和雑誌（58誌）、洋雑誌（20誌）、学会誌（3誌）

配架・・・単行書（NLMC分類順）

- ・和雑誌（あいうえお順）・洋雑誌（アルファベット順）
- ・患者図書（大分類・中分類・小分類順）

サービス・文献データベース；医学中央雑誌Web版

- ・相互貸借依頼先；秋田大学附属図書館医学部分館・上尾中央総合病院図書室
国立国会図書館・日本医師会（個人申込み）
- ・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

[活動]

- ・委員会開催日・・・5/18・6/8・9/2・1/28・3/27の5回
- ・図書購入予算の確定と管理
年度始めに各科に予算配分をし、各科月毎に購入収支簿を作成後、院内LANで月1回全職員に伝達。
- ・購入図書の受入れと配架作業・・・月毎の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。
院内LANで月1回新着図書の情報提供。
- ・製本作業
- ・蔵書点検作業

[統計]

- ・ 図書室に常勤担当者不在のため図書貸出し数、利用者数は明確に出せない。
- ・ 相互貸借依頼数（文献複写依頼数）
 - 秋田大学附属図書館医学部分館 12件
 - 上尾中央総合病院図書室 0件 国立国会図書館 0件
 - 日本医師会図書館 33件
- ・ 医中誌アクセス回数 5053回・検索回数 1285回・ログイン回数 373回
- 同時アクセスオーバー数 13回

患者図書サービス

[目的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[概要]

所蔵図書（1228冊）、備品・・・ブックトラック、固定書架（図書室内）

[活動]

今年度から各病棟ディルームに蔵書一覧ファイルを設置し、今までの巡回型サービスからFaxでの貸出しサービスに切り替えた。それに伴い「移動図書サービス」から「患者図書サービス」に名称を変更した。今は主として娯楽書主体の貸出しサービスである。ただ医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、自ら病気や治療について情報を得て学べる一般向けの医学情報誌を提供することを視野におき、患者さんの要望に応じていきたい。

[統計]

<患者図書貸出し数>（平成22年4月～平成23年3月）

病棟	貸出数	利用人数	月平均貸出数	月平均利用者数
2 A病棟	6冊	2人	1.00冊	0.33人
3 A病棟	59冊	23人	4.92冊	1.92人
3 B病棟	111冊	35人	9.25冊	2.92人
3 C病棟	88冊	23人	7.33冊	1.92人
4 C病棟	220冊	59人	18.33冊	4.92人
合計	484冊	142人		
月平均	40.33冊	11.83人		

<文責 谷口明美>

臨床研修管理委員会

概 要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の研修プログラムは内科系重視のAコース、外科系重視のBコースがあり、それぞれ募集定員2名となっている。研修プログラムの中の精神科研修では、横手興生病院・市立角館総合病院、地域保健・医療研修では、横手保健所、市立大森病院に協力をいただいている。また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院、市立角館総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

構成員氏名

委員長	船岡 正人（研修実施責任者）
委員	小田嶋 傑（Aコースプログラム責任者）、藤盛 修成、 小松 明、畑澤 淳一、根本 敏史、和泉千香子、塩屋 斉、 奥山 厚、齋藤 紀先、武内 郷子、 加藤 健（Bコースプログラム責任者）、吉岡 浩、粕谷 孝光、 滝澤 淳、佐藤 正弘、 伊藤 善信（横手保健所長）、 杉田多喜男（横手興生病院長）、 西成 忍（西成医院長、横手市医師会長）、 小野 剛（市立大森病院長）、 佐々木道基（市立角館総合病院精神科長）
オブザーバー	長山正四郎、丹羽 誠
事務局	佐藤 潤

委員会開催年月日及び案件

○管理委員会

平成23年3月2日

- 案件 平成23年度採用予定研修医について
- 平成23年度研修日程について
- 平成23年度臨床研修病院合同説明会日程について
- 平成22年度修了予定研修医の評価・認定について

○評価・プログラム委員会

平成22年5月6日

- 案件 平成23年度研修プログラムについて

平成22年6月3日

- 案件 臨床研修管理委員会規定について
- 平成23年度研修プログラム名称の変更について

臨床研修協力施設の追加について

平成22年11月29日

案件 臨床研修医 2年次生の研修進捗状況について

平成22年 2月21日

案件 臨床研修医 2年次生の研修進捗状況について

平成23年度研修プログラムのスケジュールについて

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成22年 4月 1日、5月 6日、6月 3日、7月 1日、8月 5日、

9月 2日、10月 7日、11月11日、12月 1日、

平成23年 1月 6日、2月 3日、3月 3日

○平成22年度 臨床研修医

2年次 Aコース 佐伯 博範、高木 遥子

Bコース 佐々木 研、荻原 真実

1年次 Aコース 本郷 修平、斎藤 大成

本荘第一病院からの研修医

土井麻由子

秋田大学医学部附属病院からの研修医

丸山 高

由利組合総合病院からの研修医

加賀 一、田代 晴生

○マッチング日程

平成22年 6月24日 参加登録開始

8月12日 参加登録締切

9月16日 希望順位登録受付開始

9月30日 希望順位登録中間公表前締切

10月 1日 中間公表

10月14日 希望順位登録最終締切

10月28日 組み合わせ結果発表

○平成23年度採用臨床研修医

Aコース 定員 2名 採用なし

Bコース 定員 2名 採用なし

○病院説明会参加状況

平成22年 7月18日 民間主催の合同説明会 （東京都 県協議会企画）

平成23年 2月10日 秋田大学医学部合同説明会 （秋田市 県協議会主催）

<文責 佐藤 潤>

治験委員会

構成員氏名

委員長 吉岡 浩
委員 船岡 正人 佐藤 正弘 石田 良樹
外部委員 三橋由美子
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

委員会開催日及び検討事項

平成22年7月26日

- 案件1. 『アロキシ静注0.75mg使用成績調査』
 - 案件2. 『アロキシ静注0.75mg特定使用成績調査』
 - 案件3. 『ティーエスワン・イリノテカン併用療法（TS-1+CPT-11療法）における安全性の検討－治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌－』
 - 案件4. 『冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンにおける積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験 Randomized Evaluation of Aggressive or Moderate Lipid Lowering Therapy with Pitavastatin in Coroary Artery Disease [REAL-CAD]』
 - 案件5. 『フェロン+レボトール特定使用成績調査 <C型慢性肝炎・併用療法>』
- 以上案件1. から5まで承認された。

平成22年11月25日

- 案件1. 『クリアクター注特定使用成績調査』
 - 案件2. 『日赤ポリグロビンN5%使用成績調査』
 - 案件3. 『StageⅢb大腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorinn療法とTS-1/Oxaliplatin療法のランダム化比較試験第Ⅲ相試験』
- 以上案件1. から3. まで承認された。

<文責 渡邊圭子>

診療材料検討委員会

本委員会は診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図ることを目的として設置されました。診療材料の新規採用についての検討のみならず、院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組みや、診療材料の統一化に向けた取り組みについても協議を行います。

新規に診療材料を使用する場合は必ずこの委員会で承認を受けることになっており、原則としてそれ以外の診療材料は使用することはできません。また、承認を受けていない材料を特定の患者に使用する場合には「診療材料限定使用申請書」を提出させ、委員長より使用の可否を判断することとしています。

構成員氏名

委員長	医師	加藤 健		
	医師	根本 敏史		
	医師	畑澤 淳一		
	看護科総師長	木村カズ子		
	2 F 病棟主任	照井 洋子	3 A 病棟主任	高橋 礼子
	3 B 病棟主任	下夕村優子	3 C 病棟主任	高橋 共子
	4 C 病棟主任	高橋 佳子		
	手術室主任	佐藤 昌悦	透析室主任	和泉奈保子
	外来主任	和賀美由紀	ME室主任	川越 弦
事務局	総務課長補佐	阿部 光子	管財係	菅原 祐司

委員会開催年月日及び主な検討事項

- H22年4月22日 ジェルコ（留置針）の欠品について代替品「インサイト」の検討。
- H22年10月20日 PPEホルダーの設置について検討。バードモノプティ（肝生検針）の在庫について検討。

診療材料限定使用申請書

- H22年9月27日 交換用胃瘻カテーテル セキュリティー15Fr。

以上

<文責 菅原祐司>

病床運営委員会

概要

市立横手病院の病床運営・管理に関して問題点・対策を協議・検討し、全病院的な効率確保を目的に平成14年10月病床運営委員会が発足。

構成員氏名

委員長 長山正四郎
副委員長 吉岡 浩、藤盛 修成
委員 木村カズ子、佐藤セツ子、高橋千鶴子、木村真貴子
木下 文子、藤井 洋子
事務局 佐藤 正弘、浮嶋 優子、石山 博幸

検討事項及び決定事項

- ① 病床の効率的な活用について
 - ・空床を減らすための対応を検討（救急搬送の患者の入院割合が低いことから、一時的な入院対応も含め、医局で検討頂くことに。クリパスの見直しも考慮へ。）
 - ・満床時のベッド確保について。
- ② DPC導入に伴う運用状況の検討
- ③ 既存棟改築工事中の病床利用について
- ④ 増改築後の新病棟編成について
- ⑤ その他、問題点の検討

<文責 石山博幸>

医療情報管理委員会

電子カルテシステム稼働3年目を迎え、関連する医療情報システムの円滑かつ安全な運用や院内情報システムの総合的運用について協議。

構成員

委員長 藤盛 修成

副委員長 小松 明

委員 木村カズ子 佐藤セツ子 藤原 理吉 佐藤恵美子

佐藤 正弘 浮嶋 優子 木村 宏樹 柿崎 正行

活動報告

市内湊クリニック様と病診連携システムを利用した放射線画像・読影レポートの連携について実施を開始したことの報告。

電子カルテシステムについては、システム導入時にウイルス対策ソフトの導入により一定のセキュリティレベルを確保しているもののUSBメモリ等外部メモリ・ストレージを介した情報漏えいについても対策を講じる必要があるため、セキュリティ対策に特化したソフトの導入を検討。

㈱SKY社のSKYSEA CLIENT VIEWというソフトについて、デモ・テスト稼働を実施し問題なければ、来年度の予算要求とする。

<文責 柿崎正行>

電子カルテ委員会

(目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
 - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関する事。
 - ・オーダーリングシステムの内容の検討に関する事。
 - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関する事。
 - ・その他カルテについての重要事項に関する事。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

構成員氏名

委員長	藤盛 修成			
副委員長	加藤 健			
委員	和泉千香子	佐藤セツ子	藤井 洋子	照井 洋子
	赤川恵理子	高橋 共子	高橋まゆみ	木村恵美子
	下夕村優子	佐々木 薫	高橋 礼子	佐々木佳子
	松川かおり	高本 和子	小宅 英樹	木村 宏樹
	浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	

活動報告（検討内容）

平成22年7月6日

- ・カルテ記載権限について
- ・心療内科カルテ運用について
- ・LAN切断対策について 他

平成22年12月8日

- ・サマリー作成状況について
- ・医師指示について
- ・入院診療計画書について 他

<文責 木村宏樹>

DPC委員会

平成21年4月よりDPC対象病院となり、厚労省へのデータ提出、来年度の機能評価係数の対策、データ分析を中心に活動を行った。

データ分析の結果を踏まえ、各診療科との症例検討などを行い、次年度への対策を検討した。今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析が必要になってくると思われるので委員会で取り組んでいきたい。

構成員

委員長	畑澤 淳一				
副委員長	藤盛 修成				
〃	加藤 健				
委員	丹羽 誠	塩屋 斉	佐藤セツ子	藤井 洋子	
	小宅 英樹	郡山 邦夫	浮嶋 優子	佐藤恵美子	
	柿崎 正行	照井 圭子	木村 宏樹		

活動報告

平成23年2月24日

- ・DPC分析事業参加継続について
- ・コーディングについて 他

平成23年3月10日

- ・平成23年度機能評価係数について
- ・コーディングについて

<文責 木村宏樹>

クリニカルパス委員会

構成員

委員長	藤盛 修成					
委員	畑澤 淳一	加藤 健	江畑久仁男	小松 明	塩屋 斉	
	奥山 厚	小田嶋 傑	斎藤 紀先	和泉千香子	伊藤 卓雄	
	藤井 洋子	藤沢 親子	永須 直美	藤本 和子	鈴木 智都	
	菊谷ゆかり	今野谷沙織	下夕村優子	篠木 望美	矢野多智子	
	高橋亜由美	佐藤加代子	須田 鮎美	熊谷 剛	郡山 邦夫	
	小宅 英樹	原田 優子	照井 圭子			

概要

平成22年度退院患者パス適用率

診療科	パス適用件数 (件)	退院患者数 (人)	パス適用率 (%)
内科	0	56	0
外科	478	825	57.9
整形外科	0	366	0
産婦人科	354	478	74.1
小児科	0	558	0
泌尿器科	36	150	24.0
アレルギー・呼吸器内科	23	244	9.4
消化器内科	645	1584	40.7
循環器内科	21	193	10.9
麻酔科(ペインクリニック)		11	0
	1557	4465	34.9

＜文責 照井圭子＞

業務改善委員会

構成員

委員長	藤盛 修成			
委員	加藤 健	石田 良樹	藤原 理吉	小田嶋尚人
	木村カズ子	照井 洋子	高本 和子	佐藤恵美子
	原田 優子	佐々木佳子	佐藤 正弘	浮嶋 優子
	高橋 功			

概要

来年度から7対1看護配置を実施するにあたり、看護師の一元化と外来配置看護師の病棟配置を検討するため、外来業務の把握（勤務状況調査）を実施。

結果分析についてはワーキンググループを立ち上げ検討を行い、対策については委員会で検討した。

更に医師の負担軽減及び処遇の改善に係る計画の策定のため、医師を対象とした「医師事務作業補助に関するアンケート」を行い、これらの調査を基に「病院に於ける勤務医負担軽減計画」を策定した。

<文責 浮嶋優子>

地域交流推進委員会

当委員会は平成21年度より、地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、当院に対する理解向上を目的とした地域交流委員会を設置されました。

所期の目的の達成のため、「市立横手病院出前健康講座」を行うこととしており、対象は地域の公民館、いきいきサロン等で、主催者より講演依頼があった場合、当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行うものとしております。

講座も2年目となり、講演内容の充実に努め、22年度では26講座を準備して地域住民の方たちに理解しやすい内容となるようにしてきております。

以下、22年度の実施状況は下記のとおりとなっております。

委員会名簿

委員長 吉岡 浩（医局）
 委員 船岡 正人（医局） 木村カズ子（看護科） 石田 良樹（薬剤科）
 原田 優子（食養科） 小田嶋尚人（リハビリテーション科）
 柴田 昌洋（健康管理センター） 佐藤 正弘（総務課） 高橋 功（医事課）

講演実施状況

月日	地区・事業所名	場所	講座名	講師	参加者
6/27（日）	八王寺三区町内会	八王寺会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	30名
7/1（木）	八丁	松林会館	薬の正しい使い方	薬剤師 渡邊 圭子	40名
8/5（木）	御所野	御所野会館	自分の体にあつた量の食事をとっていますか	管理栄養士 川越 真美	10名
8/25（水）	下和野・百万刈	下和野構造改善センター	介助方法について	理学療法士 高橋 貞広	11名
9/10（金）	安本	安本会館	糖尿病の運動療法について	理学療法士 高橋 茂実	29名
9/28（火）	下根田	下根田構造改善センター	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	15名
10/20（水）	フコク生命	フコク生命 湯沢営業所	乳がんの正しい知識を	健康管理センター 佐藤・松浦	20名
10/26（火）	中里	中里集落センター	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤美夏子	10名
11/11（木）	朝倉	あさくら館	薬の正しい使い方	薬剤師 渡邊 圭子	11名
11/17（水）	安田原下町	安田原下町 町内会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 川越 真美	24名
11/22（月）	野脇	野菜集荷所	インフルエンザについて	認定看護師 小川 伸	16名
12/6（月）	南町二区	南町二区 町内会館	生活習慣病と運動	理学療法士 小田嶋尚人	29名
12/24（金）	睦地区	杉目会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	20名
1/14（金）	中杉沢	中杉沢会館	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	20名
1/24（月）	根田川	根田川集落センター	肝臓の病気、腹部の救急症状	副院長 船岡 正人	17名
2/16（水）	中村	中村会館	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤美夏子	10名
3/9（水）	田町	田町会館	手指の衛生について	認定看護師 小川 伸	7名

17ヶ所（いきいきサロン14ヶ所、町内会1ヶ所、公民館1ヶ所、事業所1ヶ所）延べ319名の地域住民の方々に講演を行うことが出来ました。講演項目でも、前年度の反省点をふまえ、医師による講演と事業所での講演を1ヶ所ずつではありますが開催いたしております。

今後への改善点としては、①上半期の実施が少なく、これは各団体との調整の遅れが原因であり、速やかな対応で年間を通じての平均的な実施を図ること ②病院のPR、特に23年度では病院増改築も完了することでもあり、講演前に病院紹介を行うなどの工夫を行うことや講演の状況を病院報に掲載すること ③ほとんどの講演項目がパソコン・プロジェクターの利用なので小型スクリーンの購入の検討 ④当面、旧横手市の区域での実施としてきたが、横手市全体を視野に入れた実施の検討（⇒公民館行事への対応）が挙げられており、次年度への課題としております。

<文責 高橋 功>

病院機能評価準備委員会

【概要】

平成7年、当院は全国でも先駆けて病院機能評価のトライアルを受審。平成14年5月に正式な認定を目指し委員会を組織し、平成16年3月にver. 4.0を受審。平成17年2月、改善すべき事項の指摘を受け再受審し、この5月にver. 4.0認定。

平成22年の認定期限までに更新審査を受けることを決定し、平成20年12月よりver. 6.0認定更新に向けて準備を開始した。平成22年3月ver. 6.0受審。

平成22年5月に中間的な結果報告を受け、評価2以下の項目についての業務改善に向けプロジェクトチームを立ち上げ改定し、補充的な審査を受審。8月にver. 6.0認定。

医療の質の維持・改善を図ることを目的とし、更なる病院の発展を目指し取り組んでいる。

【構成員】

委員長	診療科（院長）	丹羽 誠
副委員長	診療科（副院長）	藤盛 修成
委員	薬剤科（科長）	石田 良樹
	診療放射線科（技師長）	藤原 理吉
	医療安全管理室（主任）	佐々木佳子
	事務局（事務局長）	佐藤 正弘
	医事課（課長）	浮嶋 優子
	総務課（課長補佐）	佐藤 俊幸
	総務課（課長補佐）	阿部 光子
書記	総務課企画係兼医療安全管理室	阿部千鶴子

【活動】

- ・今年度の委員会開催 2回
- ・病院機能評価訪問受審における改善指摘事項についての対策、提案。
- ・中間報告を受け、評価2以下の業務改善の検討。補充的な審査の手続き。
- ・中間報告を受け、評価3の対策、提案、改善内容の確認。
- ・その他病院機能評価受審に必要な事項

秋田県内初の受審となり、かなりの苦労があったが、職員の努力で無事にver. 6.0の認定となった。これで終わることなく新たなるスタートとし、地域の人々に信頼される病院を目指し、安心できる良質な医療を提供し、心ふれあう人間味豊かな対応に心がけ、職員一同日々努力していきたい。

<文責 阿部千鶴子>

薬事委員会

◆概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とする。検討する事項は下記の通り。

- ① 院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）
- ② 医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す(同種同効品目の比較検討、削減)
- ③ 委員からの提案された事項についての審議
- ④ 副作用事例の収集・報告・伝達・対策

◆構成員

	委 員	氏 名
委員長	副院長	藤盛 修成
	副院長	吉岡 浩
	副院長	船岡 正人
	副院長	江畑 公仁男
	診療部長	小松 明
	診療部長	畑澤 淳一
	放射線科科長	平野 弘子
	麻酔科科長	寺田 宏達
	外科科長	粕谷 孝光
	消化器科科長	奥山 厚
	内科科長	塩屋 斉
	循環器科科長	根本 敏史
	循環器科科長	和泉 千香子
	外科科長	加藤 健
	消化器科科長	小田嶋 傑
	放射線科科長	泉 純一
	呼吸器科・アレルギー科科長	齋藤 紀先
	泌尿器科科長	伊藤 卓雄
	消化器科科長	武内 郷子
	外科科長	若林 俊樹
	整形外科科長	富岡 立
	産婦人科科長	佐々木 満枝
	薬剤科科長	石田 良樹
	看護科主任	高橋 礼子
	医事課長補佐	照井 圭子
	総務課長補佐	阿部 光子

◆委員会開催日及び検討事項

	開催日	検討事項
第1回	H22年5月19日	※漢方製剤の見直し① ※同種同効品の見直し(レペタン坐剤) ※ハイコート注(後発品)を先発リンデロン注(先発品)注に戻す (先発品が新効能追加となった為) ※アンダーーム軟膏販売中止に対する対応の検討 ※アルブミン製剤について低濃度製品の導入検討①

		※デカドロン注の表記変更について
第2回	H22年7月21日	※漢方製剤の見直し② ※アルブミン製剤について低濃度製品の導入検討② ※ストガー錠販売中止に対する対応の検討 ※同種同効品の見直し(幼児用PL、ST顆粒) ※H21度医薬品破損金額状況の報告
第3回	H22年9月15日	※同種同効品の見直し(カルビスケン錠) ※同種同効品の見直し(ガスコン内用液・バルギン内用液の統一) ※同種同効品の見直し(経口用鉄剤) ※同種同効品の見直し(経口用K製剤) ※トライディオール21販売中止に対する対応の検討 ※ヒビスコールAの濃度変更について(0.2%→0.5%製品へ) ※医薬品の採用や品目数の削減に関する現行方針の確認
第4回	H22年11月17日	※同種同効品の見直し(マーロックス顆粒・マグテクト液の統一) ※同種同効品の見直し(セファメジンα注) ※同種同効品の見直し(レベタン注) ※ジェネリック薬品の採用 メロペン注、ドルミカム注、ヘルベッサ注(10)(50) ラシックス注、セレネース注、イオパミロン370シリンジ100
第5回	H23年1月19日	※同種同効品の見直し(チンク油、亜鉛華デンプン) ※ジェネリック薬品の採用 ベイスンOD錠0.2、プロサイリン錠、ガスター散、 リスパダール液、イトリゾールCap、ホスミシン注(3規格)
第6回	H23年3月16日	※同種同効品の見直し(睡眠薬) ※ミオコール注の包装規格の見直し(100mL→50mL製剤へ) ※禁忌薬剤処方時の警告システムについて ※東日本大震災後の医薬品流通状況の報告

◆平成22年度採用品目の動向

新規採用医薬品	23品目
限定採用医薬品	74品目 (延べ数)
使用中止医薬品	56品目
ジェネリック医薬品への切替え	注射薬 10品目 内服薬 6品目

◆まとめ

今年度はジェネリック薬品の導入を更に進める事ができました。院内の皆様のご協力もあり、医薬品の名称変更に関連する事故なども特に無く、スムーズに変更を行うことができました。ジェネリック薬品の選定については、採用基準を明確にするために院内評価項目を設定し、品質・安全性・情報提供体制・製剤の付加価値・経済性など多くの視点で公平に評価を行った上で本院の要望に見合う製品を選択する方針とし、院内評価結果を公表する事で推奨品選定の経過を理解していただく方向としました。来年度も問題点を見極めながら慎重に検討していきたいと思っております。

今年度からレセプト査定傾向についても医事課より報告していただける事となり、査定傾向の理解や処方時・監査時の注意や対応などのためにもよい情報交換になったと思っております。

同種同効品・使用実績の少ない製品の見直しなどは今年度は十分取り組めなかったため、病院規模に見合った適正な採用品目数を念頭におきながら、次年度の課題としたいと思っております。

〈文責 佐々木洋子〉

衛生委員会

概要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

構成員

委員長	船岡 正人
副委員長	藤原 理吉（診療放射線科）
委員	丹羽 誠（院長） 粕谷 孝光（産業医） 佐藤 正弘（事務局） 木村カズ子（看護科） 鈴木久美子（健康管理センター） 小川 伸（医療安全管理室）
委員（労働組合推薦）	小田島千津子（看護科） 高橋 洋（リハビリテーション科） 末次エリカ（看護科） 熊谷 剛（リハビリテーション科） 佐藤 裕基（診療放射線科）
書記	亀谷 良文（総務課）

委員会開催日時及び検討事項等

【開催日時】 毎月最終木曜17:00～17:30

【検討事項等】

- 4/28 メンタルヘルスチェックの検討、喫煙アンケートの結果を踏まえ、禁煙者の支援をどうしていくのかを検討
- 5/26 メンタルヘルスチェックの実施を検討、機能評価での改善事項について検討、健康診断の実施内容等の報告
- 6/24 メンタルヘルスチェックの報告、電離放射線検診について、禁煙講習会の実施計画について
- 7/29 メンタルヘルス結果報告会の実施。（3年間をフィードバック）職員健康診断の報告
- 8/26 定期健康診断における有所見率改善のため、今後の対応を検討
- 9/30 禁煙講習会のまとめ。健康診断の二次検診受診率等の報告
- 10/28 禁煙外来の開設に向け必要事項を検討、深夜業務従事者の検診対象者を検討。
- 11/25 禁煙外来の開設に向け必要事項を検討、深夜業務従事者の検診の実施内容について、メンタルヘルスの相談体制について検討
- 12/22 メンタルヘルスの相談体制について検討、深夜従事者健診の報告
- 1/28 メンタルヘルスチェックの検討、禁煙外来の開設を検討
- 2/24 メンタルヘルスの相談体制について検討、抗体価検査の義務化について検討、被ばく線量の報告
- 3/30 メンタルヘルスの相談体制について検討、来年度からの採用時、健康診断の受診項目等の検討・報告

<文責 亀谷良文>

患者サービス向上委員会

目的： 選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標： ①接遇意識を高めることができる

②患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる

構成員： 委員長 木村カズ子

委員 丹羽誠 江畑久仁男 佐藤セツ子 細谷謙 照井圭子

佐藤正弘 佐藤俊幸

委員会開催日

平成22年9月17日 (第1回)

①平成21年度退院患者アンケート調査の結果について

②「患者満足度調査」実施・アンケート用紙の改訂について

③平成22年度医療の質・公表等推進事業「患者満足度調査」第1回目について

平成22年12月8日 (第2回)

①平成22年度外来アンケート調査の実施について

②平成22年度入院アンケート調査結果(4月～9月まで上半期)について

③平成22年度職員接遇研修について

平成23年3月19日 (第3回)

①平成22年度医療の質・公表等推進事業「患者満足度調査」第2回目について

②平成22年度外来アンケート調査の結果について

③2月16日実施した接遇研修会の評価

④平成22年入院アンケート調査結果(10月～平成23年3月まで下半期)について

○入院アンケート調査実施(平成22年4月～平成23年3月)

アンケート結果は外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにて掲示

○外来アンケート調査実施(平成22年12月15日～12月22日)

アンケート結果は外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにて掲示

○平成22年度医療の質・公表等推進事業「患者満足度調査」実施

実施時期 1回目実施 平成22年10月(1ヶ月間)

2回目実施 平成23年3月(1ヶ月間)

○接遇研修(全職員対象)

日時：平成23年2月16日 17:30～18:30

場所：4階会議室

講師：株式会社エスアールエル 営業人財開発グループ 浅田均氏

テーマ：「接遇の基本と実践」 参加者 144名

<まとめ>

「患者さんから良い印象をもたれる言葉、態度、声の調子を習得する」ことを目的に研修会を行った。2人1組になり聞き手、話し手となり、印象を良くする顔の表情、あいさつ、態度、立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣い、傾聴のスキルなどをロールプレイを通し職員自ら心の中に「優しい心」と「親切な心」の重要性を再認識することができた。また、患者満足度調査の結果、沢山のご意見・ご要望をいただいた。貴重な意見を活かし、地域の皆様が安心して利用できる病院を目指していきたい。

<文責 木村カズ子>

教育委員会

概 要

当委員会は、院内の職員研修に関して病院全体で体系的、効果的に実施するために設置された委員会である。

構成員氏名

委員長	長山正四郎
副委員長	藤盛 修成
委員	木村カズ子、郡山 邦夫
事務局	佐藤 正弘
書記	佐藤 潤

委員会開催

平成22年8月4日 以下について検討した

- ・平成21年度職員研修実績について
- ・平成21年度部署別院外研修実績
- ・平成22年度職員研修計画について

<文責 藤木正文>

広報委員会

【概要】

広報委員会は、当院の医療情報や活動状況について、病院広報誌・病院ホームページを通じて、地域の住民及び医療機関等に広く情報提供することを目的とする。

病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者さん、地域の皆様、秋田県内の各病院、地域医療連携関連の施設などにむけて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載している。平成22年度より横手市内へ回覧板で回覧することにし、印刷部数を増やした。よりたくさんの方に広報誌を見ていただくことができた。

病院ホームページは、平成22年3月24日に市立病院として横手・大森の両病院に統一性を持たせ、リニューアルした。より見やすく、情報収集がし易いホームページを目指し、最新の情報を提供していきたい。

【構成員】

委員長	診療科	船岡 正人
副委員長	総務課	佐藤 俊幸
	総務課	柿崎 正行
	医事課	石山 博幸
	地域医療連携室	高橋 美幸
	総務課	阿部千鶴子

【委員会開催】

平成22年6月16日	PR用DVDの作成について ホームページ掲載内容について
平成22年8月4日	ホームページ改善事項について PR用DVDの作成について 病院広報誌23号について
平成22年12月2日	ホームページ改善事項について PR用DVDの作成について 病院広報誌24号について
平成22年2月17日	ホームページ掲載内容について PR用DVDの作成について 病院広報誌25号について

【病院広報誌の発行】

平成22年5月	第21号発行
平成22年6月	第22号発行
平成22年10月	第23号発行
平成23年1月	第24号発行

<文責 阿部千鶴子>

診療記録開示審査委員会

概要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

構成員氏名

	役 職	氏名
委 員 長	副 院 長	吉 岡 浩
	院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	木 村 カズ子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	医 事 課 長	浮 嶋 優 子

活動記録

平成22年度は、9件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

<文責 佐藤正弘>

年報編集委員会

【目的】

市立横手病院の年報を編集することを目的する

【構成員】

委員長	診療科	小松 明
	リハビリテーション科	高橋 茂実
	診療放射線科	岡根 和義
	薬剤科	渡邊 圭子
	看護科	寫田 麗子
	看護科	赤沼ゆかり
	臨床検査科	小丹まゆみ
	食養科	天羽 勝義
	総務課	佐藤 潤
	医事課	百合川深里

【委員会開催】

平成22年7月20日

前年度の反省及び今年度の方向性

今年度年報の原稿依頼

平成22年8月23日

提出済み原稿の校正

未提出原稿の督促と期日

平成22年9月27日

提出済み原稿の校正と回覧

未提出原稿の督促と期日

平成22年10月18日

提出済み原稿の最終校正

<文責 百合川深里>

医療廃棄物管理委員会

構成員

委員長 丹羽 誠（副院長・外科）管理責任者
副委員長 佐藤 正弘
委員 佐々木美奈子 石田 良樹 照井 洋子 高橋 礼子
下夕村優子 高橋 共子 高橋 佳子 和賀美由紀
佐藤 昌悦 小川 伸 藤原 理吉 佐々木佳子
伊藤 建一

委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握
医療廃棄物処理計画の作成
医療廃棄物処理マニュアルの作成
医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

委員会開催日

平成22年12月20日

委員会協議・活動など

- ・在宅医療廃棄物の処理及び扱いについてマニュアルを作製しました。
医療環境が入院治療から在宅治療、訪問看護などに移行してきているため、その医療廃棄物をどう廃棄するのかが問題となっており、家庭の可燃ゴミとして市のゴミに出すものと感染性廃棄物（注射針、アンプル類、針付きチューブ、インシュリン等の自己注射器などの鋭利なもの）と区別し、感染性廃棄物は医療機関に返却することのルールが示されました。これをうけて当院で処方を受けた患者様へ回収窓口や鋭利器材を入れる容器の材質、回収する廃棄物の種類、諸注意などを記載したマニュアルを作成し、患者様へ周知する事を決定しました。
また、訪問看護を受けている患者様については、訪問看護センターのスタッフが指導をすることにいたしました。
- ・当委員会では、この件については重要な問題として捉え、在宅医療における医療廃棄物の適正処理についても努めていきたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

防火管理委員会

委員構成

自衛消防隊長 丹羽 誠
自衛消防副隊長 吉岡 浩、船岡 正人、藤盛 修成
防火管理者 佐藤 正弘
委員 木村カズ子、佐藤セツ子、高橋千鶴子、木村真貴子、木下 文子、
藤井 洋子、高本 和子、木村恵美子、川越 弦、佐藤 俊幸、
浮嶋 優子、藤原 理吉、佐藤恵美子、原田 優子、小田嶋尚人、
高橋 洋、石田 良樹、佐々木佳子、柴田 昌洋、森谷 茂、
伊藤 建一

開催日

第1回 平成22年6月10日

第2回 平成22年10月12日

当委員会では、年2回の防災訓練を計画し実施した。火災の訓練を重ねました。

第1回目委員会

平成22年6月24日（木）に実施する防災訓練について

【概要】4C病棟から火災が発生した想定で、避難訓練、応急救護訓練、本部での情報収集訓練などを実施することにする。避難誘導では入院患者を同一階の別の防火区画へ一時的に避難させる事を取り入れる。

また、病院改修中であることから、工事業者も避難、消火器の訓練に参加していただくこととする。

第2回目委員会

平成22年10月27日（水）に実施する防災訓練について

【概要】1階食養科の厨房から火災が発生した想定で、1回目同様に避難訓練、本部での情報収集訓練などを再度実施することにする。今回は放水訓練も実施し消火設備の使用方法の習得と救助袋からの避難も体験してもらいました。また病院改修中であり工事業者も避難、消火器の訓練に参加していただくこととする。

東日本大震災が発生

平成23年3月11日（金）、午後2時46分 震度5弱の地震が発生しました。

当院では、幸い建物や設備の被害はほとんどなく、地震直後の停電により自家発電装置が正常に稼動し、全ての電源がまかなえたわけではありませんが、なんとか医療を継続することができました。

しかし停電の復旧の見通しが立たず、自家発電装置の燃料の問題、断水による水の問題、備蓄食料の問題、電話の不通による通信の問題、人工透析の問題など、かつて経験した事のない問題が次々とふりかかりました。

翌日の午後2時過ぎ、丸一日ぶりに電気が復旧し、全ての設備が使用できるようになりましたが、交通事情の悪化や津波による被災などによる医薬品や診療材料の納入の問題、さらにはガソリン不足による職員の通勤の問題などが出てきました。

地震後においても本当に全職員がかつて経験した事のない対応を迫られました。

当院でも地震や広域災害などの災害対策マニュアルは作成していたものの、現実にそぐわないことが多々あり、見直しを早急に進める必要が出てきました。

今後は災害時の医療継続をどうするか、委員会で協議を重ね、少しでも早くマニュアルを改正して、いつ来るかわからない地震に備えておく必要があると考えております。

●当委員会では、火災の想定のもと今年度は避難訓練を2回実施しました。今年度は病院の増改築工事が半分以上進み、新しい消防用設備が設置されました。今後はその設備を使用することや、動作した場合、どのような警報音が流れるのか、実際に使用してみて全職員に覚えてもらうことも必要と感じています。いままでと対応が少し変わりますので、数を重ね習得していきたいと思っております。

火災を起こさないことはもちろんですが、いざというときには職員一人一人が自分の任務をしっかりと務め、職員が一致団結して患者様の安全と医療の継続に全力を注げるよう努めてほしいと考えております。また、防災設備の使用法の習得や日頃の防災用品のチェックも重要ですので、それぞれが防災意識を高めていく必要があると思っております。

また、3月11日に発生した東日本大震災の際は、地震による訓練がしばらくの間実施していなかったこともあり、職員一人一人が何をすべきか、災害本部機能はどうあるべきか、ライフラインの確保はどうすべきかなどが課題となりました。

今回の地震では職員全員が貴重な体験をし、また、いざというときの団結力が試されました。職員の皆様には本当に様々な問題に対して臨機応変に対応頂き、この難関をクリアすることができました。本当にありがとうございました。

今後当委員会では問題点をしっかりと検証し、しっかりとした災害対策マニュアルを整備し、災害に備えたいと思っております。

<文責 伊藤建一>

看護科の委員会

教育委員会

【委員会目的】

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

【構成メンバー】

委員長 木村真貴子

副委員長 石橋由紀子

委員 永須 直美 中村勇美子 吉川ちあき 高田真紀子 蒔野 美樹
阿部 萌子 斎藤みどり 高橋 恵子 櫻谷 麻美 高橋まゆみ

【平成22年度委員会目標】

1. 中堅看護師の研修の確立

【活動内容】

<新人研修・新人教育>

○基本技術と基礎知識（4月）

「インスリン、麻薬の取り扱いについて」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて」

「胃瘻について」

「十二誘導心電図モニター装着と取り扱いについて」

「輸血確認準備について」

○心電図研修会・日本光電（6月）

○新人評価 3回（7月、12月、3月）

○糖尿病教室見学

○次年度プリセプター研修（3月）

<継続教育>

○2年目研修 ケーススタディ発表 11/4 師長主任会で発表

「胃ろう周囲のスキントラブルへのアプローチ」

2 A病棟 柴田 瞳

「腓骨神経麻痺の与える影響と腓骨神経麻痺予防について」

4 C病棟 佐藤 晃子

○卒後3年目（当院就職後含む） 手術室見学及び挿管、抜管介助 7名

○伝達講習 8/25

「タクテールケア」

4 病棟 高橋歌澄 加賀谷優紀

出席人数50名

「癌化学療法の見護について」

3 B 病棟 畠田麗子 柴田里美 高橋大樹

出席人数 50名

○ 5、10年目以降の研修 10/20

対象20名中12名の参加 欠席者はレポート提出

「プリセプターへの援助」

【平成22年度の反省】

今年度も伝達講習への出席率はよく参加率も毎回50名程度の出席を確保してきている。発表者側もいろいろ工夫を凝らし、当院ではどのように活用できるか等わかりやすい講習を行ってくれた。またグループワークはロールプレイングをはじめて試みた。身近な題材であり出席者も主催側にも楽しく勉強になったと好評だった。

<文責 木村真貴子>

看護研究委員会

構成メンバー

委員長	木村恵美子			
副委員長	藤沢 親子（4月～8月）	高本 和子（9月～3月）		
委員	小田嶋ひとみ	鈴木 智都	佐藤 陸子	佐藤さとみ
	小田嶋 梢	佐々木美智子	鈴木 美香	高橋亜由美
	照井かおる	高橋 朋子	古関亜矢子	

【平成22年度委員会目標】

看護実践での問題や疑問について研究的視点にたって解決する能力を養う。

【研究委員のあり方】

各職場の研究をサポートする

【年間活動内容】

1、看護研究研修会 8月4日 参加人数 45名

講演 テーマ「論文の書き方」

講師 秋田県立衛生専門学院 研究班 斎藤みすず先生

2、研修会参加 8月24日

～看護研究プロセス～看護研究計画書作成から論文作成・発表まで

3、院内研究発表会

日時 平成22年3月9日(水) 参加人数 55名(看護科49名・その他6名)

座長 高橋佳子 和泉奈保子

一席 「妊婦への保健指導の現状と今後の課題」 2 A病棟 田中 由江

二席 「看護師及び他職種の間滑な面談への取り組み」一連携票の検討と今後の課題一

3 A病棟 柴田 里美

三席 「当院看護師への行動制限に関する実態調査」 3 B病棟 高橋 亮子

四席 「ミエログラフィー検査の造影剤注入からCT撮影までの頭部挙上の検討」

4 C病棟 高橋 朋子

講評 秋田県立衛生看護学院 斎藤みすず先生

講演 「研究について」 講師 呼吸器内科 斎藤紀先医師

【平成22年度総括】

22年度は病院増改築により病棟編成が変更されることが予測されたため、方針が定まらないままの看護研究が開始となった。研究の専門的な指導者もいない中で取り組んだため、各部署の師長及び主任の協力を得ての開始だった。そのような中で、研究班の方たちが自主性を持って取り組み、3月の発表までこぎつけたことは、今年度の研究委員、研究班の努力の成果だったと思う。

来年度は、研究委員会のメンバーが中心となって看護研究の研修などに参加して、研究指導ができる人材を育成することを目標にしたい。

<文責 木村恵美子>

計画記録委員会

【委員会目的】

1. カルテ開示に向け、看護記録の質の向上を図る。
2. 看護計画に基づいた看護ケアを提供するため評価・修正し、看護の質の向上を図る。
患者参加型の看護計画を立案し実践する。

【構成メンバー】

佐藤セツ子	木下 文子	高橋千鶴子	高本 和子	木村真貴子	藤井 洋子
照井 洋子	高橋 礼子	高橋 佳子	下夕村優子	高橋 共子	山田 沙織
森本 和子	佐藤 悦子	高橋まゆみ	渡部 香織	武藤 夏子	熊澤あゆみ
佐藤 愛	高橋 華澄	赤川恵理子	藤谷 栄	松川かおり	須田 鮎美

【目標及び活動計画】

- | | |
|------|---|
| 目 標 | 1. 記録の簡潔・明瞭化を図る。
2. 記録の質の更なる向上を目指す。 |
| 活動計画 | (1) 看護サマリーの見直し・・・5月～7月で完成
(2) 監査用紙の見直し・・・8月～10月で完成
(3) アナムネの見直し・・・11月～3月で完成 |

【活動内容】

- (1) 看護サマリーの見直し
 - ・簡潔明瞭に主用なことのみ入力する
 - ・退院時処方については、施設入所・転院・他福祉施設等を利用する場合のみ
 - ・生活基本情報をサマリーに引用させない設定とし、退院前日に消去する作業を不要とした
 - ・日常生活の欄に、各種チューブ交換日・最終排便・最終入浴日等を入力することとした
 - ・褥瘡の項目を作成し、施設入所など継続してケアできるようにした
- (2) 監査用紙の見直し
 - ・項目に×のある箇所については、記録した看護師個人にメール等で指摘し、修正されたら○にすること
 - ・語彙の解釈が難しいため、表現を解りやすく変える（検討中）
- (3) アナムネの見直し
 - ・H23. 1月～アナムネ入力のテンプレートを修正し、看護記録画面での表示が可能となった
また重要度選択を「アナムネ」とし、簡潔に参照・追加修正が可能になった
- (その他)
 - ・透析記録は5月より電子カルテに申し送り入力開始
 - ・11月～F L初回挿入または抜去後の再挿入理由について、看護情報より選択して入力
 - ・11月～心カテーテル検査・アンギオチェックリストが患者の文書管理よりだせるようにした
 - ・12月～ペースメーカー植え込み・ジェネレーター交換のチェックリストも文書管理より出力できるようにした

<文責 藤井洋子>

感染対策リンクナース

1. 概要

市立横手病院における院内感染対策のための看護科の組織である。市立横手病院ICTと現場のつなぎ役であり、臨床現場において、科学的根拠に基づいた具体的な感染対策を実践し、患者ケアと臨床業務の質を向上させることを目的としている。

2. 感染リンクナースの役割

- ① 病院感染対策を自部署の職員に周知徹底する。
- ② 現場の感染対策上の問題点を発見しICTに報告するとともに改善するよう活動する。
- ③ アウトブレイクへの対応をICTとともに進行。
- ④ 院内定期ラウンドをICTとともに進行。
- ⑤ サーベイランスに協力する。
- ⑥ 感染防止に関する学習会・研修会に参加し、またICTとともに研修の企画・運営に参加することで知識の習得に努めるとともに部署内で役割モデルとして機能する。

3. 構成員

太田奈緒美	小川 伸	小西千穂子	佐々木美紀子	佐藤 愛
佐藤美紀子	佐藤瑠衣子	鈴木真紀子	高橋かおり	高橋 康子
高橋 大樹	高橋 智佳	丹 久美	長井美憂希	山田百合子

4. 2010年度活動内容

時期	活動内容
4月～5月	・平成22年度委員会目標の決定、行動計画書の作成
6月～7月	・感染管理手順書 尿廃棄のベストプラクティス・チェックリストを作成する
7月～8月	・尿廃棄方法についてリンクナースが手技を学ぶ ・4病棟看護師に尿廃棄方法の教育を行い教育前後の現状を把握し評価を行う
8月	・8月28・29日に仙台国際センターで行われた東北感染制御ネットワークフォーラムにて「尿排出の感染管理におけるベストプラクティスの取り組み」をポスター発表する
9月～3月	・嘔吐物の処理に関するベストプラクティスを作成し周知する ・血液、体液が床を汚染した場合のベストプラクティスを修正する
1月～3月	・定期会議の時間に、感染管理に関するミニ勉強会を企画した (リンクナース委員会の役割、手指衛生、N95マスクの着用方法)
その他	・擦式アルコール製剤の使用量調査に協力を行い各部署の手指衛生の徹底に努めた ・注射針廃棄時の感染予防の徹底に協力した ・点滴、注射準備時の感染予防の徹底に協力した

<文責 佐々木美紀子>

褥瘡対策リンクナース

【設置目的】

院内褥瘡対策の効率的な推進を図るための活動について、状況の分析、問題点の把握、計画の立案と実行、評価を共同して行う場とする。

【業務】

- 1、病棟スタッフと共に褥瘡対策の実施し、質の向上に努める。
- 2、褥瘡対策委員と共同して必要な事柄について指導を行う。
- 3、褥瘡回診に参加し院内の褥瘡に関する状況を把握する。
- 4、定例会の開催。

【構成委員氏名】

褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子
リンクナース	2病棟	佐藤 智美
	2病棟	遠藤ちづる
	3 A病棟	高橋はるみ
	3 A病棟	稲川 雅美
	3 B病棟	加賀谷優紀
	3 B病棟	柿崎 美幸
	3 C病棟	佐藤由美子
	3 C病棟	地主 愛
	4 C病棟	山石 陽子
	4 C病棟	武田フミエ
褥瘡対策委員	2病棟	松本 優子
	3 A病棟	鈴木 利恵
	3 B病棟	煙山由紀子
	3 C病棟	安藤 宏子
	4 C病棟	高橋 佳子
	訪問看護センター	佐藤 友紀

【H22年度の活動内容】

1. 褥瘡リンクナース委員会の開催
(H22年 4/23、5/26、6/30、7/29、8/24、9/21、10/20、11/25、12/22
H23年 1/28、2/24、3/29)
2. 褥瘡回診（1週間に1回）ならびにハイリスク患者カンファレンスの実施
3. 体圧分散寝具等の整備
4. 委員会だよりの発行
5. 退院時チェックリストの見直し、作成
6. 創傷処置の必要物品の購入リスト、処置パンフレットの見直し、作成
7. 処置シートの作成
8. 看護サマリー修正
9. バスタオルでの体位変換の廃止に向けての勉強会と、廃止の徹底

<文責 安藤宏子 佐藤由美子 地主 愛>

師長主任会議

業務、看護科の諸問題、勉強会を取り入れ意見交換の場をしている。

- 目的 1、看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。
- 内容 1、業務手順に関すること
2、看護科の諸問題を討議し、決議する
- 構成 21名（総看護師長 副総看護師長 看護師長7名 看護主任12名）
- 会議 月初め1回
-
- 内容 4月 精神看護研修の伝達講習
5月 新病棟へ移転して 差額ベッドについて
6月 ①事業管理者より病院経営について
②病棟運営について
7月 ①平成22年度日本看護協会通常総会・全国看護師職能集会報告
②留置針固定状況・調査結果の報告
③医療安全対策よりインシデントレポートシステムについて
8月 ①医療安全より異常時指示の取り扱いについて
②9月からの看護体制について
11月 教育委員会主催：2年目看護師ケーススタディ2名発表
12月 東北厚生局監査（12月2日実施）の結果
担当者より報告
（総看護師長・副総看護師長・褥瘡管理担当・医療安全・感染管理）
- H23・1月 看護補助者増員に伴う看護師の業務改善について
2月 平成22年度秋田県病院協会看護管理研究部会 第2回研修会報告
3月 ①特定看護師について
②医療安全・感染管理より

<まとめ>

3月病院機能評価受審（ver.6.0）し8月認定証を受ける事ができ、チーム医療の重要性を再確認した。看護科全体として高い評価を頂いたことは非常に嬉しい。12月東北厚生局監査ではそれぞれの分野で対応し、指摘もありましたが更にレベルアップしていく必要性を強く感じた。

<文責 木村カズ子>

主任会議

【目的】 1. 看護業務に関する諸問題を検討し、看護業務の円滑を図る。

【内容】 1. 業務改善に関する事。
2. 看護手順に関する事。
3. 師長会への提案及び答申。

【構成】 看護科主任
佐藤 昌悦 小田嶋恵美子 照井 洋子 佐々木佳子 石橋由紀子
下夕村優子 高橋 礼子 和賀美由紀 高橋 佳子 和泉奈保子
高橋 共子 小川 伸 佐藤美夏子

【会議】 月1回（原則的に第2月曜日）

【平成22年度主任会目標】

1. マニュアルの見直しをし、安全で質の高い看護を提供する。
2. 看護業務の現状分析と問題点を把握し、業務改善につなげる。

【目標の反省】

1. ポケットマニュアルの必要箇所の見直しと訂正は終了した。震災のため4月までの配布ができなかった。
2. 現状分析のためのワークシートを作成し、各病棟の現状分析に取り掛かる手がかりとした。

【一年間のまとめ】

機能評価を終え、ほっとしたところでスタートしたH22年度の主任会だった。

看護科のマニュアル作成に関わっていることで、随時見直しや改訂をすることが必要と考え、活動した。数多い看護科のマニュアルの中で、ケア・検査・継続看護のマニュアルを担当し、副主任会と作業分担し副主任会への連絡と作業調整をした。また日常的に使用するポケットマニュアルの見直しも行ない、改訂とさしかえの作業を行った。

H22年度の看護科の目標であった業務改善についても主任会で取り組んだ。まずは各現場（特に病棟）の現状分析が必要と考えた。春からの各部署の引っ越しや9月からの5病棟でのスタートなど多忙で複雑化していた現状を把握する必要があると考えた。各科で出ている問題を主任会に持ち寄り検討、10月～12月にかけては各病棟でのデータ収集を行い検討した。マウスケアや清拭などの清潔ケアや排泄ケアに要する時間が多いこと、ケアに必要な看護者人数が足りていないなどのデータも出た。

今後も師長会との連携を密にし、スタッフからの意見の取りまとめ役として業務改善へ向けての取り組みが重要になってくると思われる。

<文責 高橋礼子>

助産師会議

【目的】

1. 妊娠・分娩・産褥を安全に過ごすための援助をする
2. 母子相互作用を高めるための援助をする
3. 母子とその家族のためにニーズに基づいた看護を提供する
4. 快適な入院環境を整える
5. 産後ケアの充実
6. 母乳育児を推進する

【概要】

構成員は2 A病棟助産師を主に、病棟師長・主任、産婦人科医師を含め構成されている。産婦人科外来、病棟内での検討事項や勉強会を行い、母児へのケアの充実に努めている。

平成20年度からは、秋田県立衛生看護学院助産科の臨地実習病院として学生への指導にあっている。

【平成22年度 目標とその反省】

- ・ 母親学級の内容検討及び改定を行い、実用化に向けた準備をすすめる
- ・ 母乳育児への関心・知識を深め、指導にあたることのできる

母親学級での指導内容を検討し、妊娠・出産・産褥での統一した指導が行えるよう内容の改定ができた。次年度には実用化に繋げることができるようになった。

母親学級の内容変更に伴い、母乳育児に対する勉強会や研修会への参加もあった。妊娠期から妊婦への指導、産褥期では完全母乳になる褥婦も多く、母乳育児への関心が伺える。今後も学びを深め、指導にあたっていきたい。

【開催日及び検討事項・勉強会】

平成22年3月24日

病院増改築後の病棟編成と業務改善について
母親学級内容改定について
助産業務に関するスキルアップ研修会報告・勉強会

平成22年11月16日

病棟内、使用薬剤（主に分娩時・新生児使用薬剤）の変更について
婦人科化学療法について
褥婦への提供食事について
出産一時金について
母乳育児に対する注意事項・勉強会

平成22年12月6日

褥婦への食事提供について 「いずみ」担当者との話し合い

出席者；総師長 総務課局長代理 いずみ担当者 食養科原田 木下師長 佐藤悦子

平成23年2月24日

光線療法での新器材について・勉強会

婦人科でのクリティカルパス運用について

平成23年5月13日

婦人科での使用薬剤のジェネリック化について

母親学級の内容変更と運用について

平成23年度助産科実習受け入れについて

<文責 鈴木智都>

看護補助者会議

構成 31名（看護補助者19名 業務員12名）

増築棟完成と病棟編成に伴い看護補助者・業務員を増員し、看護補助者そのもののレベルアップと組織人としての自覚に向け、年間研修スケジュールを計画し看護補助者研修を実施した。看護教育を受けた立場と違った対象者でもあり、その業務を行う上での対象は、患者の療養上の世話であったり、診察補助であったり、器械器具であったりと受講者の状況が異なっている。講師担当は看護科だけでなく、患者移送移乗（リハビリ）・ポジショニング（WOC）・標準予防策（感染管理担当）など実技も取り入れ真剣に取り組み、それぞれ組織人として非常に学習意欲があり、研修効果が得られたと実感している。

受講者の意見、感想も踏まえて次年度につなげていきたい。

平成22年度看護補助者研修

	開催月	内容	担当	参加人数
1	4/16	個人情報保護研修会 「教えて！住田弁護士」DVD	総師長 木村カズ子	24名
2	5/18	移送移乗（実技）	理学療法士 小田嶋尚人	21名
3	6/14	働く女性が身を守る研修会	横手警察署	30名
4	6/29	食事介助	言語聴覚士 古関佳人	24名
5	7/22	褥瘡予防のケア（体圧分散・ずれ）	WOC 佐藤美夏子	19名
6	8/6	一次洗浄について	看護師長 高本和子	17名
7	9/14	看護チームの一員としての看護補助者業務について	総師長 木村カズ子	25名
8	10/22	標準予防策の実践に向けて	感染担当 小川伸	26名
9	10/25	口腔ケアについて	業者・看護師担当	25名
10	12/27	看護補助者業務について（1回目）	総師長 木村カズ子	25名
11	2/3	看護補助者業務について（2回目）	総師長 木村カズ子	25名
12	2/16	接遇研修会	SRL	23名

＜文責 木村カズ子＞

學術研究業績

院内 <医局勉強会>

- 平成22年4月 外傷初期の診療・・・・・・・・・・・・・・・・若林 俊樹（外科）
- 平成22年4月 脂肪製剤・・・・・・・・・・・・・・・・小宅 英樹（薬剤科）
- 平成22年5月 半固形栄養材の有用性について・・・・・・・・船岡 正人（消化器内科）
- 平成22年5月 高齢者の薬物治療について・・・・・・・・和泉千香子（循環器内科）
- 平成22年6月 5大がん地域連携クリティカルパスについて・・・・藤盛 修成（消化器内科）
- 平成22年6月 2010年度後発品に関する主な改定と付加価値型GE・・佐々木洋子（薬剤科）
- 平成22年7月 症例から学ぼう X線読影術・・・・・・・・・・泉 純一（放射線科）
- 平成22年7月 新しい予防接種・・・・・・・・・・・・・・・・小松 明（小児科）
- 平成22年9月 がん救急・・・・・・・・・・・・・・・・粕谷 孝光（外科）
- 平成22年9月 卵巣がん SSPCについて・・・・・・・・・・畑沢 淳一（産婦人科）
- 平成22年10月 PK理論の臨床的応用 反復投与における血中動態を中心に
・・・・・・・・・・・・・・・・石田 良樹（薬剤科）
- 平成22年10月 排尿障害の診療の実際・・・・・・・・・・伊藤 卓雄（泌尿器科）
- 平成22年11月 子宮頸癌の予防 検診と予防ワクチンについて・・佐々木満枝（産婦人科）
- 平成22年12月 自己血輸血について・・・・・・・・・・江畑公仁男（整形外科）
- 平成23年1月 CPA症例のCTについて・・・・・・・・・・平野 弘子（放射線科）
- 平成23年1月 カプセル内視鏡について・・・・・・・・・・荒田 英（消化器内科）
- 平成23年2月 フルニエ症候群について・・・・・・・・・・本郷麻依子（外科）
- 平成23年2月 ICTに参加して・・・・・・・・・・渡邊 圭子（薬剤科）
- 平成23年3月 群発頭痛の診断と治療・・・・・・・・・・塩屋 斉（脳神経内科）
- 平成23年3月 救急外来での腹部超音波検査・・・・・・・・武内 郷子（消化器内科）

平成22年 学術発表						
No.	月日	学会名	開催地	演題	発表者	
1	5月20日	第51回 日本神経学会総会	東京都	正攻法の頭痛診療 頭痛外来の真骨頂:問診と説明	医局	塩屋 芥
2	11月22日	第72回 日本臨床外科学会総会	横浜市	肛門外脱出したS状結腸癌に対し自動吻合器を用い経肛門的腸切除術を施行した1例	医局	加藤 健
3	4月	Japanese Journal of Radiology		Computed tomography findings of spontaneous perforation of pyometra	医局	泉 純一
4	2月5日	第25回 日本環境感染症学会	東京都	赤痢アウトブレイクに対する対応〜情報管理とイベルメクチン早期投与の推奨	医局	齋藤 紀光
	6月12日	第35回 日本交流分析学会	名古屋	術後肺癌患者におけるSTPHおよびSGBを用いた心身医学的評価		
	6月18日	日本緩和医療学会学術大会	東京都	術後肺癌患者の慢性的症状に対する抑うつおよび不安検査心理テストの有用性について		
	9月24日	第23回 日本サイコオンコロジー学会	名古屋	術後慢性的症状を訴える肺がん患者に対する心理テストを用いた抑うつ・不安の評価と交流分析的評価の試み		
	11月20日	第15回 日本心療内科学会	岡山市	術後慢性的症状を訴える肺がん患者に対する心理テストを用いた抑うつ・不安の評価と交流分析的評価の試み		
5	11月23日	第72回 日本臨床外科学会総会	横浜市	特異性大腸捻転に対し腹腔鏡下切除術を施行した一例	医局	若林 俊樹
	4月	日本外科系連合会誌 第35巻2号		S状結腸憩室炎による結腸腸管瘻の1例		
6	2月6日	日本消化器病学会 東北支部例会	仙台市	腸管気腫症を伴った門脈ガス血症4例の検討	医局	渡部 昇
	9月26日	日本超音波医学会 第40回東北地方学術集会	仙台市	乳癌術後の肺転移の二例 - 造影超音波所見を中心に -		
	10月14日	JDDW2010 (日本消化器関連学会週間2010)	横浜市	当院における早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(BSD)の検討		
7	2月6日	日本消化器病学会 東北支部例会	仙台市	胆石イレウスの一例	医局	木下 幸寿
	10月14日	JDDW2010 (日本消化器関連学会週間2010)	横浜市	当院における上部消化管出血の検討		
8	11月21日	臨床外科学会	横浜市	S状結腸憩室炎による結腸腸管瘻の1例 (若林医師作成のものを元に本脚医師が発表するというもの)	医局	本脚 麻依子
9	11月20日	第15回 日本心療内科学会	岡山市	認知行動療法を用いて改善を認めた難治性めまいの1症例	医局	荻原 真実
10		Journal of Clinical Ultrasound vol.38 No.9 November/December 2010		Mobile echoes in liver cysts : A form of range-ambiguity artifact	医局	中島 裕子
11	10月14日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	簡易懸濁法導入に伴う看護の課題	看護科	佐藤 さとみ 佐々木 文子
12	5月23日	第20回 日本臨床工学会	横浜市	訪問看護患者に対する在宅ベースメカフォローアップの試み	ME室	柏谷 肇
13	10月14日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	小児頭部CTにおける撮影条件の最適化	診療放射線科	佐藤 裕基
14	4月11日	日本放射線技術学会 第66回総会学術大会	横浜市	CT colonographyにおけるElectronic Cleansingの基礎的検討	診療放射線科	法花堂 学
	10月30日	平成22年度 日本放射線技術学会 東北地域学術大会	盛岡市	医療被ばく低減施設認定への取り組み		
15	3月14日	日本超音波医学会 第39回東北地方学術集会	仙台市	門脈による車輪状血管構築を示した高分子化肝細胞癌の一例	臨床検査科	大嶋 聡子
	10月14日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	門脈による車輪状血管構築を示した高分子化肝細胞癌の一例		
16	10月14日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	Sezary症候群の1症例	臨床検査科	工藤 真希子
17	5月29日	日本超音波医学会 第83回学術集会	京都市	肝静脈血栓を伴った肝腫瘍の一例	臨床検査科	小丹 まゆみ
18	1月30日	日本臨床微生物学会	東京都	Gemella morbillorumによる肺化膿症の1症例	臨床検査科	佐々木 結子
	10月9日	第51回 東北医学検査学会	八戸市	当院で分離されたHaemophilus influenzaeの細菌学的検討		
19	10月15日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	食事サービスの取り組み(ポスター発表)	食養科	原田 優子
20	8月29日	東北感染制御ネットワークフォーラム	仙台市	尿排出の感染管理ベストプラクティスの取り組み	医療安全管理室	小川 伸
	10月15日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	尿道留置カテーテルの適正使用に向けての取り組み		
	10月	看護技術2010 Vol.56 No.12 臨時増刊号		透析室の感染予防		
21	10月14日	第49回 全国自治体病院学会	秋田市	重症化をきたし入院した下顎部褥瘡の1症例	医療安全管理室	佐藤 美夏子
22	8月26日	第51回 日本人間ドック学会学術大会	旭川市	二次検診受診率向上のためのアプローチ	健康管理センター	佐藤 恵美子ほか

同好会活動

野球部

今年度は年間で唯一の公式戦である病院対抗野球大会（県南予選）が雨天中止となった。活動として練習試合3試合や上記の大会に向けた練習を行った。部員数が少なく、活動もなかなかできないが、来年度は部員全員で協力して精力的に活動に取り組んでいきたい。

試合結果

7/24	公式戦	病院対抗野球大会	中止
8/8	練習試合	対 マイナース	× 2-7
8/24	練習試合	対 J Aガソリンスタンド	× 5-10
10/23	交流戦	対 大森病院	× 9-11

<文責 熊谷 剛>

バレーボール部

平成22年度は病院増改築に伴い、各部署多忙であったため十分な練習を行うことが出来なかった。また、目標とした対外試合は実行することができず残念だった。

しかし、多忙の中でも9月に行われた全県病院対抗バレーボール大会には参加することが出来た。大会出場に向けて練習日程を立てたが、毎回参加者そろっての練習はできずに挑んだ大会だった。決勝トーナメントには進むことができなかったが、練習不足にも関わらず予選リーグ1勝1敗の勝敗は納得のいくものだった。

来年度は、全県病院対抗バレーボール大会への参加を目標とし、決勝トーナメントへ進めるように練習していきたい。

<文責 木村恵美子>

職員等互助会

職員等互助会

概 要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

役員氏名

会長 藤盛 修成
副会長 郡山 邦夫
幹事 佐藤 俊幸、平塚多喜雄、原田 優子、高本 和子、
丹 厚子、後藤美佐子
監事 木村カズ子、浮嶋 優子
事務 佐藤 潤

22年度に実施した主な病院行事等

○平成22年4月22日 職員歓送迎会 松與会館 参加者96名

実行委員長 和泉千香子

実行委員 佐藤 裕基、渋谷 美紀、谷川 裕子、長瀬 知子、川越 真美、
菅原奈緒子、武田フミエ、加賀谷優紀、小田嶋 梢、藤沢 親子、
和泉奈保子、阿部千鶴子、石塚 紫、菊池 智子

○平成22年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者71名

実行委員長 佐々木 研

実行委員 郡山 邦夫、熊谷 剛、柿崎 幸、佐々木美奈子、細川 陽子、
佐々木 綾、佐藤 晃子、熊澤あゆみ、武藤 夏子、丹 厚子、
中村勇美子、伊藤 建一、杉田 健一、高橋由起子、佐藤恵美子

○平成22年9月11、25日・10月14、16、22、30日・11月6日

研修旅行 仙台、気仙沼、東京 参加者117名

実行委員長 若林 俊樹

実行委員 岡根 和義、古関 佳人、小川由起子、平塚多喜雄、藤原 由香、
高橋麻理子、蒔野 美樹、高橋 亮子、佐藤 郁美、和賀美由紀、
柿崎 拓磨、亀谷 良文、伊藤有希子、石山 博幸、加藤 亜樹

○平成22年12月17日 大忘年会 横手セントラル 参加者192名

実行委員長 佐々木満枝

実行委員 細谷 謙、花脇 加奈、小宅 英樹、大嶋 聡子、幕沢 美紀、
佐藤 睦子、柴田 里美、佐々木孝子、高橋加美子、深沢 美里
鈴木 真紀、佐々木美紀子、菊池 優、谷口 明美、千葉 崇仁、
松浦 喜美

○平成22年12月23日 白衣のクリスマスコンサート

実行委員長 斎藤 大成

実行委員 藤原 理吉、渋谷 美紀、近江真梨子、田中 清美、幕沢 美紀、
木村カズ子、森本 和子、鈴木 利恵、下夕村優子、矢野多智子、
武田フミエ、谷藤 文子、柿崎 拓磨、佐々木佳子、高橋真知子、
田中 大輔、鈴木久美子

○サークル補助等 1件

○慶弔給付 結婚祝金 10件、弔慰金 18件、退職報償金 11件

<文責 藤木正文>

編集後記

懸案であった2度目の病院機能評価は無事に乗り越えることができた。病院増改築工事は、と言えば、H23年3月で終わる予定であったが、未だに小児科近辺は大音響の中である。患者さんの声が聞こえないこともしばしばで、筆談でも必要か?と考えるほどである(笑)。早く静かな環境下での診察に戻りたいものだ。

夜間、休日などの日当直業務で重責を担ってきた臨床研修医に関してであるが、今までの繁栄が嘘のように来年度はその数が少ない。最盛期は11人を誇り、研修医室に入りきれなかったものだったが、来年度はたった二人のみである。また、消化器内科医に関しても来年度早々に一人が開業し、同年度で後期研修医二人の研修が終了する。翌年にも後期研修医一人の研修が終了するため、隆盛を極めた消化器科も人数的には臨床研修医制度開始前のレベルに戻ってしまうのだ。病院が出来上がったあかつきには、一人でも多くの臨床研修医に来てもらえるような努力をせねばなるまい。待っているだけ、では先は見えている。